

平成 26 年度

APSSA2014 日本大会

実施日	平成 26 年 8 月 7 日(木)～8 月 10 日(日)																																																																
実施先	同志社大学 今出川キャンパス																																																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>熊本学院大学</td> <td>1</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>31</td> <td>50</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">その他 52 人</p>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	11	7	17	松山大学	1	9	1	京都外国語大学	5	8	1	広島経済大学	3			山口大学	1	7	1	香川大学	1			九州国際大学	1	5		佐賀大学	1			追手門学院大学	2	5	1	愛知みずほ大学	2			熊本学院大学	1	5		山口学芸大学	2			京都文教大学		1		京都光華女子大学		3		合計	31	50	21
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																														
愛媛大学	11	7	17																																																														
松山大学	1	9	1																																																														
京都外国語大学	5	8	1																																																														
広島経済大学	3																																																																
山口大学	1	7	1																																																														
香川大学	1																																																																
九州国際大学	1	5																																																															
佐賀大学	1																																																																
追手門学院大学	2	5	1																																																														
愛知みずほ大学	2																																																																
熊本学院大学	1	5																																																															
山口学芸大学	2																																																																
京都文教大学		1																																																															
京都光華女子大学		3																																																															
合計	31	50	21																																																														
研修の目的 および 研修の概要	<p>【プログラム目的】 多様な意見や価値を取り入れながら、社会的課題にクリエイティブにアプローチしていく能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【プログラム概要】 APSSA2014 日本大会のテーマである、Transforming Experience（経験の変容・転換）を理解し、社会で実践していくためのプログラムである。現代のグローバルな課題をテーマごとの切り口により探求し、仲間と討議し、プレゼンテーションを行う活動を通して多様な意見や価値を取り入れながら、社会的課題にクリエイティブにアプローチしていく手法を身に着けるプログラムである。 事前研修では、教職員が準備する研修と学生の自主研修を通して英語コミュニケーションスキル向上、担当テーマに関する知識と英語表現の習得に努める。</p> <p>〈各地域の担当テーマ〉 四国地域（環境：食糧、エネルギー、温暖化など） 九州地域（経済：政治、政策、世界のリーダー、貧困など） 中国地域（教育：教育、思想、宗教など） 関西・中部地域（平和：スポーツ、人権、文化など） 学生スタッフは、大会期間中ディスカッションや発表準備のファシリテーション等を務める。</p>																																																																

<p>プログラムの到達目標</p>	<p>(1) グローバルな課題を 4 つのテーマに分類し、それぞれのテーマについて英語でディスカッションすることができる。</p> <p>(2) 4 つのテーマに分類したグローバルな課題のうち、1 つのテーマについて、「課題解決に向けて自分を変容するにはどのような経験を大学時代にすれば良いか」を考え、英語でプレゼンテーションすることができる。</p>																														
<p>プログラムの具体的な内容・実施日程</p>	<p>1. スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="411 506 1348 1032"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">8月6日 (水曜日)</td> <td>7:00</td> <td>愛媛大学 出発</td> </tr> <tr> <td>13:00～16:00</td> <td>学生スタッフ事前打合せ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">8月7日 (木曜日)</td> <td>13:30～15:00</td> <td>ワークショップ (チームビルディング)</td> </tr> <tr> <td>15:10～15:50</td> <td>教職員スタッフ・ミーティング</td> </tr> <tr> <td>16:00～16:40</td> <td>問題抽出&問題提起</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">8月8日 (金曜日)</td> <td>10:30～11:10</td> <td>ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>11:20～12:00</td> <td>問題の選定</td> </tr> <tr> <td>13:30～14:10</td> <td>リサーチ</td> </tr> <tr> <td>14:20～15:00</td> <td>プレゼン準備</td> </tr> <tr> <td>8月8日 (金曜日)</td> <td>15:30～17:00</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>8月8日 (金曜日)</td> <td>13:30～14:30</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 主立った取組内容</p> <p>参加者は、4 つのテーマに分かれグローバルな課題に対してリサーチを行い、グループごとにプレゼンテーションを行う。さらに、最終日には Summary Discussion において、テーマごとにまとめたプレゼンテーションにつなげていく。</p> <p>①ワークショップ 体を動かしながらチームビルディングやリーダーシップ養成につなげていくことができる活動を行う。</p> <p>②レクチャー テーマごとに分かれたテーマについてレクチャーを受けることによって、テーマごとの課題の概要を理解する。</p> <p>③ディスカッション レクチャーによって理解した課題を基に、グループディスカッションを行う。</p> <p>④問題の選定 ディスカッションによって挙げられた問題の中から、グループの取り上げる課題を選定する。</p> <p>⑤リサーチ 選定した課題についてリサーチを行い、内容を充実させる。</p> <p>⑥準備 プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>⑦テーマごとプレゼンテーション グループごとに作成したプレゼンテーションを発表する。</p> <p>⑧テーマ別プレゼンテーション 各会場の最も優れたグループ (4 グループ) は、全体会にてプレゼンテーションを行い、総括とする。</p>	日程	時間	取組内容	8月6日 (水曜日)	7:00	愛媛大学 出発	13:00～16:00	学生スタッフ事前打合せ	8月7日 (木曜日)	13:30～15:00	ワークショップ (チームビルディング)	15:10～15:50	教職員スタッフ・ミーティング	16:00～16:40	問題抽出&問題提起	8月8日 (金曜日)	10:30～11:10	ディスカッション	11:20～12:00	問題の選定	13:30～14:10	リサーチ	14:20～15:00	プレゼン準備	8月8日 (金曜日)	15:30～17:00	プレゼンテーション	8月8日 (金曜日)	13:30～14:30	プレゼンテーション
日程	時間	取組内容																													
8月6日 (水曜日)	7:00	愛媛大学 出発																													
	13:00～16:00	学生スタッフ事前打合せ																													
8月7日 (木曜日)	13:30～15:00	ワークショップ (チームビルディング)																													
	15:10～15:50	教職員スタッフ・ミーティング																													
	16:00～16:40	問題抽出&問題提起																													
8月8日 (金曜日)	10:30～11:10	ディスカッション																													
	11:20～12:00	問題の選定																													
	13:30～14:10	リサーチ																													
	14:20～15:00	プレゼン準備																													
8月8日 (金曜日)	15:30～17:00	プレゼンテーション																													
8月8日 (金曜日)	13:30～14:30	プレゼンテーション																													



【アンケート結果】

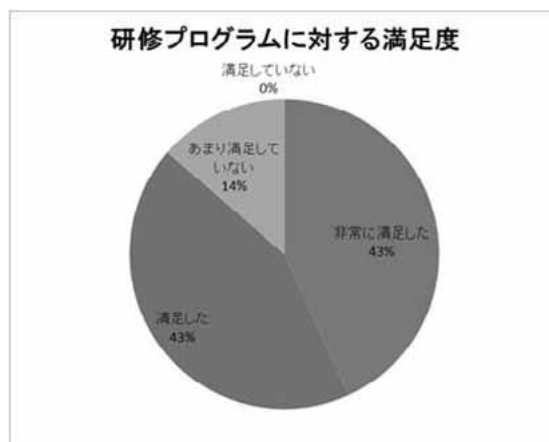
参加者 48 名、アンケート提出者 44 名、回収率 90%

〈学年・性別〉

- 1 年・・・ 4 名（男性 3 名、女性 1 名）
- 2 年・・・14 名（男性 10 名、女性 4 名）
- 3 年・・・13 名（男性 4 名、女性 9 名）
- 4 年・・・ 9 名（男性 3 名、女性 6 名）
- 大学院 1 年・・・0 名
- 大学院 2 年・・・4 名（男性 4 名、女性 0 名）

プログラムの
成果

〈研修プログラムに関する満足度〉





非常に満足した	19 名
満足した	19 名
あまり満足していない	6 名
満足していない	0 名

	<p>〈回答理由〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ APSSA という名誉ある国際大会で「平和」のテーマファシリテーターをさせていただけたから（このような貴重な経験を積ませていただいたことに心から感謝します）。学ぶことは非常に多くありました。一生の財産です。 ・ アイスブレイクで最初に打ち解けて、お互いに話しやすくなって、その後の活動に取り組みやすかった。内容的にも活動と講義とで様々なことを学べた。 ・ アジア各国から北同年代の人と平和というテーマで様々なアイデアや意見を共有できた。ディスカッションをする中で個々の思いやモチベーションを近づけ、1つのものにする難しさを感じた。 ・ この APSSA に参加するために、準備の段階で英語を勉強する姿勢を磨けたり、努力することができた。APSSA に参加するという目的があったからこそ、できたことである。また、本番では、いろいろな大学から参加した学生や、海外から来た人たちと多くの関わりをもつことができ、様々な価値観に触れることができた。学生スタッフとしてファシリテータを務めたことは、自分自身のものとなり、しっかり物として吸収できたと思う。今後の大学生活についてためになるようなことがたくさんできた。 ・ このプログラムに参加できたことそして、多くの仲間に出会え様々な考えに触れ、自分の考えを発展していったことに関してはとても満足しましたが、自分自身もっと活発に行動できなかつたところが、自分自身に対して満足いかなかった。
報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝

平成 26 年度

あなたの「夢」を番組で語ってみませんか？

報告者	香川大学生涯学習教育研究センター准教授 山本 珠美		
実施日	平成 26 年 8 月 20 日～21 日		
実施先	香川大学、FM815		
参加者	大学名	教職員	学生
	香川大学	2	6
	山口大学		1
	合計	2	7
講師	香川大学生涯学習教育研究センター准教授 山本 珠美		
完了報告	香川大学の正課外活動「デキル大学生になろう」（キャリア支援センター）の実践講座では、昨年度同様 FM 高松コミュニティ放送（FM815）のラジオ番組“香大生 presents : Art Time Junction～ぼくらの未来見学会～”を制作しているが、その本年度第 5 回目の収録を山口大学生とともにいった。初日に番組企画案の作成、2 日目に収録した。		
<p>【プログラム到達目標】 2013 年度瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクトの一環として制作した FM 高松コミュニティ放送（FM815）の番組“香大生 presents : Art Time Junction～ぼくらの芸術祭～”の後継番組“香大生 presents : Art Time Junction～ぼくらの未来見学会～”（放送日：9 月 3 日 22:00～22:30）に出演、未来の夢について語り合う。</p> <p>【プログラム概要】 2 日間のスケジュールは以下の通り。 ・ 8 月 20 日（水）香川大学 13:00～14:00 プログラム趣旨説明 14:00～15:00 アイスブレイク：ゲームを通して「正確に伝える」方法を考える 15:15～17:15 番組企画案の作成：番組を前半後半に分け、企画を考える 17:30～ 交流会 ・ 8 月 21 日（木）FM815 スタジオ 10:00～13:00 番組収録</p> <p>【プログラム内容および学生の感想】 1 日目は積木を使ったコミュニケーションゲームをアイスブレイクで行い、「言葉のみで正確に伝えること」の難しさを体験し、どうすれば自らの発言を正確に他者に理解してもらえるかについて考えた。続いてポストイットを用いたラベルワークをしながら、番組企画を考えた。 2 日目は初日に考えた番組企画について最終確認を行いつつ、スタジオの収録機材の使い方について学んだ。最後に番組を収録した。参加した山口大学工学部 2 年の渡邊美希さんからは「来年も参加したいのでぜひ継続して下さい」との感想を頂いた。</p>			
			
[8 月 20 日（水）香川大学にて番組企画会議]		[8 月 21 日（木）FM815 にて収録]	

平成 26 年度

やりたい仕事創造学校

報告者	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 山中 亮																								
実施日	平成 26 年 8 月 20 日（水）～8 月 22 日（金）																								
実施先	松山市野外活動センター レインボーハイランド 〒799-2648 松山市菅沢町乙 280 番地																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>*中学生 12 人、ステークホルダー：理解ラボ 3 人</p>	大学名	教職員	学生スタッフ	愛知みずほ大学		2	九州国際大学	1	1	山口大学		1	愛媛大学	3	6	松山大学		2	佐賀大学	1		合計	5	12
大学名	教職員	学生スタッフ																							
愛知みずほ大学		2																							
九州国際大学	1	1																							
山口大学		1																							
愛媛大学	3	6																							
松山大学		2																							
佐賀大学	1																								
合計	5	12																							
完了報告	<p>中学生が 3 班に分かれて活動し、将来の夢や仕事についての考えを醸成することを支援する。中学生同士でのゲームやディスカッション、大学生・社会人講師との対話を通して中学生の成長を促した。また 1 日目と合宿終了時に指導者からのフィードバック、メンバー間での批評的な振り返りによりリーダーシップを養った。</p>																								
<p>【プログラム概要】 中学生が 3 班に分かれて活動し、将来の夢や仕事についての考えを醸成することを支援する。中学生同士でのゲームやディスカッション、大学生・社会人講師との対話を通して中学生の成長を促した。また 1 日目と合宿終了時に指導者からのフィードバック、メンバー間での批評的な振り返りによりリーダーシップを養った。</p> <p>【プログラム内容】 詳しい活動内容は次の通りである。</p> <p style="text-align: center;">「やりたい仕事創造学校」研修スケジュール</p> <p>◆1 日目〈8 月 20 日（水）〉前泊</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13:00</td> <td>愛媛大学集合・出発</td> </tr> <tr> <td>13:30</td> <td>レインボーハイランド到着、施設確認</td> </tr> <tr> <td>14:00</td> <td>本番の流れの確認</td> </tr> <tr> <td>18:00</td> <td>夜食</td> </tr> <tr> <td>19:00</td> <td>最終打ち合わせ、物品準備</td> </tr> </tbody> </table>		時間	内容	13:00	愛媛大学集合・出発	13:30	レインボーハイランド到着、施設確認	14:00	本番の流れの確認	18:00	夜食	19:00	最終打ち合わせ、物品準備												
時間	内容																								
13:00	愛媛大学集合・出発																								
13:30	レインボーハイランド到着、施設確認																								
14:00	本番の流れの確認																								
18:00	夜食																								
19:00	最終打ち合わせ、物品準備																								

◆2日目〈8月21日(木)〉本番1日目

時間	内容
10:00	愛媛大学〈城北キャンパス〉集合、バス移動
10:30	レインボーハイランド到着
10:40	開校式
11:00	アクティビティ①
12:30	昼食
13:30	アクティビティ②
19:00	夜食

◆3日目〈8月22日(金)〉本番2日目

時間	内容
8:00	朝食
9:00	アクティビティ③
12:30	昼食
13:30	アクティビティ④
16:00	閉校式
16:30	バス移動
17:00	愛媛大学〈城北キャンパス〉解散、片づけ後スタッフ振り返り



平成 26 年度

学生リーダーズ・サマースクール

報告者	愛媛大学教育学生支援部教育企画課 林 真輝																																																																								
実施日	平成 26 年 9 月 9 日（火）～11 日（水）																																																																								
実施先	愛媛県松山市中島 中島 B&G 海洋センター及び姫ヶ浜ビーチ																																																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>高知大学</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>熊本学園大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>島根大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	4	7	3	松山大学	1	1	5	高知大学			6	愛知みずほ大学	1		2	京都外国語大学	2	4	9	京都文教大学	1	3	13	九州国際大学	1	5	7	広島経済大学	1		9	香川大学	1		2	佐賀大学	1	1	2	山口大学	1		7	熊本学園大学			1	島根大学	1		1	追手門学院大学	1	4	11	山口学芸大学			3	摂南大学	1			合計	17	25	81
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																																						
愛媛大学	4	7	3																																																																						
松山大学	1	1	5																																																																						
高知大学			6																																																																						
愛知みずほ大学	1		2																																																																						
京都外国語大学	2	4	9																																																																						
京都文教大学	1	3	13																																																																						
九州国際大学	1	5	7																																																																						
広島経済大学	1		9																																																																						
香川大学	1		2																																																																						
佐賀大学	1	1	2																																																																						
山口大学	1		7																																																																						
熊本学園大学			1																																																																						
島根大学	1		1																																																																						
追手門学院大学	1	4	11																																																																						
山口学芸大学			3																																																																						
摂南大学	1																																																																								
合計	17	25	81																																																																						
講師	カヌー講師 松山市中島 B&G 海洋センター B&G 海洋性レクリエーション指導員（AD） 立川 雅士																																																																								
完了報告	<p>本研修は、6 名程度のチームに分かれ、物資や情報が限られた状況において、仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組み、最終目標に向かって活動する。その後、それぞれの言動について、指導者からフィードバックを受けるほか、メンバー間で批評的に振り返る。それらの過程を経て、リーダーシップを養う。</p> <p>メンバー間や学生スタッフ、教職員からのフィードバックにより、自分の言動について、改善の気づきを得る学生や学生スタッフが多く確認できた。</p>																																																																								
<p>【プログラム目的】</p> <p>自分の役割を認識しながら、変化する状況に対応できる実践的なリーダーシップを身につける。追い込まれた状況の中で生き抜く力を養う。</p>																																																																									

【プログラム到達目標】

野外でのチーム活動などを通して

- 1) チーム内の役割を理解して、状況にふさわしいリーダーシップ発揮することができる。
- 2) 自己の経験や他者からの評価を通して、自己を客観的に振り返ることができる。
- 3) 良好な人間関係に配慮しながら目標達成のために仲間の成長を促す働きかけをすることができる。
- 4) チーム活動を通して、新しい自分を発見することができる。

【プログラム概要】

本研修は、6名程度のチームに分かれ、物資や情報が限られた状況において、仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組み、最終目標に向かって活動する。その後、それぞれの言動について、指導者からフィードバックを受けるほか、メンバー間で批評的に振り返る。それらの過程を経て、リーダーシップを養う。

【プログラム内容】

全体スケジュール

9/9 (火)	8:00	参加者受付開始/教職員スタッフミーティング
	8:30～9:00	あいさつ・説明会
	9:30～11:30	移動(愛媛大学→大浦港)
	12:30～13:00	オープニングセレモニー
	13:00～17:00	アクティビティ1(テント張りや食料収集)
	17:00～20:00	夕食
20:00～21:00	振り返り	
9/10 (水)	8:30～10:00	カヌー練習
	10:00～12:00	アクティビティ2(旗・Tシャツプレゼン/カヌーリレー)
	12:00～16:00	アクティビティ3(宝探し)
	17:00～18:00	振り返り
	18:00～20:30	夕食(BBQ)
	20:30～21:30	キャンプファイヤー
9/11 (木)	8:00～9:00	片付け/清掃
	9:00～10:00	フリータイム
	10:30～11:00	クロージングセレモニー
	11:45～13:10	移動(大浦港→愛媛大学)
	13:40～16:00	振り返り
	17:00～20:00	懇親会

【活動の様子】

①前日ミーティング



②受付



③フェリー移動



④全体会



⑤アクティブティ



⑥テント張り



⑦カヌーレース



⑧チーム旗作成



⑨スタッフミーティング



⑩振り返り I



⑪振り返り II



⑫振り返り III



平成 26 年度

イベントプランナー養成講座

報告者	山口大学大学教育機構学生支援センター 松岡 陽子																	
実施日	平成 26 年 9 月 21 日 (日) ~22 日 (月)																	
実施先	国立山口徳地青少年自然の家、山口大学																	
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口大学</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	学生	教職員	山口大学	4	2	九州国際大学	3	1	佐賀大学		1	合計	7	4
大学名	学生	教職員																
山口大学	4	2																
九州国際大学	3	1																
佐賀大学		1																
合計	7	4																
完了報告	<p>開催時期が悪く、参加学生が少なかったが、逆に熱意ある学生が集い、充実した研修を実施することができた。参加者は 3 つのチームに分かれ、それぞれ企画立案、プレゼンを行ったが、各チームに一人ずつ指導教員がつき、内容の濃い指導ができた。参加学生によるアンケート結果も非常に良く、次回は開催時期を考慮したうえで、実施したい。</p>																	
<p>テーマ：企画立案力・チームワーク力を身につける</p> <p>【プログラム到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 限られた時間のなかで、課題に取り組むことができる。 与えられたテーマに沿いつつ、ニーズのある企画を創出できる。 リスクを念頭においた実現可能な企画とは何かを知る。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 <p>【プログラム概要】</p> <p>限られた時間のなかでチームごとにテーマ（「大学をより楽しくする」）に沿った実現可能な企画を作成し、プレゼンテーションを行う。そのプロセスにおいて必要な知識やスキルを講義あるいはグループワーク形式で学ぶ。</p> <p>【プログラム内容】</p> <p>9月21日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントプランニング (写真①、②) <ul style="list-style-type: none"> 時間：12：30～17：30、18：30～20：00、20：00～22：00 場所：国立山口徳地青少年自然の家 <p>〈内容〉</p> <p>山口大学から会場に移動後、下記のとおり講義とグループワークが実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> －アイスブレイク (山口大学・辻講師担当) －全体講義とグループワーク (佐賀大学・山内講師担当) <ol style="list-style-type: none"> (1) イベントプランニングとは～目的と進め方 (2) 目的の明確化～テーマ紹介、現状把握、現状分析、目的の明確化 (3) 企画の具体化～全体共有、課題抽出、アイディアの発散と収束 (4) 企画書の作成 －講義「リスクマネジメント」(山口大学・松岡助教担当) －講義「効果的なプレゼンテーション」(九州国際大学・鈴木助教担当) 																		



写真①山内先生の講義風景



写真②グループワークの様子

9月22日(月)

- ・プレゼンテーション準備(写真③)

時間：9:30～12:00

場所：国立山口徳地青少年自然の家

〈内容〉

前日に創出した企画について、発表する準備を実施した。



写真③徳地青少年自然の家における全体写真

- ・プレゼンテーション実施、振り返り(写真④)

時間：16:00～17:30

場所：山口大学

〈内容〉

山口大学に移動後、山口大学学生支援センター長、課長を審査員にそれぞれのチームが立案した企画をプレゼンし、授業の質を向上させる「学生赤ペン先生」、学生が集う場をつくり、研修をとおして学生のモチベーションを上げる「みんなのおしろ」、各学部や部署にバラバラに実施されている研修を一つにまとめ、学生の希望に応じて適切な課外活動プログラムを提供する「放課後のクラスメイト」が提案された。

プレゼン後は2日間の研修を振り返った。



写真④プレゼンテーションの様子

平成 26 年度

コミュニケーション力向上ワークショップ

報告者	香川大学大学教育開発センター准教授 佐藤 慶太			
実施日	平成 26 年 9 月 22 日～23 日			
実施先	小豆島ふるさと村			
参加者	大学名	教職員	学生スタッフ	学生
	香川大学	11		5
	松山大学	2		6
	九州国際大学			1
	合計	13		12
講師	葛城 浩一（香川大学学長特別補佐） 山崎 裕正（香川大学アドミッションセンター准教授） 杉岡 正典（香川大学保健管理センター講師） 山本 珠美（香川大学生涯学習教育研究センター准教授）			
完了報告	<p>今回の研修は、昨年度、学内の学生・教職員を対象に行った模擬研修の振り返りをもとに、より実践的な内容を踏まえて行われたものである。参加者は、研修施設として利用した小豆島ふるさと村『国民宿舎 小豆島』の「課題となっていることは何か。その解決策は何か。」をグループワークの最終発表テーマとしながら、コミュニケーション力向上を図るプログラムに取り組んだ。</p> <p>1 日目は、話す、聴く、質問する、をテーマとしたレクチャーがグループワークを交えながら進められ、夕食後には 2 日目の国民宿舎従業員の方へのインタビューを円滑に進めるヒントとなるグループワークを行った。その後は、各ロッジに分かれ、研修実施日前に参加者に配付していた学習資料を基に 2 日目の作業を円滑に進めるために有益な情報をまとめるワークを行った。</p> <p>2 日目は、小豆島ふるさと村の『国民宿舎 小豆島』の従業員の方に実際にインタビューを行い、国民宿舎の課題を聞き出し、インタビュー後に、島内の観光資源の現地調査も行ったうえで、その解決策をまとめ、総支配人の前でプレゼンを行った。1 日目に学んだ内容（聴く、質問する、話す）を、2 日目に実践できるような仕組みになっている。</p> <p>アンケートの結果、全体として参加者の満足度は高く、充実した研修となったことが伺える。</p>			
<p>【プログラム到達目標】 レクチャー、グループワークを通じて「聴く、質問する、話し合う、人前で話す」といったコミュニケーション能力全般を向上させる。</p>				

【プログラム概要】

1日目 (9月22日)

13:00～13:30	開会式+オリエンテーション
13:30～14:30	自分のコミュニケーションの特徴を知ろう (担当:葛城先生)
14:40～15:40	上手に話すために (担当:山崎先生)
15:50～16:50	上手に聴くために①傾聴の心得 (担当:杉岡先生)
17:00～18:00	上手に聴くために②質問の心得 (担当:山本先生)
19:00～20:00	レゴブロックワーク (担当:葛城先生)
20:00～	各ロジ内で課題に取り組む

2日目 (9月23日)

08:00～10:00	実地調査①インタビュー
10:00～12:00	実地調査②小豆島内施設見学
13:00～15:00	各グループまとめ
15:00～16:00	成果発表
16:00～16:10	閉会式

【プログラム内容】

1日目:本プログラムは、全行程を通して3グループに分かれて行われた。まずは、コミュニケーションパズルを使ったワークからはじまった。これを通じて、コミュニケーションにおいて重要な点、自分のコミュニケーションの特徴を把握することができた。その後、話す、傾聴する、質問する、をテーマとしたレクチャーが続いた。「傾聴する」をテーマとしたレクチャーでは、聞き慣れない「傾聴」を理解するためのロールプレイングが行われた。「質問する」をテーマとしたレクチャーでは、グループ対抗の質問ゲームが取り入れられており、大いに盛り上がった。さらに夕食後は、レゴブロックを使ったワークが行われ、2日目のインタビューのヒントを学んだ。その後、昼間とは違うグループで宿泊のロジにおいて、事前学習資料を基に、翌日自分のグループに戻って他のメンバーに伝える有益な情報をまとめるワークを行った。事前学習資料はロジ毎にことになっており、昼間のグループのメンバーにはそれぞれ異なる事前学習資料を渡していた。



「自分のコミュニケーションの特徴を知ろう」

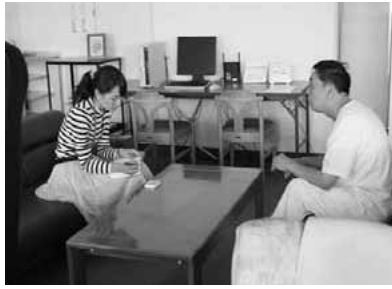


「傾聴の心得」



「質問の心得」

2日目:2日目は、前日のレクチャーで学んだコミュニケーションの手法を活用し、国民宿舎の従業員の方にインタビューし、今抱えている問題について聞き取り調査を行った。その後、小豆島の観光施設を見学し、国民宿舎が抱えている問題の解決に結びつくヒントを探った。また、施設見学時のバスの中では、香川大学の教職員をアドバイザーとして、グループ毎にアドバイザーにインタビューを行い、コミュニケーション力を高めるとともに、課題解決のヒントを探った。午後からは、グループ毎に解決策をまとめ、プレゼンテーションを行った。このプレゼンテーションには、国民宿舎小豆島の総支配人も同席し、それぞれの発表にコメントをいただき、参加者にとって大変有意義なものとなった。



インタビューの実践



課題解決策のまとめの様子



プレゼンテーション

【アンケート結果】

プログラム全体に対しては、参加者全員から満足している以上の回答が得られた。また、内容についても参加者全員から興味を持って取り組めるものであったとの回答が得られた。

改善すべき点についても多数の意見が得られたため、次回以降の計画時に参考としたい。

<良かった点・継続すべき点（自由記述）>

- ・レクチャーで説明しつつ、ワークがあったところ。
- ・やる気が引き出されるため、グループ毎に競わせるという点が個人的に良かった。
- ・まず自分のコミュニケーションを知れたところがその後の活動に役に立ちました。
- ・座学ではなく、実践してコミュニケーションを図っていた点。
- ・国民宿舎の方々とも関わったのが嬉しかった。
- ・グループワークを多く取り入れていたので、様々な面でのコミュニケーション力を培うことができたので、レゴなどは継続したらいいと思います。
- ・「インタビュー」「質問の心得」は、実践的で次回も行ってほしい。
- ・講義の中にも体験できるような「遊び」があった点。
- ・少人数で行われたから良かった。とてもやりやすかった。
- ・グループワークをたくさん行ったのが良いと思いました。
- ・コミュニケーション能力が少し向上できたかなと思います。

<改善点・次回以降は検討した方がよい点（自由記述）>

- ・レクチャーの仕方は、もう少し統一があった方が良かったと思う。
- ・現地集合にした方が良いと思う。1人で現地まで来るのも練習。
- ・より多くの大学から参加者を募るべき。
- ・夜にまとめた資料は、次の日余り役立たせられなかったと思います。
- ・施設見学でも観光客に対して、インタビューがあっても良かったと思った。
- ・少しスケジュールが混みすぎだと感じたので、もう少しタイムスケジュールにゆとりがある方がよい。

平成 26 年度

一学一山運動フォーラム

報告者	広島経済大学 興動館 中山 紘之																																				
実施日	平成 26 年 12 月 6 日 (土) ~7 日 (日)																																				
実施先	広島経済大学 興動館																																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島経済大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>早稲田大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>広島女学院大学</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>広島修道大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>新見公立大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>東京農業大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">その他、一般 5 人</p>	大学名	教員	職員	学生	広島経済大学		3	13	早稲田大学	1			広島女学院大学			4	広島修道大学			2	新見公立大学			2	三重大学	1		3	東京農業大学			1	合計	2	3	25
大学名	教員	職員	学生																																		
広島経済大学		3	13																																		
早稲田大学	1																																				
広島女学院大学			4																																		
広島修道大学			2																																		
新見公立大学			2																																		
三重大学	1		3																																		
東京農業大学			1																																		
合計	2	3	25																																		
講師	<p>【講師】</p> <p>早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ボランティアコーディネーター 仲村 正彦氏</p> <p>三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 松村 直人氏</p> <p>【ファシリテーター】</p> <p>広島経済大学 興動館 中山 紘之</p>																																				
完了報告	<p>12 月 6 日 (土)・7 日 (日) の両日、興動館において「一学一山運動フォーラム 2014 ~つながりが森を守る力になる~」を開催した。</p> <p>この取り組みは、一つの大学が一つの山や自然を保全しようという取り組みで、全国から環境保全活動を実施する団体や個人があつまり、現場実習やワークショップを通じて、「つながり」や「ノウハウ」、「明日へのやる気」を持って帰ることを目標にして実施された。</p> <p>当日は 7 大学 35 名が一堂に会し、広島経済大学武田山まちづくりプロジェクトがまちづくりの施策として開発する「武田の里」において、間伐などの保全活動や道づくり、ベンチづくりを実施した。</p> <p>また、「武田の里」の未来を考えるワークショップを開催し、4 グループの学生たちが様々な視点やアイデアで、それぞれの「武田の里」の未来について発表した。発表では、災害に強い森づくりなど、「平成 26 年 8 月豪雨災害」を意識した内容などが話し合われた。</p> <p>また、三重大学松村直人教授による「森林の公益性」をテーマ講演が行われ、見識を深めた。</p>																																				

【プログラム到達目標】

つながる：参加者同士がつながり、仲間になる

学び合う：保全活動におけるノウハウや知の共有をはかる

創造する：参加者同士が創造性を発揮し、一学一山運動への新たな取り組みについて考える

【プログラム概要】

1. 内 容

- (1) 目的：参加者の参画意識を高め、一学一山運動の振興をはかる
- (2) 日時：平成26年12月6日（土）～ 7日（日）
- (3) 共催：早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター、広島経済大学興動館
文部科学省大学間連携共同教育推進事業「西日本リーダーズスクール（UNGL）」
- (4) 場所：広島経済大学興動館、成風館
- (5) 活動フィールド：広島経済大学 第三校地西側山林「武田の里(仮称)」

【プログラム内容】

■ タイムスケジュール

12月6日（土）

10:00 オープニング・オリエンテーション

初対面の参加者同士が、共に学び合い創造性を発揮できるような規範作りをすることに努めた。参加動機やそれぞれの活動について、じっくり時間をかけて分かち合い、語り合った。



11:00 講義「災害に強い森づくり」WAVOC 仲村氏

WAVOC 仲村氏より「災害に強い森づくり」について講義があり見識を深めた。広島経済大学周辺は「平成26年8月豪雨災害」の被災地であったので、非常に有意義な講義となった。



13:00 フィールドワーク：武田山保全活動

「災害につよい森づくり」を目指して、選木、間伐作業を実施した。また、間伐材を利用したベンチづくりや道づくりを実施し、レクリエーションとしても利用できるよう工夫した。



17:30 ワークショップ「森を創る」

フィールドワークの体験を基に「50年後の未来の武田山」をイメージしゾーニングを行った。4グループに分かれそれぞれアイデアを出し合い模造紙にまとめた。



19:00 夕食・懇親会

広島経済大学興動館プロジェクトの一つである「カフェ運営プロジェクト」が運営する「HUE café Time」にて懇親会を実施した。各大学のスタンプ披露など大いに盛り上がった。



12月7日（日）

9:00 ワークショップ発表会

それぞれ話し合ったゾーニング案について発表を行った。森林の公益性を意識した様々なアイデアが発表された。



12:00 ふりかえり

活動をふりかえり、様々な気づきや学びについて参加者同士が分かち合った。



16:00 三重大学 松村教授による講演会

松村教授より「森林と私たち ー森との共生ー」をテーマについて講義が実施され見識を深めた。



平成 26 年度

学生リーダーズ・ウィンタースクール

北九州エマージェンシードリル (Kitakyushu Emergency Drill: KED)

震災対策型サバイバルキャンプ

報告者	九州国際大学経済学部 鈴木 理絵																																												
実施日	平成 27 年 2 月 6 日 (金) ~ 8 日 (日)																																												
実施先	九州国際大学・北九州ふれあいの家																																												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>4</td> <td>24</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>松山大学 (OG)</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>岐阜大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9</td> <td>31</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">その他、八幡東消防署 4 人</p>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	九州国際大学	4	24	18	香川大学	1		1	京都外国語大学・短期大学	1	2	2	京都文教大学		2	4	追手門学院大学			6	愛媛大学	1	2		松山大学 (OG)		1		佐賀大学	1			岐阜大学	1			合計	9	31	31
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																										
九州国際大学	4	24	18																																										
香川大学	1		1																																										
京都外国語大学・短期大学	1	2	2																																										
京都文教大学		2	4																																										
追手門学院大学			6																																										
愛媛大学	1	2																																											
松山大学 (OG)		1																																											
佐賀大学	1																																												
岐阜大学	1																																												
合計	9	31	31																																										
講師	<p>■村岡治道氏 (岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター・特任准教授)</p> <p>■塔迫弘章氏 (北九州市消防局・八幡東消防署・予防課)</p>																																												
完了報告	<p>平成 27 年 2 月 6 日 (金) ~ 8 日 (日) にかけて、災害対策型サバイバルキャンプ (KED) を実施した。九州国際大学のリーダーシップ研修は、3 回目の実施となった。昨年度に引き続き、リーダーシップ能力の育成と、震災時に役に立つ知識の修得を目的とし、実施した。他大学の学生スタッフ・教員のみならず、防災の専門家や地元消防局の協力もあり、内容としては非常に充実した研修となったと考えている。</p>																																												
<p>【プログラム到達目標<一般参加者>】</p> <p>①災害時に有用な知識を習得することができる。 ②震災時の状況に適した判断ができる。 ③他者に配慮した行動をとることができる。</p> <p>【プログラム概要<一般参加者>】</p> <p>災害を想定したプログラム「災害対策型サバイバルキャンプ」や防災に関する講義を通じて、災害時に有用な知識を身に付ける。また、研修を通して自身の課題を発見するとともに、災害時に求められるリーダーシップを養う。</p> <p>【プログラム到達目標<学生スタッフ>】</p> <p>①プログラム運営のために、適切な行動ができる。 ②スタッフ間で十分な情報共有ができる。</p>																																													

- ③参加学生の成長をサポートすることができる。
 ④自分の役割を把握し、責任を持つことができる。

【プログラム概要<学生スタッフ>】

災害を想定したプログラム「災害対策型サバイバルキャンプ」の運営サポートを通じて、企画運営に必要な知識を身に付ける。また、企画を成功させるためにリーダーシップのある行動をとり、自身の課題を発見する。

【プログラム内容】

【研修1日目】2月6日(金)

時間	内容	場所
11:30～12:30	受付	AL教室(1号館)
12:30～13:15	開会式	
13:30～14:30	起震車	平野記念館 外
14:30～14:45	休憩・移動	AL教室→3号館
14:45～16:45	ZEROミッション(震災講義)	3号館
15:00～18:00	ミッション①	屋外
18:00～20:30	ミッション②[1日目]	ふれあいの家
20:30～22:30	振り返り	各研修室
22:30	消灯	多目的ホール

【研修2日目】2月7日(土)

時間	内容	場所
7:00～9:00	起床・体調確認(チーム)	多目的ホール
	体調確認	各研修室
9:00～12:00	ミッション②[2日目]	ふれあいの家
12:00～15:00	ミッション③(消防署の方々)	
15:00～16:00	総評(消防署の方々)	多目的ホール
16:00～18:00	入浴	浴場
18:00～19:00	夕食	多目的ホール
19:00～20:00	振り返り	各研修室
20:30～22:00	プチ懇親会	多目的ホール
22:30	消灯	

【研修3日目】2月8日(日)

時間	内容	場所
7:00～8:30	起床・朝食・片付け	多目的ホール
8:30～10:00	移動・休憩	ふれあいの家→九国大
10:00～12:00	震災講義(村岡先生)	AL教室
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～16:00	全体振り返り	
16:00～17:00	閉会式・色紙受け渡し	
17:00	解散	

■1日目(2月6日(金))

開会式後、実際に地震の揺れが体験できる起震車を用いて参加者全員が地震体験を行った。次に、災害について深く考えるための震災知識講義を行った。その後、サバイバルミッションが行われるふれあいの家北九州に場所を移し、「避難所ミッション」が開始された。



■2日目 (2月7日 (土))

2日目は、参加者の体調確認後、八幡東消防署の消防士の皆様の協力の下、「避難所移動ミッション (急患搬送)」と、「消防署ミッション」を実施した。

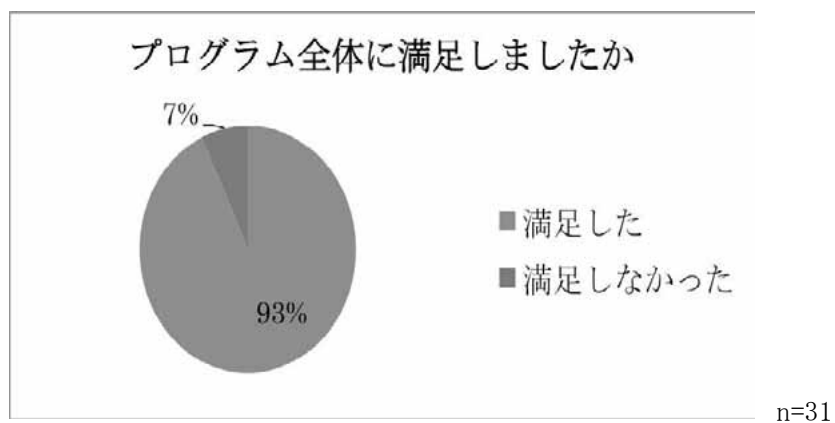


■3日目 (2月8日 (日))

3日目は、大学に戻り、村岡氏による震災講義が開講された。午後からは、ミッション解説と全体振り返りが実施された。



【アンケート結果】



【参加者のコメント】

- 災害に対する知識や、実際に経験しないと分からないことなどを学ぶ事が出来た。1日1日がとても辛かったが、自分のためになるものになったなと思った。
- サマースクールと違って、少人数グループの活動だけではなく全体のグループの活動が多かった。
- 私は、災害ボランティアとして福島へ3回行ったことがあります。その中で、どうしても被災者の方の気持ちをすべて理解できず、モヤモヤしたものを持っていました。しかし、この研修を通して、自分の肌で、何が苦しいのか、辛いのか、ギジ的ではありますが、理解することができました。
- 先読みして、やるべきことを発言して、みんなにその行動を実際とってもらえるよう促せたかなと思います。ただ、被災者を受け入れる、受け入れないの話のときにファシリテーター役を担い、多数決だけでなく一人一人の意見を聞き出せなかったと反省しています。
- 新たな避難者が来る時、受け入れるかどうか皆が迷っていて、決められない時、リーダーシップを持っている人に対して、良い機会だと思った。



平成 26 年度

リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

実施日	平成 27 年 2 月 21 日（土）～2 月 28 日（土）																																																																
実施先	サイパン（北マリアナ諸島連邦）教育省（Public School System; Gregorio T. Camacho Elementary School, Tanapag Middle School, Chacha Ocian View Middle School, Kagman Elementary School, Koblerville Elementary School, Oleai Elementary School, San Antonio Middle School, Dandan Middle School, William S. Reyes Elementary School, San Vicente Elementary School, Garapan Elementary School, Hopwood Junior High School)																																																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>熊本学園大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛知みずほ大学	1	1	3	愛媛大学	2		1	香川大学	1		1	九州国際大学	1	2	2	京都外国語大学	2	4	18	京都文教大学	2		12	熊本学園大学			1	松山大学		1	8	広島経済大学	1		11	追手門学院大学	3	2	14	山口学芸大学			5	山口大学	1	2	3	摂南大学	1		1	佐賀大学	1			合計	16	12	80
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																														
愛知みずほ大学	1	1	3																																																														
愛媛大学	2		1																																																														
香川大学	1		1																																																														
九州国際大学	1	2	2																																																														
京都外国語大学	2	4	18																																																														
京都文教大学	2		12																																																														
熊本学園大学			1																																																														
松山大学		1	8																																																														
広島経済大学	1		11																																																														
追手門学院大学	3	2	14																																																														
山口学芸大学			5																																																														
山口大学	1	2	3																																																														
摂南大学	1		1																																																														
佐賀大学	1																																																																
合計	16	12	80																																																														
研修の目的 および 研修の概要	<p>UNGL Global Program の一つである「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」は、今回で 3 回目の開催となった。本研修では、グローバル社会においてリーダーシップを発揮できる人材の養成を念頭に、価値観や文化的背景などが異なる環境において多様なメンバーと円滑なコミュニケーションを取りつつ、かつ上手に協働する力を体得するためのステップを提供している。</p> <p>具体的には、サイパンの小・中学校の生徒たちを相手にした日本文化や道徳教育などに関する授業案を作り実施する。その過程で UNGL スタッフや現地教員からのアドバイスを受けたり、他の参加学生らとディスカッションしたりする等を通じ、その改良・改善を行なう。加えて、現地の生徒を相手とした日本文化を紹介する活動に連携各校から参加した学生たちとチームで取り組む。さらに研修期間中は、現地の教員宅等にホームステイする。これら異なる背景を持つ人々と協働する経験を通じて、グローバル人材に必須のコミュニケーション力やリーダーシップに関するスキル・知識・態度等を身につけることを目的とする。</p>																																																																

プログラムの
到達目標

- (1) 諸外国と円滑な協働を行う上で必要となる相手国の価値観や文化的背景についての知識を得ることが出来るようになる。
- (2) 複数名で取り組む活動を通じて、協調性やリーダーシップを発揮し、グループの成果に貢献することが出来るようになる。
- (3) 授業の受け手となる生徒たちに必要なサポートについてチームの中で議論し、それをより良いものへと改善していくことが出来るようになる。
- (4) 日本に関する文化を現地の生徒たちに伝えるための企画をチームで立案する。その際、明瞭なプランを策定し、それに基づいて自分の行動やストレスをコントロールすることが出来るようになる。

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

		午前	午後	宿泊先など
2月21日	Sat		13:30 集合 (Garapan E. School) 14:00～15:30 開会式・全体ミーティング 16:00～17:00 北マリアナ教育省歓迎レセプション	ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月22日	Sun	ホストファミリーとの交流		ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月23日	Mon	7:45～8:35 自己紹介、日本文化紹介 8:40～12:25 授業実践・アシスタント	13:00～13:50 授業実践・アシスタント 14:00～15:00 ジャパンフェスティバル準備 15:00～16:30 リフレクション	ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月24日	Tue	7:45～12:25 授業実践・アシスタント	13:00～13:50 授業実践・アシスタント 14:00～15:00 ジャパンフェスティバル準備 15:00～16:30 リフレクション	ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月25日	Wed	7:45～12:25 サイパン島実地研修	13:00～15:00 ジャパンフェスティバル準備 18:00～21:00 スポーツ交流会	ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月26日	Thu	7:45～12:25 授業実践・アシスタント	13:00～13:50 授業実践・アシスタント 14:00～15:00 ジャパンフェスティバル準備 15:00～16:30 リフレクション	ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月27日	Fri	7:45～12:25 授業実践・アシスタント	13:00～13:45 ジャパンフェスティバル準備 14:00～17:00 ジャパンフェスティバル	ホームステイ(各学校の教職員宅)
2月28日	Sat	起床後～10:00 ホームステイ先の掃除と御礼	13:00～18:00 研修全体のリフレクション・修了式 18:00～21:00 Farewell Party	*プログラム終了

*各学校毎にスケジュールの調整あり

2. 主立った取組内容

授業実践・アシスタント：参加学生らは、連携各校での事前研修等を通じて準備した授業計画に基づき、サイパンの小・中学校の生徒を相手に日本の自然や文化などに関する授業を行った。



リフレクション（振り返り）：UNGL スタッフ主導のもと、一日の活動を思い返し、良い取組みを行えた部分と改善できる点を洗い出し、次の日の活動に活かすための省察を行った。現地教員や共に活動した学生メンバーからのクリティカルなフィードバックやアドバイスが検討材料となった。



ジャパンフェスティバル（日本文化の紹介）：現地の小・中学生に日本伝統の風習やレクリエーション等を体験的に学んでもらうため、連携校から参加した学生らがチームでその内容を考え、実施した。



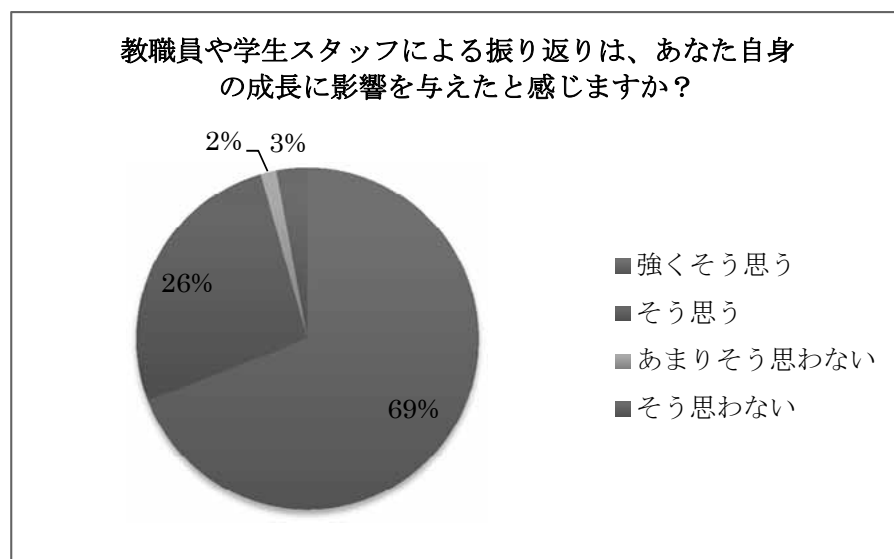
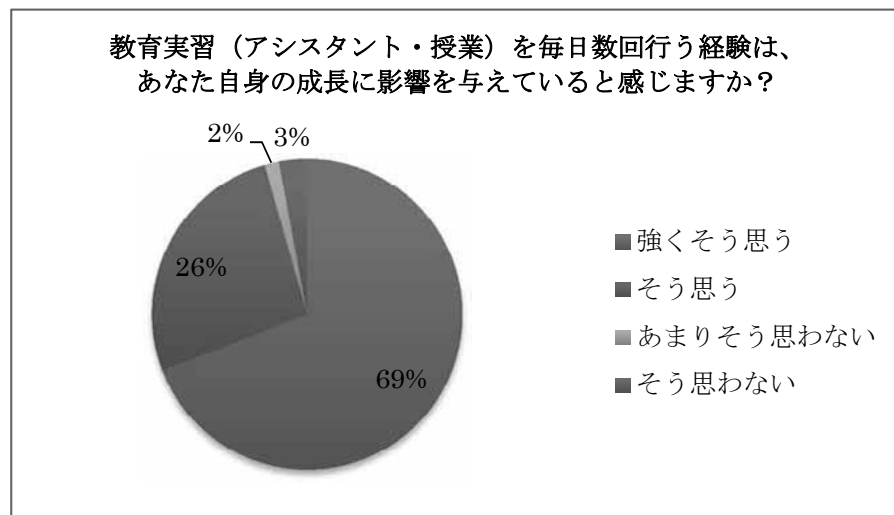
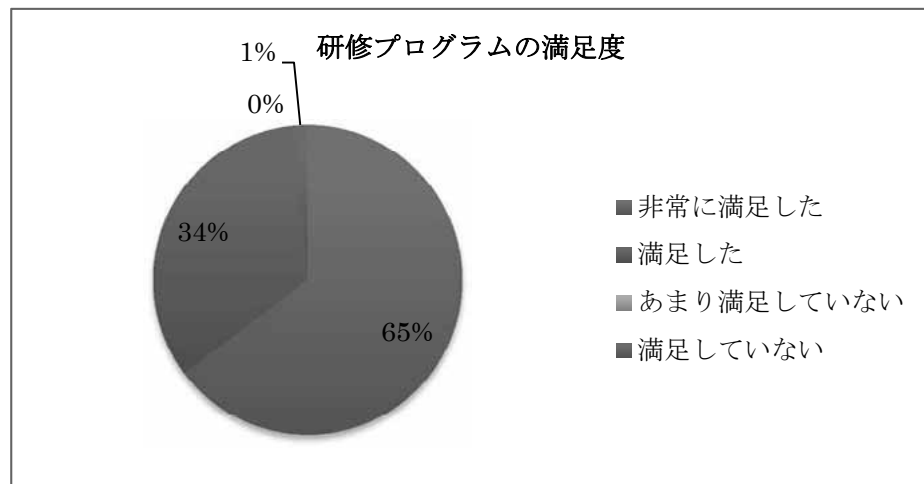
研修全体のリフレクション：

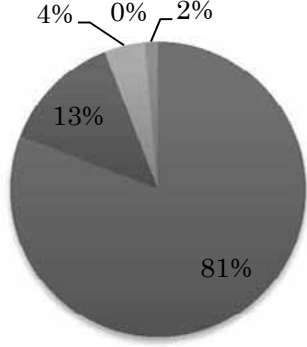
プログラム実施責任者の主導のもと、全参加学生が一堂に会し、研修期間全体を通して学んだこと、経験したことを整理し、帰国後の活動に活かす為の省察を行った。研修期間中に活動を共にしたチームメンバーとの信頼関係のもと、それぞれの取組についてクリティカルにコメントし合うことで自己の成長や変化、今後の課題等に気づくことができた。



研修終了後、参加学生を対象として実施したアンケートの結果を以下に抜粋して掲載する。

プログラムの
成果



	<p>教育実習やホームステイで、教員やホストファミリーと自らが交渉する経験はあなたの成長に影響を与えていると感じますか？</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強くそう思う</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>そう思う</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>白票</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	強くそう思う	81%	そう思う	13%	あまりそう思わない	4%	そう思わない	2%	白票	0%
回答	割合												
強くそう思う	81%												
そう思う	13%												
あまりそう思わない	4%												
そう思わない	2%												
白票	0%												
<p>報告者</p>	<p>愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也</p>												

平成 26 年度

ハワイ・サービス・ラーニング・プログラム

実施日	事前研修：平成 26 年 11 月～平成 27 年 2 月 現地研修：平成 27 年 3 月 2 日～18 日																
実施先	事前研修：松山大学、山口大学 現地研修：ハワイ大学マノア校他																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td></td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	松山大学	1		13	山口大学			1	合計	1		14
大学名	教職員	学生スタッフ	学生														
松山大学	1		13														
山口大学			1														
合計	1		14														
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、事前研修（現地での活動の背景的学習と言語研修）と 2 週間の現地研修（ハワイ大学での講義、地域での奉仕活動、交流活動）を通してハワイの生活・文化・社会と英語コミュニケーションを学ぶものである。また、現地でのプロジェクト実施の為に他大学の学生や現地の人など、価値観、立場、文化などの背景が異なる他者と協同し、経験や振り返りを通してリーダーシップ力と異文化適応力を身につけることを目的としている。</p> <p>学生はリーダーシップを構成する自己、組織、社会についての考えや価値観を日々のジャーナルに綴ってきたが、本研修を通して、自己への理解を深めたこと、他者との関わり方を具体的に変容させていること、社会の捉え方や、自己の責任について考えを新たにしていることがうかがえる。またそれらは記述のみでなく、実際の行動でも観察することができた。グループ活動の充実や、お互いの成長のために、学生が自主的にミーティングを複数開催した。また、ハワイの文化についてより理解を深め貢献したいと、休日にも全員で自主的にボランティア活動に参加をした。最後に本授業は UNGL 連携校からも 1 名の参加があったが、インタビューでほとんどの学生が他大学生との学びを肯定的に捉えていた。主なコメントには、「視野の広がりを得た」「明確な意志と目標を持って行動することの大切さを学んだ」「同じ日本の中でも刺激し合える関係性をつくれる」などがあった。</p>																
プログラムの 到達目標	<p>目的 1. 価値観、立場、文化などの背景が異なる組織での協同活動と講義を通してリーダーシップ力と異文化適応力（スキル・知識・態度）を身につける。</p> <p><u>目的 1 に対応する到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 協同活動を通して、リーダーシップ力と異文化適応力に関わる自己の伸ばすべき強みと、開発すべき弱みについて整理することができる ② 目的や計画を参照しながら日々の行動を自己評価することができる ③ グループ活動に積極的に参加・貢献することができる ④ 英語を活用し、現地での協同活動を行うことができる ⑤ ハワイの言語や文化について授業と実践から学んだことについてまとめることができる 																

目的2. 社会的課題について学び、コミュニティに奉仕し、課題を自己に引きつけて考えることを通して社会への責任感と参画意識を高める。

目的2に対応する到達目標

- ① 事前研修と現地研修を通して学んだハワイの社会的課題についてまとめ、課題を取り巻く背景について自分なりの意見をまとめることができる
- ② 事前研修と現地研修での学習をふまえ、今後の行動計画を作成することができる

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

日程	取組内容
11月27日(木)	アイスブレイク、自己紹介、目標設定、行動指針設定、英語学習方法共有、
12月4日(木)	国内プレゼンテーションテーマ決定、英語学習法共有
12月18日(木)	ハワイ文化、英語プレゼンテーション基礎
1月22日(木)	英語によるハワイ文化グループ・プレゼンテーション
1月29日(木)	ハワイでの日本文化紹介活動デザイン
2月19日(木)	日本文化紹介活動デザインブラッシュアップ
2月26日(木)	日本文化紹介活動リハーサル2 事前研修振り返り、目標確認
3月2日(月)	午後：オリエンテーション
3月3日(火)	午前：講義 「Service Learning」 午後：活動 キャンパス・ツアー
3月4日(水)	午前：講義 「Hawai'i: Center of the Pacific」 午後：活動 日本語クラスでのプレゼンテーション
3月5日(木)	午前：活動 魚を育てる池でのボランティア活動 午後：活動 Kuhio Elementary School での読み聞かせ
3月6日(金)	午前：講義 「Service Learning」 午後：活動 日本語クラスでのプレゼンテーション
3月7日(土)	終日：活動 オアフ島多文化ツアー
3月8日(日)	終日：活動 ホノルル・フェスティバルでのボランティア
3月9日(月)	午前：講義 「Service」 午後：活動 パロ・オハナ・ラーニング・センターでのボランティア
3月10日(火)	午前：講義 「ハワイの言語」 午後：活動 ハワイのダンス
3月11日(水)	午前：講義 ホノルル文化巡り 午後：活動 レイ作り
3月12日(木)	午前：活動 レアヒ・ホスピタルでのボランティア 午後：活動 高校でのプレゼンテーション
3月13日(金)	終日：パール・ハーバー見学
3月14日(土)	休日
3月15日(日)	休日
3月16日(月)	終日：ポリネシアン文化センター見学
3月17日(火)	終日：学習成果共有/振り返り/修了式
3月18日(水)	帰国準備/出国



プログラムの
成果

①ジャーナル/最終レポート記述

1) 授業目的1「価値観、立場、文化などの背景が異なる組織での協同活動と講義を通してリーダーシップ力と異文化適応力を身につける」に対応する記述：

- ・他の人と何かをする時、自分だけが頑張ってもだめなんだと思った。
- ・異文化コミュニケーションで自分の価値観を知ることができることに気づいた。その学びで自分は成長して変わることができる。
- ・目標を立て、挑戦してみて、自分の日常に刺激ができ、今も様々な成長をしているのが嬉しい。
- ・こういう集団にしたいという目標があるなら、まずは自分から変わっていく必要がある。
- ・今までは分からないことがあったら「怖い、注目されたくない」と思って聞けなかった。でも「皆のために分からないところを積極的に聞こう。その方が皆のためになる」と考えれば、もっと積極的に動けると思った。
- ・リーダーに頼るのではなく、皆が一つ一つの活動や内容について把握し、声を掛け合い、協力し合おうと話した。
- ・どこでどれだけ歩み寄れるかでチームのあり方が変わってくる。
- ・協力的な行動ができるようになり、信頼が生まれている。

2) 授業目的2「社会的課題について学び、コミュニティに奉仕し、課題を自己に引きつけて考えることを通して社会への責任感と参画意識を高める」に対応する記述：

- ・なぜ自分はここにいるのか・・・これを明確にすることが新たなコミュニティ参加につながり、自分の世界が広がり豊かになる。
- ・社会が「今」だけじゃない。大きな仕組み。その中の自分は小さいけど、小さな行動が社会の役に立っている。
- ・社会のどんな組織も相互の信頼関係や援助と貢献で成り立っている。

- ・ホームレスも問題視されている。働く意欲があっても職がない人には雇用の場をもっと提供してあげるべきだ。どの国も同じ問題がある。
- ・ハワイの人は自然と共に現在までに悲しい歴史や様々な問題を抱えて生きてきた。自分たちの自然を取り戻す活動は時間がかかるが、少しずつ修復に向かっている。歴史を忘れることなく多くの人が事実を知り、関心を持つことが大切。日本でも失われる自然を守らなければならない。

②プログラム評価アンケート結果

※ ハワイでの現地研修後、オンラインでの回答を依頼。無記名。回収率 100%。

	そう思う	だいたい そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	思わない
授業内容は、講義案内や初回授業で示された主題や目的に十分に沿っていた	62%	38%	0%	0%	0%
授業内容は、体系的に理解できるように構成されていた	69%	31%	0%	0%	0%
この授業によって知識が増えたり、興味・関心が高まった	92%	8%	0%	0%	0%
授業は、全体として満足できるものだった	92%	8%	0%	0%	0%
抽象的な概念や理論がよく理解できた	69%	31%	0%	0%	0%
以前より批評的な考え方ができるようになった	62%	38%	0%	0%	0%
教員からのコメントやフィードバックによって授業への取組が十分評価されていると思った	92%	8%	0%	0%	0%
授業やチーム活動に関連する学習を自ら進んで行った	62%	38%	0%	0%	0%
授業内容は、今の現実を理解するのに役立つと感じた	85%	15%	0%	0%	0%
授業内容は、これからのことを考えるのに役立つと思う	100%	0%	0%	0%	0%
授業で学んだ内容に関して、さらに学習を深めたいと思う	100%	0%	0%	0%	0%

報告者

松山大学学生支援室 泉谷 道子

平成 26 年度

学生リーダーズ・スプリングスクール

実施日	平成 27 年 3 月 10 日（火）～12 日（木）																																								
実施先	京都外国語大学、宇治市総合野外活動センター「アクトパル宇治」																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>21</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	京都外国語大学・短期大学	4	14	15	九州国際大学	1	2	6	松山大学			8	京都文教大学		1	3	追手門学院大学		3	2	広島経済大学			3	愛媛大学		1		香川大学			1	合計	5	21	38
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																						
京都外国語大学・短期大学	4	14	15																																						
九州国際大学	1	2	6																																						
松山大学			8																																						
京都文教大学		1	3																																						
追手門学院大学		3	2																																						
広島経済大学			3																																						
愛媛大学		1																																							
香川大学			1																																						
合計	5	21	38																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、UNGL Basicプログラムとして開催された。本研修では、グローバル社会におけるリーダーシップ育成、つまり多様化する社会、組織の中で一人ひとりが当事者意識を持ち、リーダーシップを発揮できるような人材を育成することを目的としており、参加学生は、“平和”に関するさまざまなミッションをこなしながら、それぞれのリーダーシップ育成を目指した。</p> <p>開催期間は3日間であり、その間参加学生は1チーム4～5名のチームに分かれ、平和を脅かす課題を体験したり、あるいは平和に貢献するために必要な事柄を学ぶための数々のミッションに取り組んだり、最終目標に向かって活動した。その過程において、メンバーそれぞれの言動について、「チームや全体の目的を達成する」という観点から学生スタッフおよび教職員スタッフによるフィードバックを受けるほか、メンバー間で相互に批評的な振り返りを行った。最終的には、チーム又は参加者全員で、「平和に必要なリーダーシップ」とは何かについて共有した。</p>																																								
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自らの意思を積極的に表明することができる (2) 他者の意見を受け入れることができる (3) 周りを巻き込むような言動をとることができる (4) 思いやりのある行動をとることができる (5) 平和を脅かす世界の諸課題について説明することができる (6) 世界の平和に関する自分なりの意見を述べるすることができる 																																								

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

日程	時間	取組内容
3月10日 (火曜日)	9:30	参加者受付
	10:00～11:00	団結式、アイスブレイク
	11:00～13:00	移動 昼食＋自己紹介＋スタッフ紹介
	13:30～	ワーク1 (宝探し)
	15:30～	ワーク2 (アントレプレナー)
	17:30～	夕食 (ハンガーバンケット)
	19:40～	現状理解ワーク (世界がもし100人の村だったら)
	21:30～	振り返り (~23:00)
3月11日 (水曜日)	6:45	スタッフミーティング
	8:00	朝食
	9:00～	ワーク3 (地球サミット)
	12:00	昼食
	13:00～	ワーク4 (ドミノ)
	17:00～	夕食 (カレー作り)
	21:00～	振り返り (~23:00)
3月12日 (木曜日)	6:45	スタッフミーティング
	8:00	朝食
	9:30	移動 (京都外国語大学へ)
	10:00	ワーク5 (最終プレゼン)
	13:30	昼食
	14:50	最終振り返り
	17:00	閉会式
	19:00	懇親会

2. 主立った取組内容

今回の研修に参加した8大学の参加者・学生スタッフは、団結式を終えた後、研修先である「アクトパル宇治」へ移動し、プログラムがスタートした。研修は“平和”を題材としたリーダーシップ・トレーニングを想定しており、チーム活動の中で発生する様々な問題を仲間との助け合いで解決することが求められる一方で、世界の現状(貧困、識字率…等)を目の当たりにする経験を参加者は疑似体験することとなる。

以下、ワークの内容である。

ワーク①：宝探し

コミュニケーションの大切さを意識した「宝探し」では、ブラインドスクエアのアイスブレイクから、ゴールの場所に結びつくためのヒント(点字で書かれている)を読み解きながら、施設内のあらゆる場所に隠されている宝を拾い集め、最終的にゴールにたどり着くことが求められるワークである。



ワーク②：アントレプレナーシップ

ワーク①で得られた宝のうち2つを使って「世界を平和に近づけるためのグッズ」を作成し、全体発表。“様々なものの見方”ができるようになることを目指したワーク。



ハンガーバンケット

ハンガーバンケットでは、食べられる食事の量を変えることによって、世界の現状を実際に体験する。



現状理解グループワーク

参加者は、このグループワークで初めて世界の現状を疑似体験したことや、実際の現状を知ることができる。飢餓・ジェンダー・労働・教育に沿って、レクチャーとグループワークを行い、ワークだけでは伝えきれなかった世界の現状を、“知る”“考える”きっかけを提示。



ワーク③：地球サミット

地球サミットは、前日のワーク、レクチャーでの自らの気づきや理解、過去の知識や自らの価値観を踏まえて、世界で起きている問題について違うチームのメンバーと議論し、まとめ、発表する。このワークでは、前日の振り返りで得ることができた各自の言動に対する気づきを、実際に行動に移すことを求める一方で、多様な価値観を共有し、様々な視点からものごとをとらえることを目的としている。



ワーク④：ドミノ

これまでの全グループワークの学びの実践の場として、参加者 38 名全員によるワーク。平和を表すデイジーの花をドミノによって表現するミッション。とても難しかったが、全員で時間通りに作り上げることに成功。周りを巻き込む、周りへの配慮等が必要。



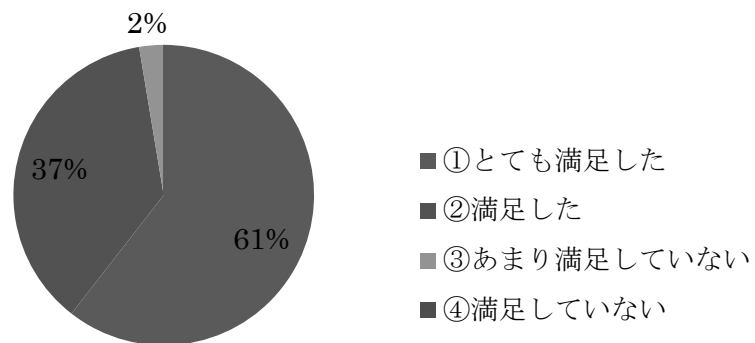
ワーク⑤：最終プレゼンテーション

最終プレゼンテーションは、再度初日のチームに戻り、「世界が平和になるために必要なリーダーシップ」をチームとしてまとめ、全員の前で発表した。



プログラムの
成果

研修プログラム全体を通しての満足度 (n=38)



【参加学生からのコメント】

- ・自分自身員足りていない部分、自分の良いところが見つかった研修でした。4月から社会人になるので、この研修で学んだことを活かせる場だと思おうのでどんどん行動にしていきます。
- ・様々なグループワークで平和について、またリーダーシップについて考えさせられ、自分が思う「平和」を見つけることができ、また自分の持っているリーダーシップについても知ることができました。
- ・想像していたより本当に学生が主体で、学生スタッフが回っていた研修だったので、本当にすごいなと思いました。私もここで見つけた仲間や学校の仲間でのような研修をやりたいなと思いました！

- ・私がスプリングスクールに参加したのは、会議で反発が起きないためにはどんなことをしたら良いかということで悩んでいたからです。求めていた答えは“思いやり”でした。やっと気づけました。
- ・今回の研修に来るまで、自分が苦手だと思ったことから避けることが多かったが、今回の研修を通して、挑戦するということを学んだから、常にチャレンジ精神を持ってポジティブに行動したい。
- ・相手の立場に立って、相手を思いやるということが大切だと一番思った。ただ、自分が相手に対して良いことと思っても、相手はそうは思っていないかもしれないことがあり、相手の目線に立つことが大切だと感じた。
- ・体を使ったり、手を動かしたり、頭をひねらせたりと、とても参加していて楽しかったです。そして、自分が知らない部分、気づかない部分に触れることができすぎてすごく貴重な体験でした。
- ・プログラム前からの目標であった「伝える」という力が少し向上したように感じる事ができた研修でした。また、班という存在を強く感じる事ができた。そんな班があったからこそ、これからの課題や自分の伸ばすべき点をしっかりと振り返れた。
- ・平和に対してはもちろん、今まで以上に深く学べて、今後チャレンジしていきたいことも見つかりました。でも、リーダーシップも自分の性格も見つめ直す事ができて、これからの学校生活とかが楽しみです。9,000円の参加費だったけど安いです。もっと高くてもいいくらい中身の濃い研修でした。本当に参加して良かったし、また行きたいし、九州国際大学とか愛媛大学とかの他の研修も参加していきたいって思いました。3日間で人は変わることができるんだと実感しました。



報告者

京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介

平成 26 年度

リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

実施日	平成 27 年 3 月 17 日（火）～22 日（日）																																																											
実施先	韓国・南ソウル大学 他																																																											
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>2 *19 日振り返り のみ参加</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>京都外国語短期大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>熊本学園大学</td> <td></td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>				大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	1			松山大学			3	広島経済大学	1		2	山口大学			2	山口学芸大学			5	追手門学院大学	2 *19 日振り返り のみ参加	1	8	京都光華女子大学			2	京都文教大学			1	京都外国語大学	1		11	京都外国語短期大学			2	九州国際大学	2		2	熊本学園大学			7	合計	7	1	45
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																									
愛媛大学	1																																																											
松山大学			3																																																									
広島経済大学	1		2																																																									
山口大学			2																																																									
山口学芸大学			5																																																									
追手門学院大学	2 *19 日振り返り のみ参加	1	8																																																									
京都光華女子大学			2																																																									
京都文教大学			1																																																									
京都外国語大学	1		11																																																									
京都外国語短期大学			2																																																									
九州国際大学	2		2																																																									
熊本学園大学			7																																																									
合計	7	1	45																																																									
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、UNGL Global プログラムとして開催された。本研修では、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動を通じてリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的として開催された。開催期間は、6 日間であり、その間参加学生は、各研修ごとにチームを編成し、ミッションとして与えられた最終プレゼンテーションに向けて協働活動を行った。</p> <p>主な研修内容は、日本語を学ぶ南ソウル大学の学生を対象として日本文化紹介、三星イノベーションミュージアム視察、異文化ツアー、韓国人学生とのフィールドワーク兼調査活動、そして韓国と日本の違いについて調査活動に基づいた最終プレゼンテーションであった。</p> <p>プログラム終了毎時、教職員・学生スタッフによる「振り返り」を実施し、スタッフからフィードバックを受けるほか、メンバー間で相互に批評的な振り返りを行った。</p>																																																											
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動に求められるリーダーシップがどのようなものなのかについて説明することができる (2) 目的や計画に基づき、自己の行動やストレスをコントロールすることができる (3) チーム活動に積極的に参加し、チームに貢献することができる (4) チームで設定したテーマについて、効果的なセミナーやプレゼンテーションを計画、実施することができる (5) 韓国の言語や文化に慣れ親しむことができる 																																																											

プログラムの
具体的な
内容・
実施日程

1. スケジュール

平成 27 年 3 月 17 日 (火)	16:30 仁川空港のロビーに集合してください。 (先発 15:00 発、後発 16:30 発) 18:15 南ソウル大学 着 夕 食 オリエンテーション 宿 泊	南ソウル大学 ゲストハウス
平成 27 年 3 月 18 日 (水)	08:00 朝 食 09:00-12:00 三星イノベーションミュージアム 12:00-13:00 昼 食 13:00-14:50 マシュマロ・チャレンジ 14:50-18:00 日本文化紹介①、② 18:00-20:00 夕 食 振り返り 宿 泊	南ソウル大学 ゲストハウス
平成 27 年 3 月 19 日 (木)	09:00 朝 食 10:00-12:50 日本文化紹介③ 13:00-14:00 昼 食 14:00-18:00 独立記念館見学 18:00-20:00 夕 食 振り返り 宿 泊	南ソウル大学 ゲストハウス
平成 27 年 3 月 20 日 (金)	08:00 朝 食 09:00- 南ソウル大学出発 <異文化ツアー> (第 2 トンネル、統一展望台、月井駅) 昼 食、夕 食 宿 泊	ハイソウル ユースホテル
平成 27 年 3 月 21 日 (土)	08:00 朝 食 09:00 韓国人学生とのフィールド・ワーク (景福宮、ソウル市内等) 昼 食、夕 食 21:00 最終プレゼンテーション① (韓国と日本の違いについて)	ハイソウル ユースホテル
平成 27 年 3 月 22 日 (日)	08:00 朝 食 09:00-11:30 最終プレゼンテーション② 全体振り返り 11:30 ハイユースホテル 発 13:00 仁川空港 着 各空港へ出発。帰国。	ハイソウル ユースホテル

2. 主立った取組内容

■ 1 日目 3 月 17 日(火) オリエンテーション

本研修責任者の挨拶後、プログラムのスケジュールを確認し、研修へ参加した目的と達成したい目標を参加者 45 名が発表した。その後、危機管理に関して、学生スタッフから説明を行い、スタッフ側から 2 つのミッションが参加者へ与えられた。

ミッション① 自身に関わる全ての人の顔と名前を一致させる。

ミッション② 韓国と日本の違いについてテーマを決定し、実践に基づいた調査活動を行う。その後、最終プレゼンテーションを実施する。



オリエンテーションの様子



翌日からの研修に向けて

■2日目 3月18日(水) 三星イノベーションミュージアム (写真①②)

韓国の水原市(スウォン)に2014年4月からオープンされた、三星イノベーションミュージアムへ訪問し、エレクトロニクスとサムスンの歴史と未来について学んだ。

■2日目 3月18日(水) マシュマロ・チャレンジ (写真③)

チームビルディングとして、韓国人学生と共同で「マシュマロ・チャレンジ」を実施した。これは、4~8名でチームを分け、パスタ20本、紐・テープ90cm、マシュマロ1個のアイテムで、決められた時間内で出来るだけ高いタワーを作るアクティビティである。



写真①見学している様子



写真②見学している様子②



写真③マシュマロ・チャレンジの様子

■2~3日目 3月18~19日(水~木) 日本文化紹介 (写真④⑤)

事前課題で準備をしてきた、日本の「衣」「食」「住」について、15名1チーム、計3チームに分かれて、タイムマネジメントから発表の環境設定まで全てのマネジメントをチームで行いながら、日本語を3月から学び始めた韓国人学生対象に、日本文化紹介を行った。

■3日目 3月19日(木) 独立記念館見学

日本と韓国の歴史を学ぶため、1987年に設立された忠清道の天安にある独立記念館の見学を行った。



写真④日本文化紹介(1)



写真⑤日本文化紹介(2)

■4日目 3月20日(金) 異文化ツアー (写真⑥⑦⑧)

朝鮮戦争の跡地を見学するため、第2トンネル、統一展望台、月井里駅を訪れ、韓国の歴史や文化背景に触れた。



写真⑥第2トンネル(1)



写真⑦第2トンネル(2)



写真⑧月井里駅前

■ 5日目 3月21日(土) 韓国人学生と共同フィールドワーク (写真⑨)

UNGLの参加者は、5名1チーム、計9チームに分かれて、韓国人学生と共同で景福宮やソウル市内でフィールドワークを実施した。各チームには2~3名の南ソウル大学の学生が参加し、参加者は直に韓国の言語、文化や歴史に接し、様々な体験を行う事が出来た。また、最終プレゼンテーションに向けての調査活動を同時に行った。

■ 最終プレゼンテーション (写真⑩⑪)

オリエンテーション時に課せられたミッション②について、計9チーム(各5名)が、最終プレゼンテーションを参加者の前で行った。テーマは「接客」、「礼儀作法」、「スーパー」、「教育」、「地下鉄・道路の標識やAED等の設備」、「城・寺・家屋」、「恋人同士のコミュニケーション方法」等があった。



写真⑨景福宮にて

写真⑩最終プレゼン(1)

写真⑪最終プレゼン(2)

■ 振り返りについて (写真⑫⑬⑭)

研修終了毎時、教職員(学生スタッフ)による振り返りが実施された。最終日の全体振り返りでは、4チームに分かれて、参加者が立てた目標に対し、自身がチャレンジし、得られた気づきや課題を学生間で共有し、各大学に戻った際に挑戦したい具体的な目標を設定した。



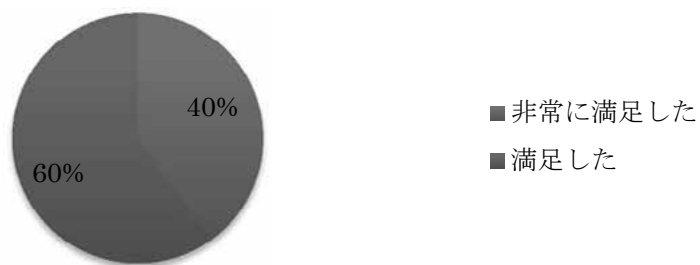
写真⑫南ソウル安先生からのコメント

写真⑬振り返りの様子

写真⑭全体振り返り(最終日)

【アンケート結果(一般参加者)】

(1) 本研修に対する満足度を教えてください。
(n=40)



プログラムの
成果

【参加者からのコメント】

- ・ 振り返りでみんなの意見を聞けたので参考にする事が出来た。
- ・ 違う大学からきている人もいたので、頑張らなくちゃという気持ちが強くなれたこと、また、その気持ちを慣れた場所でも活かせるように気をつけていきたい。
- ・ 良かった点は他大学の学生、韓国人学生と交流ができた時間が多かったこと、やる気を向上させた点は1日1日の振り返りに時間をとり、仲間とフィードバックをして気づきを知ることができたことで明日の目標を決めて行動する意欲を持つことができたこと、来期も継続して行うべき点は1日の振り返りといくつかのミッションを実践することです。本研修で初めて行ったミッションは大変貴重な経験になったと思います。
- ・ 日本文化紹介のプレゼンが良かったと思う。日本語母語話者じゃない人にプレゼンをするのがだいたい人は初めてだったと思う。どのようにするとしっかり伝わるかとかいつものプレゼンでは考えないことまで考えさせられて、とてもいい経験になったと思います。
- ・ 必要な事は気づいた点にも書かせて頂きましたが、スケジュール管理と時間配分だと思います。事前に知ること歴史や文化を学習することができたかもしれないと考えます。やる気を下げた点はバスの移動時間が多くて寝てしまうことが多く、気分が少し悪くなったことです。十分に検討した方が良い点は特にありませんが、より多くの他国の学生と関わる研修内容を設けることができるとより面白いフィールドワークができるのではないかと考えます。



写真⑮集合写真

報告者

九州国際大学経済学部 鈴木 理絵

平成 27 年度

リーダーシップ養成合同合宿 2015

実施日	平成 27 年 5 月 9 日（土）～5 月 10 日（日）																																								
実施先	滋賀県高島市安曇川町近江白浜 白浜荘アネックス淡海																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>大阪大学</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>1(OB)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>プール学院大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>南山大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15</td> <td>4</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	追手門学院大学	8	1	27	大阪大学	3	1	12	京都外国語大学	2	1(OB)	4	京都文教大学			7	摂南大学			2	愛媛大学	1		2	プール学院大学	1			南山大学		1		合計	15	4	54
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																						
追手門学院大学	8	1	27																																						
大阪大学	3	1	12																																						
京都外国語大学	2	1(OB)	4																																						
京都文教大学			7																																						
摂南大学			2																																						
愛媛大学	1		2																																						
プール学院大学	1																																								
南山大学		1																																							
合計	15	4	54																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p><研修の目的> 様々な状況下で求められる多様なリーダーシップについて理解し、価値観・立場・文化背景などが異なる他大学の学生との協働活動を通してリーダーシップ（知識・スキル・態度）を身につける。</p> <p><研修の概要> 「インバスケケット・ゲーム」の手法を用いたプログラム。参加学生はコンサルティング企業「株式会社カレッジ・プラス関西」の社員となり、追手門学院大学及び大阪大学が実施する「学生寮」に関するコンペに参加するための企画を作成する。プログラムの中でミニセミナー（「ロジカルシンキング・クリティカルシンキング」「効果的な企画書とは？提案を通すコツ」「プレゼンテーションのコツ」）も実施。</p>																																								
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自分にあったリーダーシップについて説明することができる (2) 効果的なプレゼンテーションに求められる要素について3つ以上実践することができる (3) 多様なメンバーの特徴を活かして協働することができる (4) 根拠に基づいた発表や提案をすることができる 																																								

平成 27 年度

リーダーシップ・チャレンジ in 台湾

実施日	平成 27 年 7 月 6 日（月）～11 日（土）																																								
実施先	国立高雄第一科技大学（台湾）																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td></td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	1		5	京都外国語大学			1	九州国際大学			1	合計	1		7																				
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																						
愛媛大学	1		5																																						
京都外国語大学			1																																						
九州国際大学			1																																						
合計	1		7																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p>UNGL Advanced Program として実施した本研修は、多国間での異文化研修、国際カンファレンス等での発表・討議・交流を通してリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的としていた。特に、本プログラムでは、複数国（台湾・タイ・日本ほか）の学生が協働して多様なグループワークを行うことにより、国際的に異なる背景を持ったメンバー間でのリーダーシップのあり方、実践的な英語でのコミュニケーションスキルなどを養うことをねらいとしたものであった。</p>																																								
プログラムの 到達目標	<p>(1) 国際化する現代社会において必須のリーダーシップに関する知識・スキル・態度を体得する。</p> <p>(2) グローバル人材に求められるコミュニケーション能力や国際的理解を伸長させる。</p> <p>(3) 文化・歴史的背景の異なるメンバーとの協働、それらのメンバー間において有用なリーダーシップのあり方について学ぶ。</p>																																								
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>1. スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>場所・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月5日 (日)</td> <td></td> <td>高雄国際空港（台湾） 到着 事前ミーティング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月6日 (月)</td> <td>7:30-8:30</td> <td>【朝食】</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>9:10-10:00</td> <td>オープニング・セレモニー</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>10:10-12:00</td> <td>アイスブレイク</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>12:00-13:30</td> <td>【昼食】</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>13:30-15:20</td> <td>チームビルディング</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>15:30-17:20</td> <td>学生セッション（タイ学生担当）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>17:30-19:00</td> <td>【夕食】</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>19:00-22:00</td> <td>ウェルカムナイト（各国文化紹介）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日程	時間	内容	場所・備考	7月5日 (日)		高雄国際空港（台湾） 到着 事前ミーティング		7月6日 (月)	7:30-8:30	【朝食】			9:10-10:00	オープニング・セレモニー			10:10-12:00	アイスブレイク			12:00-13:30	【昼食】			13:30-15:20	チームビルディング			15:30-17:20	学生セッション（タイ学生担当）			17:30-19:00	【夕食】			19:00-22:00	ウェルカムナイト（各国文化紹介）	
日程	時間	内容	場所・備考																																						
7月5日 (日)		高雄国際空港（台湾） 到着 事前ミーティング																																							
7月6日 (月)	7:30-8:30	【朝食】																																							
	9:10-10:00	オープニング・セレモニー																																							
	10:10-12:00	アイスブレイク																																							
	12:00-13:30	【昼食】																																							
	13:30-15:20	チームビルディング																																							
	15:30-17:20	学生セッション（タイ学生担当）																																							
	17:30-19:00	【夕食】																																							
	19:00-22:00	ウェルカムナイト（各国文化紹介）																																							

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

7月7日 (火)	7:30-8:30 9:10-12:00 12:00-13:30 13:30-15:20 15:30-17:20 17:30-19:00 19:00-22:00	【朝食】 模擬会議・討論の準備 【昼食】 リーダーシップ養成ワークショップ 学生セッション（台湾学生担当） 【夕食】 討論と模擬会議の準備	
7月8日 (水)	7:30-8:30 9:10-12:00 12:00-13:30 13:30-16:20 16:30-17:20 17:30-19:00 19:00-22:00	【朝食】 模擬会議 【昼食】 社会問題に関する討論 屋外でのリーダーシップ養成研修 【夕食】 地域でのサービスラーニングの準備	
7月9日 (木)	7:30-8:30 9:10-12:00 12:00-13:30 13:30-17:20 17:30-	【朝食】 地域でのサービスラーニング 【昼食】 地域でのサービスラーニング 【夕食】	
7月10日 (金)	7:30-8:30 9:10-12:00 12:00-13:30 13:30-17:20 17:30-19:00 19:00-22:00	【朝食】 フィールド研修（台湾文化・歴史公園） 【昼食】 フィールド研修（旗津） 【夕食】 フェアウェル・パーティ	
7月11日 (土)	7:30-8:30 9:10-12:00 12:00-13:30 13:30-15:20 15:30	【朝食】 リフレクション 【昼食】 クロージングセレモニー -証明書授与 -写真撮影 終了	

2. 主立った取組内容

「模擬会議（Simulated meeting）」において、参加学生たちは実社会に現存するテーマ（ex：伝染病の蔓延に国家として如何様に対処するか等）について、仮想の内閣を形成し、その具体的な解決方法ないし対処の仕方を考えるべく、活発に意見を交換した。当該会議は全て出席者の共通言語である英語で行われ、国際的なコミュニケーション能力を養うことの重要性を参加者に認識させるものとなった。

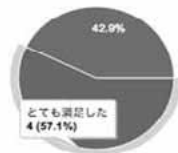


「社会問題に関する討論 (Discussion about social issues)」では、教育環境や都市環境等をテーマに、英語を用いたディベートにチャレンジした。これに先立って、各国から参加した学生たちは幾つかのグループに分けられ、十分な事前調査を行うよう求められた。ディスカッションとは異なり、持論を明確に主張し、相手の意見に反論し、聞き手を説得するディベートの方法について学ぶことができた。



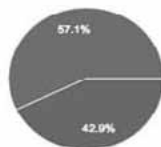
<研修後に実施したアンケート結果>

本研修は全体として満足のものでしたか？



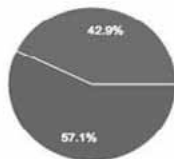
とても満足した	4	57.1%
満足した	3	42.9%
どちらとも言えない	0	0%
あまり満足できなかった	0	0%
全く満足できなかった	0	0%

本研修は、あなたの「リーダーシップ」に関する見方・考え方に何らかの影響や変化をもたらしましたか？



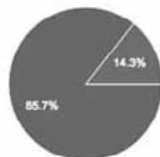
大きく影響した	3	42.9%
影響した	4	57.1%
どちらとも言えない	0	0%
あまり影響しなかった	0	0%
全く影響しなかった	0	0%

教員による事前・事後研修は、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと思いますか？



とても役に立った	4	57.1%
役に立った	3	42.9%
どちらとも言えない	0	0%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

研修中、毎晩行ったリフレクションは、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと感じますか？



とても役に立った	6	85.7%
役に立った	1	14.3%
どちらとも言えない	0	0%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

プログラムの
成果

報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 27 年度

APSSA リーダーズ・カンファレンス 2015

実施日	事前研修 平成 27 年 5 月～7 月 現地研修 平成 27 年 8 月 3 日（月）～8 月 6 日（木）																																
実施先	テイラーズ大学レイクサイド・キャンパス（マレーシア）																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4</td> <td></td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学			3	追手門学院大学	2		1	山口大学			1	京都外国語大学			5	摂南大学	1			松山大学	1		3	合計	4		13
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																														
愛媛大学			3																														
追手門学院大学	2		1																														
山口大学			1																														
京都外国語大学			5																														
摂南大学	1																																
松山大学	1		3																														
合計	4		13																														
研修の目的 および 研修の概要	<p>本プログラムでは、多国間での異文化研修、国際カンファレンス等での発表・討議・交流を通してリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的とした。特に本プログラムでは、多様な観点と考え方からグローバルな課題にアプローチする能力、異なる文化背景と価値観への理解の獲得、国際的なソーシャル・ネットワークの構築をねらいとした。</p> <p>まず、事前研修では、それぞれの大学にて、カンファレンスでのグループ・ディスカッションとプレゼンテーションに求められる英語運用能力向上、異文化理解の知識獲得、リーダーシップについての理解をねらいに研修を実施した。</p> <p>現地研修である「アジア・パシフィック・スチューデント・リーダーズ・カンファレンス 2015」には、アジア太平洋地域の 11 カ国に位置する 45 の大学から 170 名の学生と 30 名の教職員が参加した。カンファレンスでは、教職員と学生と一緒にゲストスピーカーの講演に参加した他、学生は 12 のグループに分かれ、人権、産業化、貧困、文化的アイデンティティ、グローバル化、ダイバーシティにおける調和、ソーシャル・メディア、ボランティアリズム/サービスラーニング、物質主義、市民性、アントレプレナーシップ、ライフスキル養成等についてディスカッションを行った。ディスカッションでは、グループが選択した課題について、若者としてどのように取り組むかについて話し合わせ、最終日に参加者全員に向けてプレゼンテーションが行われた。</p> <p>UNGL からの参加者は、カンファレンス第 1 日目と 3 日目終了時に 1 時間半程度の振り返りを行い、個人の目標の確認と、1 日の経験から得た翌日への教訓の共有などを実施した。</p>																																

<p>プログラムの到達目標</p>	<p>(1) 学生の視点から、グローバルな課題についての意見、解決方法を発表する (2) グローバル人材に必須のリーダーシップに関する知識・態度を向上する (3) 他文化への理解を深め、異なる背景を持つ人々とコミュニケーションを取るスキルを養う</p>																																																																			
<p>プログラムの具体的な内容・実施日程</p>	<p>1. スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="448 584 1378 1783"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">8/3 (月)</td> <td>9:00 ~ 18:00</td> <td>到着・受付</td> </tr> <tr> <td>14:00 ~ 16:00</td> <td>キャンパス・ツアー</td> </tr> <tr> <td>16:00 ~ 18:00</td> <td>グループづくり&アイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>18:00 ~ 18:30</td> <td>集合写真撮影</td> </tr> <tr> <td>18:30 ~ 19:30</td> <td>国際交流会参加準備</td> </tr> <tr> <td>19:30 ~ 21:30</td> <td>ウェルカム・ディナー&文化ショー</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">8/4 (火)</td> <td>9:00 ~ 10:15</td> <td>オープニング・セレモニー&基調講演</td> </tr> <tr> <td>10:15 ~ 10:30</td> <td>ティー・ブレイク/記者会見</td> </tr> <tr> <td>10:30 ~ 11:30</td> <td>講義 1-環境への意識</td> </tr> <tr> <td>11:30 ~ 12:30</td> <td>ワークショップ 1</td> </tr> <tr> <td>12:30 ~ 13:30</td> <td>昼食</td> </tr> <tr> <td>13:30 ~ 14:30</td> <td>ゲストによる講義 2 - 公共心</td> </tr> <tr> <td>14:30 ~ 15:30</td> <td>ワークショップ 2</td> </tr> <tr> <td>15:30 ~ 15:45</td> <td>ティー・ブレイク</td> </tr> <tr> <td>15:45 ~ 16:45</td> <td>ゲストによる講義 3 - 社会文化</td> </tr> <tr> <td>16:45 ~ 17:45</td> <td>ワークショップ 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>17:45</td> <td>Day2 終了</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">8/5 (水)</td> <td>9:00 ~ 10:00</td> <td>ゲストによる講義 4 - 雇用されうる能力</td> </tr> <tr> <td>10:00 ~ 10:45</td> <td>プレゼンテーション準備</td> </tr> <tr> <td>10:45 ~ 11:00</td> <td>ティー・ブレイク</td> </tr> <tr> <td>11:00 ~ 12:20</td> <td>テーマごとのプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>12:20 ~ 13:20</td> <td>ランチ</td> </tr> <tr> <td>13:20 ~ 15:20</td> <td>テーマごとのプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>15:20 ~ 15:40</td> <td>ティー・ブレイク</td> </tr> <tr> <td>15:40 ~ 17:40</td> <td>テーマごとのプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8/6 (木)</td> <td>17:40 ~ 19:30</td> <td>ディナー準備、カクテル&ネットワーキング、文化ゲーム</td> </tr> <tr> <td>19:30 ~ 21:30</td> <td>ディナー、クロージング&表彰式</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8/6 (木)</td> <td>9:00 ~ 18:00</td> <td>クアラルンプール市内視察</td> </tr> <tr> <td>18:00</td> <td>フェアウェル</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 主立った取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループづくり&アイスブレイク 屋外にてすべての参加者がグループに分けられ、コミュニケーション活動やゲームを通して交流を行った。これによって、参加者同士が顔見知りになり、打ち解けることができた。 	日程	時間	取組内容	8/3 (月)	9:00 ~ 18:00	到着・受付	14:00 ~ 16:00	キャンパス・ツアー	16:00 ~ 18:00	グループづくり&アイスブレイク	18:00 ~ 18:30	集合写真撮影	18:30 ~ 19:30	国際交流会参加準備	19:30 ~ 21:30	ウェルカム・ディナー&文化ショー	8/4 (火)	9:00 ~ 10:15	オープニング・セレモニー&基調講演	10:15 ~ 10:30	ティー・ブレイク/記者会見	10:30 ~ 11:30	講義 1-環境への意識	11:30 ~ 12:30	ワークショップ 1	12:30 ~ 13:30	昼食	13:30 ~ 14:30	ゲストによる講義 2 - 公共心	14:30 ~ 15:30	ワークショップ 2	15:30 ~ 15:45	ティー・ブレイク	15:45 ~ 16:45	ゲストによる講義 3 - 社会文化	16:45 ~ 17:45	ワークショップ 3		17:45	Day2 終了	8/5 (水)	9:00 ~ 10:00	ゲストによる講義 4 - 雇用されうる能力	10:00 ~ 10:45	プレゼンテーション準備	10:45 ~ 11:00	ティー・ブレイク	11:00 ~ 12:20	テーマごとのプレゼンテーション	12:20 ~ 13:20	ランチ	13:20 ~ 15:20	テーマごとのプレゼンテーション	15:20 ~ 15:40	ティー・ブレイク	15:40 ~ 17:40	テーマごとのプレゼンテーション	8/6 (木)	17:40 ~ 19:30	ディナー準備、カクテル&ネットワーキング、文化ゲーム	19:30 ~ 21:30	ディナー、クロージング&表彰式	8/6 (木)	9:00 ~ 18:00	クアラルンプール市内視察	18:00	フェアウェル
日程	時間	取組内容																																																																		
8/3 (月)	9:00 ~ 18:00	到着・受付																																																																		
	14:00 ~ 16:00	キャンパス・ツアー																																																																		
	16:00 ~ 18:00	グループづくり&アイスブレイク																																																																		
	18:00 ~ 18:30	集合写真撮影																																																																		
	18:30 ~ 19:30	国際交流会参加準備																																																																		
	19:30 ~ 21:30	ウェルカム・ディナー&文化ショー																																																																		
8/4 (火)	9:00 ~ 10:15	オープニング・セレモニー&基調講演																																																																		
	10:15 ~ 10:30	ティー・ブレイク/記者会見																																																																		
	10:30 ~ 11:30	講義 1-環境への意識																																																																		
	11:30 ~ 12:30	ワークショップ 1																																																																		
	12:30 ~ 13:30	昼食																																																																		
	13:30 ~ 14:30	ゲストによる講義 2 - 公共心																																																																		
	14:30 ~ 15:30	ワークショップ 2																																																																		
	15:30 ~ 15:45	ティー・ブレイク																																																																		
	15:45 ~ 16:45	ゲストによる講義 3 - 社会文化																																																																		
	16:45 ~ 17:45	ワークショップ 3																																																																		
	17:45	Day2 終了																																																																		
8/5 (水)	9:00 ~ 10:00	ゲストによる講義 4 - 雇用されうる能力																																																																		
	10:00 ~ 10:45	プレゼンテーション準備																																																																		
	10:45 ~ 11:00	ティー・ブレイク																																																																		
	11:00 ~ 12:20	テーマごとのプレゼンテーション																																																																		
	12:20 ~ 13:20	ランチ																																																																		
	13:20 ~ 15:20	テーマごとのプレゼンテーション																																																																		
	15:20 ~ 15:40	ティー・ブレイク																																																																		
	15:40 ~ 17:40	テーマごとのプレゼンテーション																																																																		
8/6 (木)	17:40 ~ 19:30	ディナー準備、カクテル&ネットワーキング、文化ゲーム																																																																		
	19:30 ~ 21:30	ディナー、クロージング&表彰式																																																																		
8/6 (木)	9:00 ~ 18:00	クアラルンプール市内視察																																																																		
	18:00	フェアウェル																																																																		



アイスブレイクの様子

●ゲストスピーカーによる講義

Guest Lecture 1 Eco-Consciousness

講師：Ms. Susan Tan、WWF マレーシア マーケティング部門 シニア・マネージャー、ブランド・アクティベーション

内容：WWF マレーシアと大学が提携して行う自然保護活動や、講師が WWF の活動を行うことになった経緯などについて

Guest Lecture 2 Civic-Mindedness

講師：Ms. Sasibai Kimis、Earth Heir（フェアトレード事業）創始者、社会起業家

内容：講師の生い立ちと途上国支援の関係性、先進国の消費スタイルと途上国の貧困との関連性などについて

Guest Lecture 3 Socio-Culture

講師：Professor Perry Hobson テイラーズ大学 グローバル・エンゲージメント副総長

内容：自己が持つ価値と生き方の関連、人生において主人公になることの大切さについて

Guest Lecture 4 Employability

講師：Mr. En. Johan Mahmood Merican Talent Corporation CEO

内容：自己の強みを見極め、それにマッチする仕事を見つけることの大切さについて



ゲストスピーカーに質問する UNGL 学生

● グループ・ディスカッション

参加学生が12のグループに分かれ、人権、産業化、貧困、文化的アイデンティティ、グローバル化、ダイバーシティにおける調和、ソーシャル・メディア、ボランティアリズム/サービスラーニング、物質主義、市民性、アントレプレナーシップ、ライフスキル養成等についてディスカッションを行なった。ディスカッションでは、グループが選択した課題について、若者としてどのように取り組むかが話し合われた。



グループ・ディスカッションの様子

● グループ・プレゼンテーション

グループ・ディスカッションの成果を全体会で発表した。



発表の様子

● 振り返り

カンファレンス第1日目と3日目終了時に1時間半程度の振り返りを行ない、個人の目標の確認と、1日の経験から得た翌日への教訓の共有などを実施した。



振り返りの様子

プログラムの
成果

● 終了時アンケート結果

* オンラインで回答を依頼 回収率 62%

1. 事前研修の満足度を教えてください

大変不満	1名
不満	1名
どちらでもない	3名
満足	2名
大変満足	1名

- ・分からない自分が悔しくて、その場にいるのが辛くなっていました。・・・逃げている自分が嫌いで休むことが逃げていることのように感じ、自分に負けたくないから、毎週休まず行っていたのかなと思います。内容としては貧困だったり、食品ゴミだったり、国際問題につながるものを取り上げられていていい勉強になりました。
- ・予定の2ヶ月前からではなく、1ヶ月前から事前研修を始めたため、余裕を持ってできなかった。また、それをしようとは思っていたが、自分からは行動を起こさなかった。内容的にも、曖昧なまま終わってしまった。
- ・英語をネイティブ並みに話すのではなく、どうしたら相手に伝わりやすい話し方を学び実践した。ゲームをすることでアイスブレイクした。英語を楽しく使い話が凄く弾んだ。

2. 現地カンファレンスの満足度を記してください

大変不満	0名
不満	0名
どちらでもない	1名
満足	2名
大変満足	5名

- ・せっかく質問してくれても質問内容やそれまでの経緯が分からず、こたえてあげることができず、申し訳なさで悔しさでいっぱいでした。そして、その場にいるのが辛くなってしまいましたが、実際に発表を任せられ、文章をつくり、大勢の前で初めて発表することができ自分にとっていい経験になりました。
- ・日本の先生やテイラーズ大学の先生やスタッフの方のサポートに大変感謝しております。アイスブレイクや各タイムスケジュールの誘導など、滞ることなくサポートしている姿を見て、勉強になりました。多国籍の方とのディスカッションは、日本人同士とするディスカッションとは異なる違いがあつて、良さや難しさを身をもって感じる事が出来ました。
- ・日本チームの皆さんとも、お互いを高め合えるとてもいい関係を築けたことは本当に良かった。プレゼンを決める、ワークショップでもっとしっかり話に入り込んでいけていたら、もっと素晴らしいカンファレンスになったと思う。

3. 本研修を通してリーダーシップについて何を学びましたか？

- ・チームのメンバーとの関係がうまく築けていれば、どんなチーム活動もうまく進めることができるということです。チーム活動を経て出た結果も大切だとは思いますが、その結果にたどり着くまでの過程自体も結果と同じくらい大切だと考えています。
- ・人に任せる、仕事を振ることを学びました。何故なら限られた時間の中で発表の準備や作業のために役割分担をしないと行けなかったからです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・成長するのは自分だけではなく、周りの人の成長にも携われるような存在がリーダーであること。視野を広くもって、その人の本質についてみつめることで、良さやさらに良くなる場所を見つけられる。 ・一つの目標に向かう際は国が違っても互いに協力して達成出来ることを学びました。その際は互いに理解し合おうとする姿勢が大事だと思います。また、日本に帰ってから英語の学習にもっと励もうというモチベーションにも繋がりました。 <p>4. APSLC での経験は、あなた自身の成長に影響を与えたと感じますか？</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>まったくそう思わない</td><td>0名</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>0名</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>1名</td></tr> <tr><td>強くそう思う</td><td>7名</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな国々の人々とはたらく際のマインドも理解することが出来ました。それは、お互いに尊重し、理解し合おうとする態度です。 ・殻を破ろうと必死になりました。先生からのアドバイスなどを思い出して、再チャレンジすると徐々に仲間が増え、自分からでも積極的に話しかけることができるようになりました。最後の方になると、自分でも驚くほど友達が増えていました。変わろうと努力しさえすれば、人は変わることができるということを教えられました。 ・少し背伸びできたことで、また挑戦して学び、失敗して次に活かすという経験をさせていただいた。マレーシアの土地で、文化を知ったり、アジアの人と活動を共に出来たり難しさや苦しさも感じたが、それ以上に達成感や喜びがあった。 <p>5. 教職員や学生スタッフによる振り返りは、あなた自身の成長に影響を与えたと感じますか？</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>まったくそう思わない</td><td>0名</td></tr> <tr><td>そう思わない</td><td>0名</td></tr> <tr><td>そう思う</td><td>4名</td></tr> <tr><td>強くそう思う</td><td>4名</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップについて深く考え、UNGL の研修に関わったりするようになり、「自分」に焦点を当てることが多くなったため、だいぶ自分を知ることができてきたのではないかと考えていましたが、まだまだ知らない部分があることや改善点に先生の言葉を受けて気付くことができました。 ・1日1日の振り返りをその日にすることで、鮮明な記憶を引き出すことができた。また、全員の前で次の日の目標を宣言することによって、責任感が生まれ、達成しようとする力も、達成する力もついた。 <p>6. 本研修をより良いものにするために提案があれば記してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムラのない情報共有をお願いします。 ・研修の内容が盛り沢山すぎる気がするので、研修の日数をもう少し長く設定する。または研修の日数は変えずに、プレゼンのテーマや内容に関してチームのメンバーと事前に連絡を取り合ってお話し合いを進めておくように、強く促す。また、解決策は具体的にどうしたら良いかまで深く掘り下げるようにルール設定をする。 	まったくそう思わない	0名	そう思わない	0名	そう思う	1名	強くそう思う	7名	まったくそう思わない	0名	そう思わない	0名	そう思う	4名	強くそう思う	4名
まったくそう思わない	0名																
そう思わない	0名																
そう思う	1名																
強くそう思う	7名																
まったくそう思わない	0名																
そう思わない	0名																
そう思う	4名																
強くそう思う	4名																
報告者	松山大学学生支援室 泉谷 道子																

平成 27 年度

夏休み子どもスポーツ体験ウィークを通したリーダーシップ研修

実施日	平成 27 年 8 月 19 日（水）～21 日（金）																					
実施先	京都外国語大学第 2 分館武道体育館及び第 1 体育館																					
参加者	大学名	教職員	学生スタッフ	学生																		
	京都外国語大学・短期大学	5	15	40																		
	摂南大学			1																		
	合計	5	15	41																		
研修の目的 および 研修の概要	<p>本学では、11 年前から体育会所属クラブ（サッカー部・バドミントン部・ソフトテニス部・バレーボール部）による所在地近隣の京都市立山ノ内小学校児童へのスポーツプログラム提供を行なっている。そこで、UNGL Basic プログラムとして、コーチングと危機管理を中心としたスポーツイベントにおけるマネジメントについて、理論習得と実践の場を提供した。</p> <p>研修内容は、京都外国語大学が地域連携として行っている小学生向けスポーツ体験講座に、運営者として、またスポーツコーチとして参加した。イベント運営者としては、体育会本部の学生と協力しながら、スポーツイベントのトータルコーディネートを学んだ。実際の受付等はもちろん、子供たちへの会場移動の手伝いやスポーツ体験時のけがや事故の安全管理等、裏方としての考え方、動き方を学んだ。コーチとしては、体育会所属クラブの学生と協力しながら、実際にバドミントン、サッカーの指導を行った。どのような声掛けをすれば子供たちが興味を持ってくれるのか、また休憩のタイミングなど、子供の安全に対してどのように配慮すればいいのかなど、実践的に学んだ。また、実践研修と並行して、「イベント・マネジメント」「危機管理」、「コーチング」に関する理論を学ぶことによって理解を深めた。「イベント・マネジメント」を岸岡講師が担当し、「危機管理」、「コーチング理論」については中嶋准教授が担当した。</p>																					
プログラムの 到達目標	<p>小学生へのスポーツ指導体験と大会事務局運営体験、レクチャーを通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント・マネジメントに必要なポイントについて説明することができる ・危機管理に必要なポイントについて説明することができる ・コーチングに必要なポイントについて説明することができる ・自己の所属組織で行うイベント等の企画・立案に活かすことができる 																					
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>【プログラム内容】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>8 月 19 日（水）</th> <th>8 月 20 日（木）</th> <th>8 月 21 日（金）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:00</td> <td>ミーティング</td> <td>ミーティング</td> <td>ミーティング</td> </tr> <tr> <td>9:30</td> <td>子供誘導・受付</td> <td>子供誘導・受付</td> <td>子供誘導・受付</td> </tr> <tr> <td>10:00</td> <td rowspan="2">現場研修 スポーツ体験視 察（施設・内容 の把握）</td> <td>現場研修（グループ A） コーチング （バドミントン）</td> <td>現場研修（グループ B） コーチング （サッカー）</td> </tr> <tr> <td>11:30</td> <td>現場研修（グループ B） マネジメント （危機管理）</td> <td>現場研修（グループ A） マネジメント （危機管理）</td> </tr> </tbody> </table>				8 月 19 日（水）	8 月 20 日（木）	8 月 21 日（金）	9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	9:30	子供誘導・受付	子供誘導・受付	子供誘導・受付	10:00	現場研修 スポーツ体験視 察（施設・内容 の把握）	現場研修（グループ A） コーチング （バドミントン）	現場研修（グループ B） コーチング （サッカー）	11:30	現場研修（グループ B） マネジメント （危機管理）	現場研修（グループ A） マネジメント （危機管理）
	8 月 19 日（水）	8 月 20 日（木）	8 月 21 日（金）																			
9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング																			
9:30	子供誘導・受付	子供誘導・受付	子供誘導・受付																			
10:00	現場研修 スポーツ体験視 察（施設・内容 の把握）	現場研修（グループ A） コーチング （バドミントン）	現場研修（グループ B） コーチング （サッカー）																			
11:30		現場研修（グループ B） マネジメント （危機管理）	現場研修（グループ A） マネジメント （危機管理）																			

12:00	教室終了(昼食)	教室終了(昼食)	教室終了(昼食)
13:00	イベント・マネジメント(90分)	危機管理(90分)	コーチング技法(90分)
14:30	振り返り	振り返り	振り返り

※小学生への提供競技はバドミントンとサッカー(変更・調整不可)。

【使用施設および小学生の参加について】

バドミントン: 武道体育館使用 45 人(1~3年), 第一分館体育館使用 45 人(4~6年)

サッカー : 武道体育館使用 56 人(1~3年), 第一分館体育館使用 45 人(4~6年)



<p>プログラムの 成果</p>	<p>【参加学生からのコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラケット競技（バドミントン）なので、子供たちがふざけて振り回したりするかと思ったが、そういったことはなく、楽しんでくれてよかった。また、教える側としては、子供たちをまとめるなどいろいろと良い経験ができた。 ・（雨で）体育館に変更になったことで、人数が増え、スペースも限られたが大きな問題もなかったと思う。また、熱中症やけが人も出ず良かった。 ・子供達の元気に驚いた。「楽しかった」や「また来る」と言ってくれた子供もいて、とても良かった。 ・時間配分、休憩等をしっかりと考える必要があった。時間が伸びた時のパターンも考えておく必要があった。 ・私たち、先生側が子供達の立場に立ち、皆を上手くまとめることができたことは良かったと思う。 ・わかりやすく指導するためにどうするか、言葉使いを気にしたり、普段とは少し違った視点でバドミントンをすることができた。 ・全員が常に参加でき、ボールによく触れ合うことが出来たと思う。また、体育館での活動になったが、スムーズに進められた点も良かった。 ・自分が高校や大学でプレーヤーとしては当たり前と思ってやっていたこと（大会など）が、実は裏では「イベント・マネジメント」や「危機管理」の視点からものすごく配慮されていることが実感できた。そういう人達のありがたみを感じることができた。 ・今後は、自分が主体となってこういうイベントを開催したいと思った。 ・裏方の仕事は、実際のイベント実施時間帯にも動いていてビックリした（修了証の作成や事後処理に関して）。 ・実際のイベント企画の仕方を学ぶことができた。 <p>【課 題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際には、本学の体育会所属クラブの学生を対象とした事業を UNGL 研修として開放したため、UNGL 参加者にとって体験できるスポーツ種目が限られている点は致し方ないとしても、今後検討を必要とする。 ・これまでは関西圏の連携校以外からの参加者が出ていないため開催に不安はなかったが、今後そういう地域から参加者希望者が出てきた場合の対応を検討する必要がある（開催日程、プログラム内容） ・宿泊施設の斡旋や近隣情報の開示については参加者から寄せられたコメントであるため、今後の検討材料としたい。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>報 告 者</p>	<p>京都外国語大学 外国語学部 岸岡 洋介</p>

平成 27 年度

FM 高松番組制作プログラム

実施日	平成 27 年 8 月 23 日 13:00~18:30																				
実施先	香川大学生涯学習教育研究センター 第二講義室																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2</td> <td></td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	香川大学	1		6	京都外国語大学			1	広島経済大学	1			合計	2		7
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																		
香川大学	1		6																		
京都外国語大学			1																		
広島経済大学	1																				
合計	2		7																		
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、香川大学で通年開催している FM 高松コミュニティ放送との連携事業である番組制作プログラムのうち、9 月放送分の収録を他大生にも開放したものである。本番組制作プログラムは 2013 年度にはじまり、過去 2 年間も同様に 8 月に他大生と一緒に番組制作を行ってきたが、香川大学生の強い要望により今年度も実施することとなった。</p> <p>リーダーシップを構成するスキルには様々なものがあるが、「他人に自分の考え・思いを伝える」能力は必須である。本プログラムでは不特定多数を相手に公的に発信する能力を育成するために実施している。</p> <p>開催期間は、1 日間である。香川大学生 2 名の番組 MC を中心に、60 分間の番組制作を行った。友人同士の親しい間柄のコミュニケーションではなく、必ずしも背景を同じくしているわけではない他者に対する公的な発信とはどのようなものであるべきかについて、それぞれの発話を振り返りながら制作を進めた。</p>																				
プログラムの 到達目標	<p>(1) 他大生と協働して番組制作を行う</p> <p>(2) 分かりやすい説明とはどのようなものか理解する</p> <p>(3) 「公的な発信」のあり方について理解する</p>																				
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>1. スケジュール</p> <p>13:00~14:00 プログラムの内容説明</p> <p>14:00~14:10 収録機材セッティング</p> <p>14:10~18:10 収録</p> <p>18:10~18:30 収録機材片づけ・振り返り</p> <p>2. 取組内容</p> <p>13:00 からの内容説明では、2013 年度からの本事業の経緯を含め、プログラムの趣旨の説明を行った。14:00 からは、「香大生 presents Art Time Junction」(2015 年度第三回目の放送、放送日 9 月 2 日(水) 22:00~23:00)の収録を行った。</p>																				

<p>プログラムの 成果</p>	<p>香川大学生はいつも固定メンバーで番組制作を行っており、他大生との交流する機会は限られている。他大生とともに協働して番組制作を行うことは大きな刺激となっている。今年度は過去2年間と違い、番組制作経験の全くない学生の参加であったため、香川大学生が一から制作の方法論について説明し、60分番組の一部に出演してもらったが、他大学生の考え方に触れる良い機会であった。今回は広島経済大学でFMハムスター（大学内に設置されているコミュニティ放送局）の番組制作を学生に指導している教員の参加もあったが、通常指導を受けている教員とは違う角度からのアドバイスが得られたのも貴重であった。</p> <p>一方、京都外国語大学の学生は、「はじめての体験で不安もあったが、知らないことを経験できてよかった」と感想を述べている。</p>
<p>報告者</p>	<p>香川大学生涯学習教育研究センター 山本 珠美</p>

平成 27 年度

やりたい仕事創造学校

実施日	平成 27 年 8 月 26 日（水）～28 日（金）																																								
実施先	松山市野外活動センター（レインボーハイランド）																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	1	4	1	松山大学	1	1		香川大学			1	山口大学			2	京都文教大学			4	愛知みずほ大学			1	九州国際大学			1	摂南大学			2	合計	2	5	12
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																						
愛媛大学	1	4	1																																						
松山大学	1	1																																							
香川大学			1																																						
山口大学			2																																						
京都文教大学			4																																						
愛知みずほ大学			1																																						
九州国際大学			1																																						
摂南大学			2																																						
合計	2	5	12																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p>UNGL Basic プログラムとして実施した本研修は、参加大学生が中学生を対象としたキャリア教育の立案・運営を通じて実際的な企画力を養成するとともに、関係各所との調整力や、他者の言動を客観的に捉え、改善を促そうとする姿勢、次世代の育成する使命感等のリーダーシップ・マインドを養成すること等を目的として実施した。</p> <p>本研修は、UNGL のステークホルダーである NPO 法人「F ネット愛媛」と共同で実施しているもので、本年度で 3 回目を数える。その概要は、松山市の中学生を対象に、社会にはどのような仕事があるのか、そのやりがいや働くことの楽しさとはいかなるものであるのかを学ぶ機会を提供するというものである。中学生たちが、それをもとに将来やりたい仕事を探し、自分の進路や目標について考えるきっかけを得ることをねらいとしている。大学生は、本研修の企画・立案に携わるとともに、社会人講師と中学生の橋渡し役となり、中学生たちが今後のキャリアについて考えるサポートを行った。これを通じて、上述のようなリーダーシップを養成することが本研修の主たる目的であった。</p>																																								
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 他者の学習を動機付け、考えるプロセスを支援する際に求められる姿勢・スキルについて学ぶ。 (2) 研修の運営経験を通じて、企画の立案・実施に必要な知識・態度を学び、実践できるようになる。 (3) 社会人講師との打ち合わせ等を通じて、実社会で求められる調整力の必要性に気づく。 																																								

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

◆1日目〈8月20日(水)〉

時間	内容
13:00	愛媛大学集合・出発
13:30	レインボーハイランド到着、施設確認
14:00	本番の流れの確認
18:00	夕食
19:00	最終打ち合わせ、物品準備

◆2日目〈8月21日(木)〉

時間	内容
10:00	愛媛大学〈城北キャンパス〉集合、バス移動
10:30	レインボーハイランド到着
10:40	開校式
11:00	アクティビティ①
12:30	昼食
13:30	アクティビティ②
19:00	夕食

◆3日目〈8月22日(金)〉

時間	内容
8:00	朝食
9:00	アクティビティ③
12:30	昼食
13:30	アクティビティ④
16:00	閉校式
16:30	バス移動
17:00	愛媛大学〈城北キャンパス〉解散、片づけ後スタッフ振り返り

2. 主立った取組内容

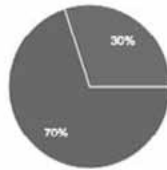
3日目の午前中には、松山市内で働く社会人（銀行員、クリニック経営者、パティシエ、TVディレクターほか）を講師に招き、自身の仕事内容について、またそのやりがい・働きがい等について生の声を聞くことができた。大学生らは、中学生がその話を理解しまとめるサポートを行うとともに、積極的に質問・コメントすることによって自らのキャリア構築についても思いをめぐらすことができたようである。

同日午後には、中学生たちが本研修を通じて学んだ内容をまとめ、皆の前で発表する機会を設けた。大学生たちは、中学生の学習内容を振り返り、それをもとに今後の目標を設定するのを助けることができた。



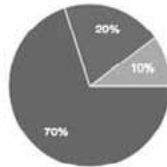
プログラムの
成果

本研修は全体として満足のいくものでしたか？



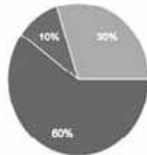
とても満足した	7	70%
満足した	3	30%
どちらとも言えない	0	0%
あまり満足できなかった	0	0%
全く満足できなかった	0	0%

本研修は、あなたの「リーダーシップ」に関する見方・考え方に何らかの影響や変化をもたらしましたか？



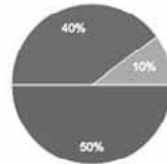
大きく影響した	7	70%
影響した	2	20%
どちらとも言えない	1	10%
あまり影響しなかった	0	0%
全く影響しなかった	0	0%

研修中、1日目の晩に行ったりフレクションは、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと感じますか？



とても役に立った	6	60%
役に立った	1	10%
どちらとも言えない	3	30%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

教員による指導や声かけは、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと思いますか？



とても役に立った	5	50%
役に立った	4	40%
どちらとも言えない	1	10%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

今後、同様の研修があれば友人や後輩などに参加を勧めたいと思いますか？



是非とも勧めたい	10	100%
どちらとも言えない	0	0%
勧めたくない	0	0%

報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 27 年度

学生リーダーズ・サマースクール

実施日	平成 27 年 9 月 8 日～10 日																																																								
実施先	愛媛県松山市中島・B&G 海洋センター及び姫が浜ビーチ他																																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>高知大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>21</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	3	6	3	香川大学	1		1	山口大学	1		2	佐賀大学	1		3	松山大学	1	1	4	京都文教大学	1	5	7	京都外国語大学	1	3	5	追手門学院大学		3	9	摂南大学			2	広島経済大学	1		5	九州国際大学		3	10	高知大学			2	合計	10	21	53
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																						
愛媛大学	3	6	3																																																						
香川大学	1		1																																																						
山口大学	1		2																																																						
佐賀大学	1		3																																																						
松山大学	1	1	4																																																						
京都文教大学	1	5	7																																																						
京都外国語大学	1	3	5																																																						
追手門学院大学		3	9																																																						
摂南大学			2																																																						
広島経済大学	1		5																																																						
九州国際大学		3	10																																																						
高知大学			2																																																						
合計	10	21	53																																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、UNGL Basic プログラムとして開催された。本研修では、チームの目標を達成するために、チームの中での自分自身の役割を認識しながら、変化する状況に対応できる実践的なリーダーシップを身につけること、物資や情報が限られた、追い込まれた状況の中で生き抜く力を養うことを目的として開催された。</p> <p>開催期間は、3 日間であり、その間参加学生は 1 チーム 5～6 名のチームに分かれ、日常とは異なる不自由な環境（島での生活）、物資や情報が限られた（サバイバル）状況において、仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組み、最終目標に向かって協働した。その過程の中で、メンバーそれぞれの言動について、「チームの目的を達成するためのリーダーシップ」という観点から学生スタッフおよび教職員スタッフによるフィードバックを受けるほか、メンバー間で相互に批評的な振り返りを行い、自分自身に求められる実践的なリーダーシップを身につけた。</p>																																																								
プログラムの 到達目標	<p>野外でのチーム活動などを通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) チーム内での自分の役割を理解し、状況にあったリーダーシップを発揮することができる (2) 他者からの評価を謙虚に受け止め、自己を客観的に振り返ることができる (3) 人間関係が良好なものとなるよう配慮しつつ、仲間の成長を促す働きかけをすることができる (4) なりたい自分を明確にし、それを実現するための計画と行動目標を立てることができる 																																																								

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

1日目

時間	内容
7:30-8:00	学生スタッフミーティング
8:00-8:30	受付・物品準備
8:30-9:00	受付
9:00-10:00	バス移動(愛媛大学～高浜港)
10:25-11:30	フェリー移動(高浜港～中島)
11:30-12:00	徒歩移動(フェリーターミナル～B&G海洋センター)
12:00-12:30	開校式
12:45-19:00	ミッション①食料・物品調達ミッション
19:00-19:30	スタッフミーティング
20:00-22:00	グループリフレクション

2日目

時間	内容
7:00-7:30	スタッフミーティング
8:30-10:30	カヌー講習／プレゼン準備
10:30-10:50	ミッション②Tシャツプレゼン
11:00-11:50	ミッション③カヌーレース
12:00-17:00	ミッション④ワクチン獲得ミッション／ミッション⑤昼食獲得ミッション
17:30-18:30	グループリフレクション
19:00-21:00	懇親会
21:00-22:00	キャンプファイヤー

3日目

時間	内容
8:00-8:30	スタッフミーティング
8:30-10:00	片付け・ゴミ拾い
10:00-10:40	写真撮影・お礼の言葉
10:40-11:10	徒歩移動(姫が浜ビーチ～フェリーターミナル)
11:40-12:20	フェリー移動(中島～高浜港)
12:40-13:10	バス移動(高浜港～愛媛大学)
13:40-15:10	全体リフレクション
15:10-15:40	閉校式

2. 主立った取組内容

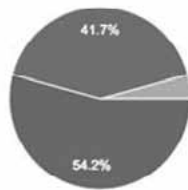
- ・ミッション (①～④)：現地でランダムに組み合わされたグループのメンバーとともに、食料や物資の調達等、多くの課題に取り組み、その中でのチーム活動を通して、合意形成のプロセスを学んだ。
- ・グループリフレクション：教職員・学生スタッフのファシリテーションのもと、グループごとに1日の活動を振り返り、葛藤や混乱の原因を探るとともにその中での効果的なリーダーシップのあり方について学びを得た。
- ・全体リフレクション：3日間の研修全体を通して得た気づきや学びを整理し、これからの自分にどのように適用・応用していくことができるかを考え、目標を設定した。



プログラムの
成果

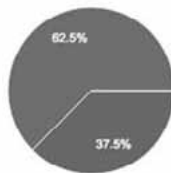
<研修後に実施したアンケート結果>

本研修は全体として満足のいくものでしたか？



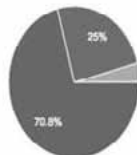
とても満足した	13	54.2%
満足した	10	41.7%
どちらとも言えない	1	4.2%
あまり満足できなかった	0	0%
全く満足できなかった	0	0%

本研修は、あなたの「リーダーシップ」に関する見方・考え方に何らかの影響や変化をもたらしましたか？



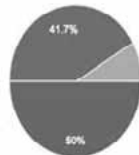
大きく影響した	9	37.5%
影響した	15	62.5%
どちらとも言えない	0	0%
あまり影響しなかった	0	0%
全く影響しなかった	0	0%

研修中に行った「振り返り（リフレクション）」は、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと感じますか？



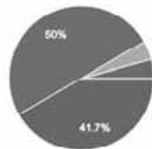
とても役に立った	17	70.8%
役に立った	6	25%
どちらとも言えない	1	4.2%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

学生スタッフからのコメントやフィードバックは、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと感じますか？



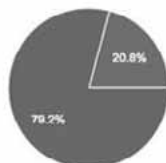
とても役に立った	12	50%
役に立った	10	41.7%
どちらとも言えない	2	8.3%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

教職員からの指導やフィードバックは、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと感じますか？



とても役に立った	10	41.7%
役に立った	12	50%
どちらとも言えない	1	4.2%
あまり役に立たなかった	1	4.2%
全く役に立たなかった	0	0%

今後、同様の研修があれば友人や後輩などに参加を勧めたいと思いますか？



是非とも勧めたい	19	79.2%
どちらとも言えない	5	20.8%
勧めたくない	0	0%

報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 27 年度

プロジェクトつくりま SHOW!!

報告者	山口大学大学教育機構学生支援センター 松岡 陽子											
実施日	平成 27 年 11 月 21 日 (土)											
実施先	山口大学											
参加者	<table border="1"><thead><tr><th>大学名</th><th>学生</th><th>教職員</th></tr></thead><tbody><tr><td>山口大学</td><td>7</td><td>2</td></tr><tr><td>合計</td><td>7</td><td>2</td></tr></tbody></table>			大学名	学生	教職員	山口大学	7	2	合計	7	2
大学名	学生	教職員										
山口大学	7	2										
合計	7	2										
完了報告	参加学生は少なかったものの、熱意ある学生が集い、充実した研修を実施することができた。学生が企画するイベントにかんして、今回は特に広報活動に焦点をおいた。学んだものをすぐに実践できる内容であったため、アンケート結果も良好であった。											
<p>【プログラム到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・限られた時間のなかで、課題に取り組むことができる。・与えられたテーマに沿いつつ、ニーズのある企画を創出できる。・リスクを念頭においた実現可能な企画とは何かを知る。 <p>【プログラム概要】</p> <p>限られた時間のなかでテーマに沿った実現可能な企画を作成する。今回は特に広報戦略に力点を置き、グループワーク形式で学ぶ。</p> <p>【プログラム内容】</p> <p>時間：13：00～17：30 場所：山口大学共通教育棟 15 番教室</p> <p>〈内容〉</p> <p>山口大学・辻講師の指導のもと、イベントプランニングについて講義、グループワーク等があった。</p> <ul style="list-style-type: none">－アイスブレイクを兼ねたグループワーク（貿易ゲーム）－全体講義とグループワーク(1) イベントプランニングについて～目的と進め方(2) 目的の明確化～テーマ紹介、現状把握、現状分析、目的の明確化(3) 広報について戦略的に考える <p>【研修後アンケート結果】</p> <p>少人数であったため、指導が行き届き、参加者の研修に対する評価は高評価だったと考えられる。</p> <p>(以下、アンケート抜粋)</p> <p>(1) 本研修で学んだものを今後の大学生活や社会生活に生かすことができますか？</p> <p>①強くそう思う（4名） ②まあそう思う（3名） ③どちらとも言えない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤まったくそう思わない（0名）</p>												

(2) スタッフの指導は有益でしたか？

- ①強く思う (6名) ②まあ思う (1名) ③どちらとも言えない (0名)
④あまり思わない (0名) ⑤まったく思わない (0名)

(3) 全体的に本研修に満足できましたか？

- ①強く思う (5名) ②まあ思う (2名) ③どちらとも言えない (0名)
④あまり思わない (0名) ⑤まったく思わない (0名)

【研修中の風景】



写真1 全体講義の風景



写真2 チーム別グループワークの風景



写真3 個人ワークの風景



写真4 全体グループワークの風景

【研修後の活用】

参加者のなかには研修で学んだものを活かし、大学の食堂にキャッチフレーズが書かれた三角ポップを置き、効果的に広報することに成功した。



写真5 大学食堂の三角ポップ①



写真6 大学食堂の三角ポップ②

平成 27 年度

一学一山運動フォーラム

報告者	広島経済大学 興動館 中山 紘之																																								
実施日	平成 27 年 12 月 5 日 (土) ~6 日 (日)																																								
実施先	広島経済大学 興動館																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教員</th> <th>職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三重大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>新見公立大学</td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>愛仁会看護助産師専門学校</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>早稲田大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>広島大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>広島修道大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他一般</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教員	職員	学生	三重大学	1		2	新見公立大学			9	愛仁会看護助産師専門学校			1	早稲田大学		1		広島大学			1	広島経済大学		2	11	広島修道大学			1	その他一般				合計	1	3	25
大学名	教員	職員	学生																																						
三重大学	1		2																																						
新見公立大学			9																																						
愛仁会看護助産師専門学校			1																																						
早稲田大学		1																																							
広島大学			1																																						
広島経済大学		2	11																																						
広島修道大学			1																																						
その他一般																																									
合計	1	3	25																																						
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ボランティアコーディネーター 仲村 正彦氏 ・ 三重大学 大学院生物資源学研究科 緑環境計画学 教授 松村 直人氏 <p>【ファシリテーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島経済大学 興動館 中山 紘之 																																								
完了報告	<p>12月5日(土)、6日(日)の両日、興動館において「一学一山運動フォーラム 2015～つながりが森を守る力になる～」を開催した。</p> <p>この取り組みは、ひとつの大学が一つの山や自然を保全しようという取り組みで、全国から環境保全を実施する団体や個人が集まり、現場実習やワークショップを通じて、「つながり」や「ノウハウ」「明日へのやる気」を持ち帰るといった内容。</p> <p>当日は25名の学生が一堂に会し、普段、武田山まちづくりプロジェクトがまちづくりの施策として開発する「たけだの里」において、間伐などの保全活動や道づくり、ベンチづくりを実施した。</p> <p>また、「共生の森」をテーマに「たけだの里」の未来を考えるワークショップを開催し、5グループの学生たちが様々な視点やアイデアで、それぞれの「たけだの里」の未来について検討した。</p> <p>2日目には、武田山の振興を図る「プロジェクト武田山」主催の登山会に参加し、歴史や植生の見識を深めた後、山頂にて模造紙一枚にまとめた「たけだの里」の未来について発表会を実施した。</p> <p>これらの発表アイデアは広島経済大学の武田山まちづくりプロジェクトが今後の活動のヒントとし、具体的に進めて行く予定。</p>																																								

【プログラム到達目標】

つながる：参加者同士がつながり、仲間になる

学び合う：保全活動におけるノウハウや知の共有をはかる

創造する：参加者同士が創造性を発揮し、一学一山運動への新たな取り組みについて考える

【プログラム概要】

(1) 目的：参加者の参画意識を高め、一学一山運動の振興をはかる

(2) 日時：平成27年12月5日(土)～6日(日)

(3) 共催：早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター、広島経済大学興動館
文部科学省大学間連携共同教育推進事業「西日本リーダーズスクール (UNGL)」

(4) 宿舎：広島経済大学興動館 〒731-0138 広島市安佐南区祇園5丁目1番27号

(5) フィールド：広島経済大学 第三校地西側山林「武田の里(仮称)」

(6) 参加費：4,000円(懇親会費、ふとん代、茶菓子代ほか)

【プログラム内容】

1日目 10:00～ オリエンテーション・アイスブレイク

初対面の参加者同士が、共に学び合い創造性を発揮できるような規範作りをすることに努めた。参加動機やそれぞれの活動についてなど、じっくり時間をかけて分かち合い、語り合った。



13:00～ フィールドワーク 「武田の里」の間伐作業

森林保全のノウハウについて、フィールドに出て学び合った。広島経済大学「武田山まちづくりプロジェクト」が普段から活動の拠点としている「武田の里」において、原生植生の森にするための間伐のノウハウを学び実践した。



18:00～ グループワーク

山を整備し調査したことを基にゾーニング作業を行った。テーマを「共生の森」とし5グループ6人に分かれそれぞれのアイデアを模造紙にまとめた。



2日目 9:30～ 武田山登山

地元地域の方々と登山を実施。武田山の植生や史跡についての見識を深めた。



12:30～ 山頂にて発表会

山頂にて地元地域の方々に対して、グループワークでまとめたアイデアを発表した。



13:30 ふりかえり・クロージング

1泊2日のふりかえりを行った。気づきや学び、自らの行動や態度についてなど発表した。



15:00 解散

平成 27 年度

学生 FD の WA!!!!!!!

実施日	平成 27 年 12 月 12 日（土）10:00～18:00																																																								
実施先	追手門学院大学 3 号館 2 階 3204 教室																																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>大阪大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>岡山理科大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都産業大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>長崎大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>花園大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>阪南大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>北翔大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>明治国際医療大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	追手門学院大学	1	6	10	大阪大学			1	岡山理科大学			1	京都外国語大学	1		3	京都産業大学			2	京都文教大学		4	2	長崎大学			1	花園大学			1	阪南大学			1	北翔大学	2		2	明治国際医療大学			1	一般	1			合計	5	10	25
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																						
追手門学院大学	1	6	10																																																						
大阪大学			1																																																						
岡山理科大学			1																																																						
京都外国語大学	1		3																																																						
京都産業大学			2																																																						
京都文教大学		4	2																																																						
長崎大学			1																																																						
花園大学			1																																																						
阪南大学			1																																																						
北翔大学	2		2																																																						
明治国際医療大学			1																																																						
一般	1																																																								
合計	5	10	25																																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は本学の学生 FD 集団「学生 FD パレット」主催、京都文教大学の学生 FD 集団「FSD プロジェクト」の共催によって企画・運営されたセミナーである。「ロジカルシンキング」をテーマに、コミュニケーションエラーを防ぐために論理的な思考で物事を整理する手法とそれに関連した相手に伝わりやすい伝え方を参加者に身につけてもらうことを目的とした。</p> <p>本セミナーでは、本学基盤教育機構の田上准教授監修のもと、学生 FD パレットの学生自身がセミナー講師となり、テーマと目的に基づいたセミナーを行なった。セミナーは、「多面的思考（広げる）」、「論理的思考（組み立てる）」、「批判的思考（深める）」の 3 つのサブテーマから構成されており、それぞれ導入、第 1 幕、第 2 幕に分け進められた。</p> <p>セミナー全体を通し、参加者は多面的、論理的、かつ批判的にグループでのディスカッションが進むよう、各々のリーダーシップを発揮しながらグループワークを進めていった。</p>																																																								
プログラムの 到達目標	<p>(1) 「ロジカルシンキング」を用い相手に伝わりやすい伝え方を身につけることができる</p> <p>(2) 論理的に物事を整理する方法を説明することができる</p>																																																								

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

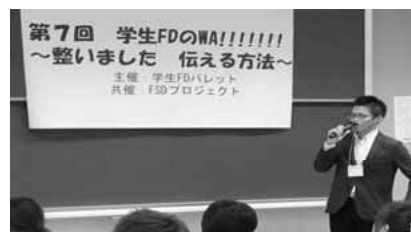
日程	時間	取組内容
12月12日 (土曜日)	10:00～10:15	オープニング
	10:15～11:45	導入～拡げる～
	11:45～13:00	昼休み

日程	時間	取組内容
12月12日 (土曜日)	13:00～14:20	第1幕～組み立てる～
	14:30～15:30	第2幕～深める～
	15:30～15:50	振り返り
	16:10～18:00	懇親会

2. 主立った取組内容

【オープニング】

追手門学院大学秦副学長の挨拶にはじまり、京都文教大学のFSDプロジェクトによる学生FDのWA!!!!!!の経緯が説明された。



【導入～ロジカルシンキングとは～】

多面的思考（拡げる）をテーマとした導入部分。拡散思考、収束思考などの理論的説明やそれを基にしたワークが行われた。



【第1幕】

論理的思考（組み立てる）をテーマに、導入部分で触れた理論やワークを基に、アウトプットした情報をどのように論理的に組み立てていくかの理論説明、ワークが行われた。



【第2幕】

批判的思考（深める）をテーマに、論理的に組み立てられた話に対する批判的視点をもつ方法の理論的説明、ワークが行われた。



プログラムの 成果	<p>【アンケート回収率】 85%</p> <p>【参加者の学年・職業】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>35.3%</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>8.8%</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>35.3%</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>8.8%</td> </tr> <tr> <td>大学院生</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>職員</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参加しようと思ったキッカケ】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容に興味があったから</td> <td>41.2%</td> </tr> <tr> <td>人脈を広げたいと思ったから</td> <td>23.5%</td> </tr> <tr> <td>教員さんに勧められて</td> <td>17.6%</td> </tr> <tr> <td>知人に勧められて</td> <td>52.9%</td> </tr> <tr> <td>SNSを通じて</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>昨年も参加したから</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【今回のセミナーでよかったプログラム】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入～拡げる～</td> <td>35.3%</td> </tr> <tr> <td>第一幕～組み立てる～</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>第二幕～深める～</td> <td>70.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【セミナー全体の満足度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>61.8%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば満足</td> <td>38.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【今回のセミナーでよかった点（自由記述・一部抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生が講師になっている点 ➤ 理論が説明されてから、ワークを待ったので意識してからおこなう事が出来た ➤ 運営側の雰囲気がいいので、参加者もいつも和むし、盛り上げられて楽しい <p>【今回のセミナーの改善点（自由記述・一部抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 会場への案内がなく建物が分からなくて迷子になった ➤ ワーク前の説明がたまに長かったのと発表者への投げかけ、問いかけが押し付けに感じるところもあった ➤ ワークの取り組ませ方が一部説明不足だった <p>【その他感想など（自由記述・一部抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ もっと集客頑張ってください。人任せすぎ ➤ あくまでも学生レベルだった気がします ➤ 今日学べたことをしっかり吸収して別の場面でも使えたらと思う 	項目	割合	1年生	35.3%	2年生	8.8%	3年生	35.3%	4年生	8.8%	大学院生	2.9%	教員	2.9%	職員	2.9%	その他	2.9%	項目	割合	内容に興味があったから	41.2%	人脈を広げたいと思ったから	23.5%	教員さんに勧められて	17.6%	知人に勧められて	52.9%	SNSを通じて	11.8%	昨年も参加したから	11.8%	その他	5.9%	項目	割合	導入～拡げる～	35.3%	第一幕～組み立てる～	50.0%	第二幕～深める～	70.6%	項目	割合	満足	61.8%	どちらかといえば満足	38.2%
	項目	割合																																															
	1年生	35.3%																																															
	2年生	8.8%																																															
	3年生	35.3%																																															
	4年生	8.8%																																															
	大学院生	2.9%																																															
	教員	2.9%																																															
	職員	2.9%																																															
	その他	2.9%																																															
項目	割合																																																
内容に興味があったから	41.2%																																																
人脈を広げたいと思ったから	23.5%																																																
教員さんに勧められて	17.6%																																																
知人に勧められて	52.9%																																																
SNSを通じて	11.8%																																																
昨年も参加したから	11.8%																																																
その他	5.9%																																																
項目	割合																																																
導入～拡げる～	35.3%																																																
第一幕～組み立てる～	50.0%																																																
第二幕～深める～	70.6%																																																
項目	割合																																																
満足	61.8%																																																
どちらかといえば満足	38.2%																																																
報告者	追手門学院大学教育開発機構 秦 敬治																																																

平成 27 年度

自己アピール力向上ワークショップ

実施日	平成 27 年 12 月 12 日 13:00 ～ 12 月 13 日 12:30																
実施先	香川大学 OLIVE SQUARE 教員交流ラウンジ																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学</td> <td>8</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9</td> <td></td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	香川大学	8		5	松山大学	1		6	合計	9		11
大学名	教職員	学生スタッフ	学生														
香川大学	8		5														
松山大学	1		6														
合計	9		11														
研修の目的 および 研修の概要	<p><研修の目的> レクチャー、個人ワーク、メンタリング（担当教職員との個別相談）を通じて、効果的に自分をアピールする能力を向上させる。</p> <p><研修の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> ①講師のレクチャーを聞いて、自己理解を深め、自分の強み・特徴を効果的にアピールする手法を学ぶ。 ②担当教職員とのメンタリングを通じて、自分の強み・特徴を具体的にシートにまとめる。 ③模擬面接を実施し、研修で学んだ効果的な自己アピールの手法を実践する。 ④企業等から内定を得た 4 回生から、採用面接でどんな手法で効果的に自己アピールをしたか等の実際の体験談を聞くことで、同じ学生の立場からの意見や成功例等を学ぶ。 																
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自己理解を深め、自分の強み・特徴を知る (2) 自分の強み・特徴を効果的に他者へアピールする手法を学ぶ (3) 自分の強み・特徴を効果的に他者へアピールする手法を実践する 																
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p><スケジュール></p> <p>【1 日目：12 月 12 日（土）】</p> <p>12:30 受付開始 13:00～13:10 開会式 13:10～13:30 オリエンテーション 13:30～14:30 レクチャー 1：自分を知ろう 14:30～14:50 個人ワーク（休憩含む） 14:50～15:50 レクチャー 2：キャッチコピーを作ろう 15:50～18:00 メンター相談・個人ワーク</p> <p>【2 日目：12 月 13 日（日）】</p> <p>9:00 集合 9:00～ 9:20 先輩から学ぶ自己 PR 9:20～11:00 模擬面接・メンター相談・個人ワーク 11:00～12:00 成果発表 12:00～12:30 振り返り・アンケート 12:30 閉会</p>																

2日間の短い期間では修得までは難しいテーマであったが、プログラムで学んだことの成果報告として行った参加者全員の前行う模擬面接では、参加学生全員が、プログラムの目的を理解して、用意した1つ1つのレクチャー等から学んだ自分の強み・特徴を効果的に他者へアピールする手法を実践し、懸命に自分のことを他者へ伝えようとする姿勢が見られた。

また、参加学生のアンケート結果から、「自己アピールの手法は様々であり1つの手法を勉強することができた」、「自分のことを他人の目で客観的に知ることも大事であることを学んだ」、「自分の良さ、欠点に気づいた」、「自分自身のことであるのに、自分を表現し相手に伝えることは難しいことを実感できた」「自分の強み・特徴を文章や言葉で表現することで自分に足りないものに気づいた」等の感想があり、自己理解を深め、効果的な自己アピールのためには、人間力の向上が必要であるとの気づきの場になったと分析できる。

プログラムの
成果



報告者

香川大学教育・学生支援室学務グループ 山本 英和

平成 27 年度

OLS リーダーシップセミナー

実施日	平成 28 年 2 月 5 日（金）14:00 - 16:30																																		
実施先	追手門学院大学 5 号館 6 階 5605 教室																																		
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>3</td> <td></td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td></td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教職員	学生スタッフ	学生	追手門学院大学	3		23	愛媛大学	1			京都外国語大学	1		9	京都文教大学			2	摂南大学	1		3	一般	2			合計	8		37
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																
追手門学院大学	3		23																																
愛媛大学	1																																		
京都外国語大学	1		9																																
京都文教大学			2																																
摂南大学	1		3																																
一般	2																																		
合計	8		37																																
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、サイパン・韓国事前研修も兼ねたリーダーシップセミナーである。自らが体験したことのない事例をもとに多面的に物事を捉え、他者と意見交換を行い、自己の考えを明確に伝える力を養うことを目的とした。</p> <p>セミナーには株式会社一凛堂の代表取締役、稲垣麻由美氏を講師として招き、講師の著書「戦地で生きる支えとなった 115 通の恋文」を基に、著書を執筆するに至った背景や、戦時下でこそ問われる人間性、リーダーとしての資質などについて講義した。</p> <p>参加者は、講師の話を聴いた上で、グループ内で自己の考えを他者に伝え、他者の意見を受け入れることで、新たな考え方を創出できるよう活動した。また、それぞれの言動について、他者からフィードバックを受けるほか、メンバー間で批判的に振り返り、異年齢、異性、異文化の中で活用できるリーダーシップを養った。</p>																																		
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自らが体験したことのない事例を多面的に捉えることができる (2) 自らが体験したことのない事例を通じて、自己の経験と重ね合わせることで、自己を振り返ることができる (3) 良好な人間関係に配慮しながら仲間の成長を促す働きかけをすることができる (4) 自己の明確な考えを相手に分かりやすく伝えることができる (5) 他者の話を真摯な姿勢で聴くことができる 																																		
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>1. スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">2 月 5 日 (金曜日)</td> <td>14:00 - 16:30</td> <td>セミナー</td> </tr> <tr> <td>18:30 - 21:00</td> <td>懇親会</td> </tr> </tbody> </table>			日程	時間	取組内容	2 月 5 日 (金曜日)	14:00 - 16:30	セミナー	18:30 - 21:00	懇親会																								
日程	時間	取組内容																																	
2 月 5 日 (金曜日)	14:00 - 16:30	セミナー																																	
	18:30 - 21:00	懇親会																																	

2. 主立った取組内容

セミナーでは、講師の稲垣麻由美氏の著書「戦地で生きる支えとなった115通の恋文」を基に講演が行なわれた。この著書は太平洋戦争時にフィリピンのミンダナオ島に赴任し、1152人の部隊を率い「ミンタルのトラ」と称された山田藤栄さんとその妻しづゑさんとの間でやり取りされた、115通もの恋文が描かれている。

講師の稲垣氏はこの著書を執筆するまでに至った背景や、太平洋戦争時の日本やその近郊の状況の話を織り交ぜ、過酷な戦時下でこそ問われる人間性、リーダーとしての資質などについてお話しされた。



プログラムの
成果

【学生の感想・コメント（一部抜粋）】

<学生 A>

一番驚いたことは、フィリピンで約50万人が殺されたという話です。初めて知ったことなので、これからOLSに携わっていくためには各国々の歴史や文化を知っていくのは大切なことだと思いました。リーダーシップを発揮するのにグループワークという方法は他人とのコミュニケーションや自己開示を図ることができました。

<学生 B>

昔のリーダーにあったもの、今のリーダーにないもので大きく違うのは「死」です。「死」が間近にあるのとないのとでは「今」を生きる重みが全くと言っていいほど変わるのではないのでしょうか。もう一つ気づいたことがあります。リーダーにはフォローしてくれる人が必要なのです。リーダー一人の力で全てを全うすることは厳しく思います。むしろリーダー一人では成り立たないでしょう。山田藤栄さんは奥様の愛というフォローによって支えられ生き延びたのではないのでしょうか。私自身、リーダーシップの力を学びその力を自分なりに様々な場面で引き出してきました。しか

	<p>し、そこで感じた事というのは周りの支えであり、また自分も周りを支える win-win の関係こそが成果となります。この気持ちは、現代社会の中だけではその大切さということに気づきにくいように思います。今回戦争という時代背景があったからこそ身に染みて心に響く物となりました。</p> <p>改めて戦争を決して忘れたくない、どんな形であってもどんなに目立った経験がない人でも戦争を感じた人の言葉は大切にしたいと思います。この大切さを教えてくれた稲垣さんに感謝します。</p> <p><学生 C></p> <p>このセミナーを受ける前は「正直どのような話を聞けるのだろう」と漠然としていた。「115 通の恋文の話聞いて、どうリーダーシップにつながるのかな」とも考えていて、不安と期待を抱いて当日セミナーを受けた。受けてみれば、気づいたこと、学んだことが 2 つあった。1 つは、リーダーとしてのイメージについて、もう 1 つは歴史を知る大切さについて。1 つ目のリーダーとしてのイメージについては、稲垣さん自身も社長をしながら多岐にわたる活動もしていらして、その 1 つにイメージコンサルがあった。イメージコンサルという言葉も初めて聞いたが、印象やイメージをプロデュースしている仕事である。例えば、大統領選挙などで候補者のネクタイの色を変え、候補者が伝えたいこととイメージを一致させることにより、対象者に対してより伝えたいことが伝わりやすくなる効果がある。リーダーとして伝えたいことがある時、その伝えたいことに沿った服装をすることがより効果を得られることに気づいた。</p> <p>2 つ目の歴史を知る大切さについては、稲垣さんは戦時下のお話をしてくださったが、「なぜこの話をしているのだろう？」と心の中に疑問があった。しかし話を聞いて、1 つ気づいたことがあった。それは「戦争を繰り返さない」だ。戦争を繰り返さないためには、戦争の歴史を知る必要があると考えた。そしてリーダーとして、戦争の歴史を知ることも大事だが、もっと日常に落とし込んでみると、人の背景＝歴史を知ることにつながった。人との良好な関係を築くためには、その人の歴史を知ることが大事だと学んだ。</p> <p>この 2 点がセミナーを通して気づいたこと、学んだことであり、リーダーシップを学ぶ人にとって、貴重な機会であったと感じた。</p>
<p>報告者</p>	<p>追手門学院大学教育開発機構 秦 敬治</p>

平成 27 年度

学生リーダーズ・ウィンタースクール

北九州エマージェンシードリル (Kitakyushu Emergency Drill: KED)
震災対策型サバイバルキャンプ

報告者	九州国際大学経済学部 小江 茂徳																																																				
実施日	平成 28 年 2 月 10 日 (水) ~ 12 日 (金)																																																				
実施先	九州国際大学・県立ふれあいの家北九州																																																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>4</td> <td>20</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11</td> <td>30</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	1	2		追手門学院大学		3	3	佐賀大学	1			愛知みずほ大学	1		2	香川大学			1	京都外国語大学	1	3	2	京都文教大学		2	1	摂南大学	2		5	松山大学	1			山口大学			1	九州国際大学	4	20	10	合計	11	30	25
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																		
愛媛大学	1	2																																																			
追手門学院大学		3	3																																																		
佐賀大学	1																																																				
愛知みずほ大学	1		2																																																		
香川大学			1																																																		
京都外国語大学	1	3	2																																																		
京都文教大学		2	1																																																		
摂南大学	2		5																																																		
松山大学	1																																																				
山口大学			1																																																		
九州国際大学	4	20	10																																																		
合計	11	30	25																																																		
講師	<p>■村岡治道氏 (岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター・特任准教授)</p>																																																				
研修の概要	<p>本研修は、UNGL ベーシックプログラム・リーダーズウィンタースクールとして実施された。</p> <p>研修目的は、災害を想定したプログラム「震災対策型サバイバルキャンプ」や防災に関する講義を通じて、災害時に有用な知識を身に付けること、また研修を通して自身の課題を発見するとともに、災害時に求められるリーダーシップを養うことである。</p> <p>開催期間は 3 日間であり、その過程において、グループ分けされた参加者が、震災ミッションを全員で協力しながら解決していく。そして参加者は教職員、学生スタッフを交えた振り返りを行い、自身の目標の達成度の確認や長所短所の発見、研修後の行動目標を定め、研修は終了した。</p>																																																				
プログラムの到達目標	<p>①災害時に有用な知識を習得することができる</p> <p>②震災時の状況に適した判断ができる</p> <p>③他者に配慮した行動をとることができる</p>																																																				

1. KEDタイムテーブル

【研修1日目】2月10日(水)

時間	内容	場所
11:30～12:00	受付	AL教室(1号館)
12:00～12:45	昼食・事前アンケート記入	
12:45～13:15	開会式	
13:30～14:30	起震車	平野記念館 外
14:30～14:40	休憩・移動	外→AL教室
14:40～14:50	研修心構え	AL教室
15:00～16:20	ミッション①	2号館
15:00～17:35	ミッション②	屋外
17:35～20:30	ミッション③	ふれあいの家
20:30～22:30	振り返り	各研修室
22:30	消灯	多目的ホール

【研修2日目】2月11日(木)

時間	内容	場所
6:00～7:00	起床	
7:00～8:00	体調確認(チーム)	各研修室
8:00～11:00	ミッション④	多目的ホール
11:10～12:00	炊き出し風昼食	
12:00～13:00	ワールドカフェ	
13:00～14:30	ブレストーミング	
14:30～15:00	解説・今後の流れ説明	
15:00～17:15	入浴	浴場
17:30～18:30	夕食	
18:30～20:00	プチ懇親会	多目的ホール
20:00～22:30	振り返り・就寝	

【研修3日目】2月12日(金)

時間	内容	場所
6:00～10:00	起床・朝食・移動	多目的ホール
10:00～11:30	ジレンマゲーム	2号館
11:30～12:00	昼食	
12:00～14:00	防災講義	
14:00～14:15	休憩	
14:15～16:15	最終振り返り	AL教室
16:15～18:30	閉会式・片付け	

【主なプログラム】

- ・ 起震車体験：地震の実体験
- ・ 震災講義：震災時の対応に関する講義
- ・ 避難ミッション：震災発生から避難所到達まで起こりうる事象の体験
- ・ 避難所ミッション：避難所生活の疑似体験
- ・ 震災ディスカッション：ワールドカフェ形式の情報共有と震災時のリーダーシップの検討
- ・ ジレンマゲーム：震災時のジレンマ体験と判断能力の養成
- ・ 震災講義：村岡特任准教授による講義
- ・ 振り返り：1日ごとの振り返りと最終日の全体振り返り

プログラムの
実施日程と内容



起震車体験



避難所体験



ディスカッションの様子



振り返りの様子

研修の成果

【アンケート結果】

- ・ チームへのフィードバックは有り難かったが、個人へのフィードバックが物足りなかった。
- ・ 夜寝た時の寒さが一番こたえた。
- ・ 振り返りを通じて、他者の視点の重要性を理解した。
- ・ 避難者への対応がきつかった。
- ・ 自分のことを客観的に見る視点を今後活かしたい。
- ・ リーダーシップは日常生活でも災害でもどこでも発揮できることが理解できた。
- ・ 緊急時には冷静さ、判断能力と覚悟が必要だと感じた。
- ・ スタッフとして参加したいと思った。
- ・ 自発的に行動する面で積極的に動けた。
- ・ 命の大切さをしっかり考えることが出来た。
- ・ ミッションと講義がリンクしていてより深い学びに繋がった。
- ・ 緊急時のリーダーシップについて理解できたけど、もと具体例を交えてそう考えた理由を知りたかった。

平成 27 年度

リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

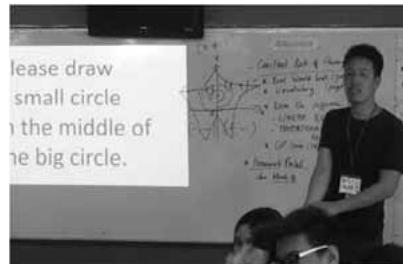
実施日	平成 28 年 3 月 5 日（土）～3 月 12 日（土）																																																										
実施先	北マリアナ諸島自治連邦区公立学校機構（CNMI Public School System）管轄の小・中学校																																																										
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>熊本学園大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>梅光学院大学（視察）</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	1		1	香川大学	1		1	山口大学	1		4	佐賀大学	1		2	京都外国語大学・短期大学	2		17	京都文教大学	1	2	5	追手門学院大学	1	1	2	松山大学	1		4	広島経済大学	1		1	熊本学園大学			1	摂南大学	1		3	梅光学院大学（視察）	1			合計	12	3	41
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																								
愛媛大学	1		1																																																								
香川大学	1		1																																																								
山口大学	1		4																																																								
佐賀大学	1		2																																																								
京都外国語大学・短期大学	2		17																																																								
京都文教大学	1	2	5																																																								
追手門学院大学	1	1	2																																																								
松山大学	1		4																																																								
広島経済大学	1		1																																																								
熊本学園大学			1																																																								
摂南大学	1		3																																																								
梅光学院大学（視察）	1																																																										
合計	12	3	41																																																								
研修の目的 および 研修の概要	<p>今回、通算 4 回目の開催となる「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」は、北マリアナ諸島自治連邦区公立学校機構（CNMI Public School System）の協力のもとで実施する学生リーダーシップ養成研修です。</p> <p>Intermediate Program の目的は、価値観・文化・言語的背景の異なる組織での共同活動を通じて、リーダーシップに関するスキル・知識・態度を身につけることにあります。</p> <p>特に本研修では、北マリアナ諸島自治連邦区公立学校機構（CNMI Public School System）管轄の公立小・中学校 11 校での教育実践や日本文化紹介企画の共同実施、現地教職員宅へのホームステイ経験を通じて、参加学生が自律性や協調性、他者への配慮や異文化理解等、リーダーに求められる態度や能力を伸長させる様子が観察された。</p>																																																										
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>1. スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>宿泊先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3月5日</td> <td>Sat</td> <td></td> <td>13:30 集合(ガラパン小学校:Orchid St Garapan, Saipan) 14:00～ 開講式 (ガラパン小学校:Orchid St Garapan, Saipan) 16:00～ 北マリアナ教育省歓迎レセプション</td> <td>ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)</td> </tr> <tr> <td>3月6日</td> <td>Sun</td> <td colspan="2">ホストファミリーとの交流</td> <td>ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)</td> </tr> </tbody> </table>					午前	午後	宿泊先	3月5日	Sat		13:30 集合(ガラパン小学校:Orchid St Garapan, Saipan) 14:00～ 開講式 (ガラパン小学校:Orchid St Garapan, Saipan) 16:00～ 北マリアナ教育省歓迎レセプション	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)	3月6日	Sun	ホストファミリーとの交流		ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)																																									
		午前	午後	宿泊先																																																							
3月5日	Sat		13:30 集合(ガラパン小学校:Orchid St Garapan, Saipan) 14:00～ 開講式 (ガラパン小学校:Orchid St Garapan, Saipan) 16:00～ 北マリアナ教育省歓迎レセプション	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)																																																							
3月6日	Sun	ホストファミリーとの交流		ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)																																																							

3月7日	Mon	7:45～ 授業実践・アシスタント	13:00～ 授業実践・アシスタント 14:00～ 振り返り ジャパン・フェスティバル準備	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)
3月8日	Tue	7:45～ 授業実践・アシスタント	13:00～ 授業実践・アシスタント 14:00～ 振り返り ジャパン・フェスティバル準備	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)
3月9日	Wed	7:45～ サイパン島実地研修	13:00～ ジャパン・フェスティバル準備 16:00～18:00 現地の若者とのスポーツ交流(サッカー)	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)
3月10日	Thu	7:45～ 授業実践・アシスタント	13:00～ 授業実践・アシスタント 14:00～ ジャパン・フェスティバル準備	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅)
3月11日	Fri	7:45～ 授業実践・アシスタント	13:00～ ジャパン・フェスティバル準備 14:00～ ジャパン・フェスティバル	ホームステイ(各小・中学校の教職員宅) ※ホームステイ最後の夜は、ホストの家族に日本料理を作り、おもてなしをすることができる。
3月12日	Sat	起床後～10:00 ホームステイ先の掃除と御礼	13:00～ 研修振り返り(カノアリゾート) 18:00～21:00 クローゼットパーティー (カノアリゾート)	各自手配した宿泊施設

2. 主立った取組内容

◆小中学校での教育実践

日本で準備した「授業計画書」に基づき、現地の小、中学生へ向けて授業を行った。単に日本文化の紹介にとどまらず、数学や歴史に関する豊かな学びを促進するような授業を展開したクラスもあった。



◆学生同士でのピア・リフレクション及び教職員・学生スタッフからのフィードバック

毎日、活動の最後には、教職員・学生スタッフのファシリテーションのもと、1日の取組を学生同士で振り返り、次の日への改善や新たな目標の設定等を行った。

◆ジャパン・フェスティバル

各学校での研修最終日には、1週間の感謝を込めて全校生徒を対象とした日本文化紹介企画「ジャパン・フェスティバル」を企画・実施した。日本に関する知識を問うクイズ企画や、日本の伝統的な遊び・舞踊等を現地の生徒とともに楽しむ様子がどの学校でも観察された。また、今回は昨年夏に台風による被害を被った現地生徒たちにエールを送る内容も多く見られた。



◆現地教職員宅でのホームステイ

研修期間中、参加学生は現地教職員宅へ分宿し、そこで先生方とのコミュニケーションをとったり、授業へのアドバイスを受けたり等により、学びを深めた。



3. サイパン台風被害に対する支援活動について

平成 27 年 8 月、台風 13 号の直撃により、サイパン島の小中学校や生徒・教員たちの住居は甚大な被害を受けました。これを受け、UNGL では義援金を送るべく連携各校において募金活動を実施しました。本研修冒頭の開会式にて、北マリアナ諸島自治連邦区公立学校機構 (CNMI Public School System) コミッショナー Rita A. Sablan 女史に義援金 (1,450 ドル) と折り鶴等を渡すことができ、その様子は現地の新聞 ”Mariana’s Variety” にも掲載されました。コミッショナーからはその後、連携各校に感謝状が送られました。



(写真右：サイパン教育相 Rita A. Sablan 女史)



なお、連携各校からの義捐金額は以下のとおりでした。

(単位:円)	
大学名	金額
シイノ コウヘイさん	1,000
広島経済大学	36,613
山口大学	60,304
愛知みずほ大学	20,980
京都外国語大学	16,930
松山大学	10,555
愛媛大学	23,816
合計	170,198

報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 27 年度

学生リーダーズ・スプリングスクール

実施日	平成 28 年 3 月 15 日（火）～17 日（木）																																																																
実施先	京都外国語大学、あうる京北（旧京都府立ゼミナールハウス）																																																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>3</td> <td>18</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>南山大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>甲南大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>関西学院大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5</td> <td>28</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	京都外国語大学・短期大学	3	18	11	九州国際大学		1		松山大学	1		5	京都文教大学		3	6	追手門学院大学	1	3	6	山口大学			1	愛媛大学		1	1	香川大学		1		愛知みずほ大学	1		4	京都光華女子大学			2	佐賀大学	1			南山大学		1		甲南大学			1	関西学院大学			1	合計	5	28	38
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																														
京都外国語大学・短期大学	3	18	11																																																														
九州国際大学		1																																																															
松山大学	1		5																																																														
京都文教大学		3	6																																																														
追手門学院大学	1	3	6																																																														
山口大学			1																																																														
愛媛大学		1	1																																																														
香川大学		1																																																															
愛知みずほ大学	1		4																																																														
京都光華女子大学			2																																																														
佐賀大学	1																																																																
南山大学		1																																																															
甲南大学			1																																																														
関西学院大学			1																																																														
合計	5	28	38																																																														
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、UNGL Basicプログラムとして開催された。本研修では、グローバル社会におけるリーダーシップ育成、つまり多様化する社会、組織の中で一人ひとりが当事者意識を持ち、リーダーシップを発揮できるような人材を育成することを目的としており、参加学生は、“平和”に関するさまざまなミッションをこなしながら、それぞれのリーダーシップ育成を目指した。</p> <p>開催期間は3日間であり、その間参加学生は1チーム4名程度のチームに分かれ、平和を脅かす課題を体験したり、あるいは平和に貢献するために必要な事柄を学ぶための数々のミッションに取り組んだり、最終目標に向かって活動した。その過程において、メンバーそれぞれの言動について、「チームや全体の目的を達成する」という観点から学生スタッフおよび教職員スタッフによるフィードバックを受けるほか、メンバー間で相互に批評的な振り返りを行った。最終的には、チーム又は参加者全員で、「平和に必要なリーダーシップ」とは何かについて共有した。</p>																																																																
プログラムの 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自らの意思を積極的に表現することができる (2) 相手の立場に立ち、他者の意見を受け入れることができる (3) 周りを巻き込むような言動をとることができる (4) 自らの役割を理解することができる (5) 物事を批評的にとらえることができる 																																																																

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

日程	時間	取組内容
3月15日 (火曜日)	09:30～	参加者受付
	10:00	団結式、アイスブレイク
	11:00	移動 昼食+自己紹介+スタッフ紹介
	12:30	ワーク1 (宝探し)
	15:00	ワーク2 (アントレプレナー)
	17:50	夕食 (ハンガーバンケット)
	20:00	現状理解ワーク
	21:45	振り返り (~23:00)
3月16日 (水曜日)	08:00	朝食
	09:00	ワーク3 (ワールドカフェ)
	12:00	昼食
	13:00	ワーク4 (プレゼン発表)
	17:00	夕食
	21:00	振り返り
3月17日 (木曜日)	08:00	朝食
	09:00	あうる京北 出発
	10:00	京都外国語大学 到着
	10:30	グループワーク5 (巨大パズル)
	15:00	振り返り
	17:00	閉会式
	18:00	懇親会

2. 主立った取組内容

今回研修に参加した13大学の参加者・学生スタッフは、団結式を終えた後、研修先である「あうる京北」へ移動し、プログラムがスタートした。研修は“平和”を題材としたリーダーシップ・トレーニングを想定しており、チーム活動の中で発生する様々な問題を仲間との助け合いで解決することが求められる一方で、世界の様々な課題を参加者は疑似体験する。

ワーク①：宝探し

「おり、すぐに地図を完成でき宝探しに進めるチームとそうでないチームが生まれた。ここでは、それぞれチームメンバーに与えられた地図の情報が違うため、しっかりと自分の意思を伝えながらも仲間の発言に注意しながら協調することも求められた。チーム内のコミュニケーション・プロセスの課題や個人個人のコミュニケーションの仕方に焦点が当てられている。さらに、宝を探す際に障がい（目が見えない、耳が聞こえない、歩くのが困難）を経験することができ、あらゆる人が暮らしやすい社会を考える次のミッションへの布石も兼ねている。



ワーク②：街づくり

ユニバーサル・デザインの考え方に基づいて、「文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができるような街とは？」を各チームがデザインし、その目的とともに発表した。



ハンガーバンケット

ハンガーバンケットでは、各チームで食べられる食事の量を変えることによって、世界の現状を実際に体験した。



現状理解ワーク

参加者は、この現状理解ワークで初めて世界の現状を疑似体験したことや、実際の世界の現状を知ることができる。今回は、国際問題としても取り上げられる「貧困」の問題と日本における「貧困」に関する問題を学生スタッフのレクチャーをもとに参加者全員で考えた。



ワーク③：ワールドカフェ

ワールドカフェでは、前日のワーク、レクチャーでの自らの気づきや理解、過去の知識や自らの価値観を踏まえて、以下の4つのテーマについてグループで討議し、発表した。

テーマ1：貧困の負の連鎖を止めるためには

テーマ2：日本の幸福度を上げるためには

テーマ3：皆が食べることができて、食品ロスをなくすためには

テーマ4：あらゆる格差をなくすためには



ワーク④：「平和に必要なリーダーシップとは」プレゼンテーション

最終プレゼンテーションとして、「世界が平和になるために必要なリーダーシップ」をチームとしてまとめ、全員の前で発表した。

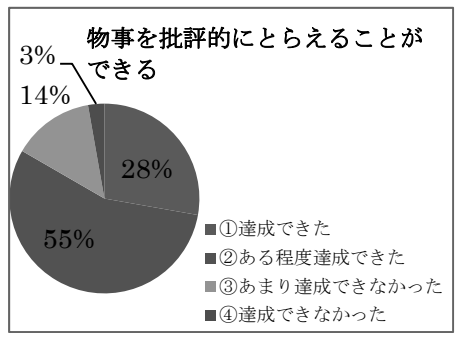
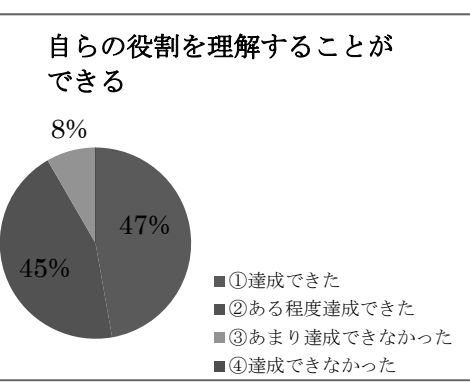
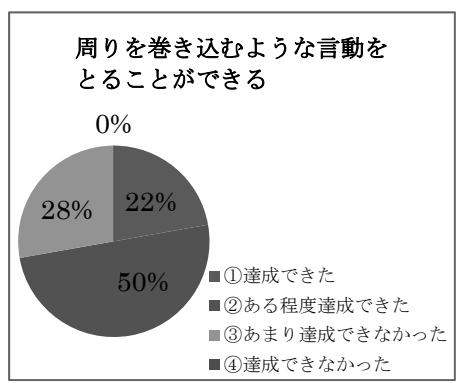
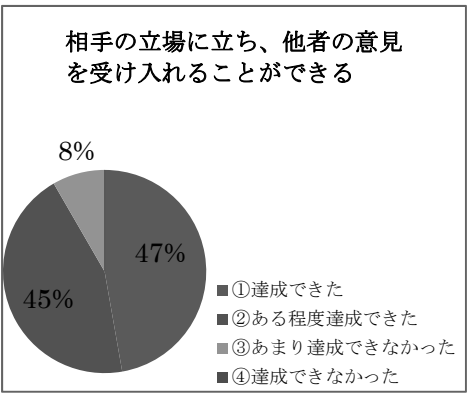
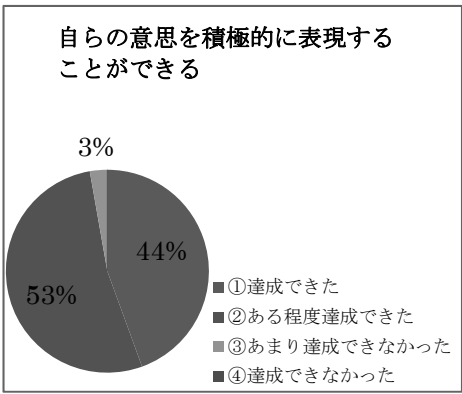
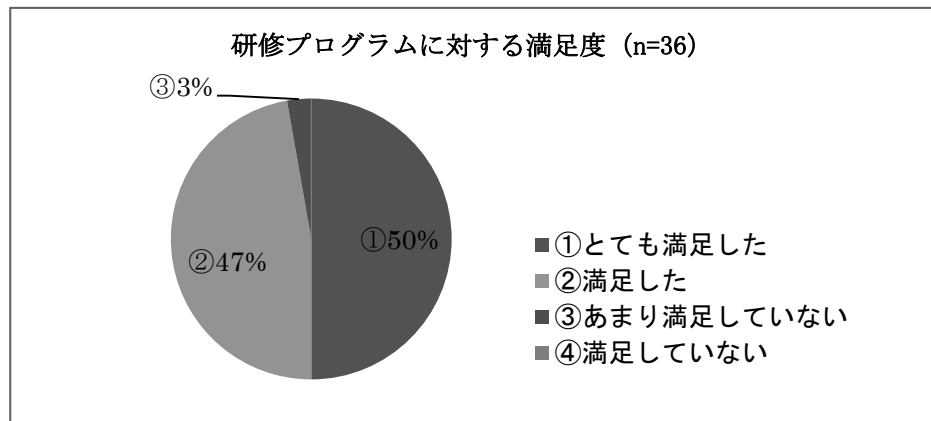


ワーク⑤：巨大パズル (PEACEのPIECE)

これまでの全グループワークの学びの実践の場として、参加者38名全員によるワーク。事前に学生スタッフが作成していた巨大な世界地図(9m×16m)を模したパズルのピースを参加者全員の協力によってつなげ合わせた。小グループから大きなグループでの活動になることにより、いかに周りを巻き込みながら課題達成を目指すかが求められた。非常に難しかったが、全員で完成させることに成功。



プログラムの
成果



【研修プログラムを通して得られた学び】
 ・リーダーとなる人だけがリーダーシップをとるのではなくリーダー以外の人の役割をしながら私も自身のリーダーシップを発揮したいと思えた

- ・振り返りの大切さ。一人でもだし大人数でも。他の人からの意見を聴くことは大事だなと感じた
- ・チームでやることの意味、難しさ、大切さ、楽しさを再確認することができました。自分ができること、できないことも周りの人に言うことで素直に受け止めることができ、素直な気持ちで自分を受け入れることができました
- ・グループワークを通じて一番大切だと感じたのは、聞くことと自分の意見を周りに発信していくことです。相手の意見を聞き尊重することで、たくさんのアイデアが生まれてくるし、相手にとっても率直な意見を言うことができる。また、今までは自らの考えを他の人になかなかいうことはできなかったが、今回の研修で自分の言いたいことを相手にしっかりとはっきり言うことの大切さがよく分かった
- ・チームで一つの目標に向かって皆ですることによって、お互いの悪いところを見て、”振り返る”ということをすることによって、またお互いをさらけ出すことによって、普段生活を何気なくしているときには得ることのできないものをたくさん得ることができました
- ・ぶつかった壁から逃げそうだったことに気付いた。本音をぶついたりすることの大事さとかも改めて思った。普段から言わないから、自分では気づきにくいけど、しんどくなることが多いから意識して思ったことを言っていきたい
- ・自分の意見を相手に本音でぶつけることの大切さを学ぶことができた
- ・研修を通して、相手の立場になって考えを受け入れることの大切さや、また話している人の目をちゃんと見て話を聞くことの大切さを知りました。自分を成長させることにつながって良かったです
- ・「人の話を聞く」「相手の立場になって考える」ということはなぜ必要なのかという疑問の答えが分かった。それは「良い話を聞きたい」「より良いものにしたい」という欲を叶えるため、人を尊重するためだったんだという自分なりの答えです
- ・他の人の声を聴くということの意味と重要性を知ることができた
- ・自分自身の良いところや改善すべきところを知ることができた
- ・いつもと違う切り口から平和について考えることができた
- ・新しい人との意見交換によって新しい意見が生まれるということ

【プログラムに対する意見】

○良かった点

- ・振り返りで、スタッフさんが真剣に向き合ってくれて、本音で話をすることができた (9名)
- ・全てにおいてクオリティが高かった。1日目夜のプレゼンのクオリティが特に素晴らしかった
- ・自分自身の成長+班でどのようにして活動していくか、またそこに平和というものを取り入れて活動していく奥深さというものを体験できた
- ・たっぷりと時間をかけて振り返りをする中で、自らの課題や平和に対する考え方を見つけることができた点
- ・チーム活動をすることによってお互いを高め合えるのが良いと思いました。”振り返り”の時間がとても大切なものだと思います
- ・ごはんが美味しくて、部屋お風呂も良かった
- ・携帯を使えなくするのは全員することに集中できるし使えないからこそ話そうともしている人もいたと思う。
- ・全て参加者に任せることで、自己の理解を深めることができた

○改善点

- ・他の班の人とコミュニケーションを取る機会がもっとほしかった (5名)
- ・もう少しハンガバンケットの前に詳しい説明がほしかった (3名)
- ・携帯を回収することはもう少し早めに伝えてほしかった (4名)
- ・事前にもう少し情報がほしい
- ・スタッフの説明不足がちょこちょこあった
- ・平和に関する説明が局所的に思えるところがあった
- ・指定された部屋以外で寝る人もいて、友達とずっと一緒みたいな人もいたから、その人にとってそれがもったいないなど気になった
- ・日数が足りなかったと思う



報告者

京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介

平成 27 年度

リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

実施日	平成 28 年 3 月 27 日（月）～30 日（水）															
実施先	韓国・南ソウル大学他															
参加者	大学名	教職員	学生スタッフ	学生												
	京都外国語大学・短期大学	1		3												
	京都光華女子大学	1		4												
	広島経済大学	1		3												
	愛媛大学	1		1												
	山口大学	1														
	合計	5		11												
研修の目的 および 研修の概要	<p>Intermediate Program として開講する本研修は、価値観・立場・文化・言語的背景などが異なる組織での協働活動を通して。リーダーシップに関するスキル・知識・態度を身につけることを目的としている。特に本研修では、日本語を学ぶ韓国の学生と共に文化や道徳、習慣等につまわるセミナーを行い、また、グループワークやディスカッションを通して、異なる背景を持つメンバーとのコミュニケーションや、その中でのリーダーシップのあり方について学ぶことをねらいとして実施した。</p>															
プログラムの 到達目標	<p>(1) 研修開催国の歴史・文化・習慣等を尊重し、それに沿った適切な言動ができる</p> <p>(2) 研修開催大学の学生が日本に関するリアルな知識・情報を習得できる効果的なセミナーを実施できる</p> <p>(3) 文化・習慣的背景の異なるメンバーと協力してグループワークやフィールドワークに取り組める</p> <p>(4) 複数メンバーで構成される組織における効果的なリーダーシップのあり方についてその概要を説明できる</p> <p>*本研修で身につけることができる能力等</p> <table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 自己受容</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 自己成長</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 他者受容</td> <td><input type="checkbox"/> 他者成長</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 主体性</td> <td><input type="checkbox"/> 役割認識</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力</td> <td><input type="checkbox"/> 統率力</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 規律性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 順応性</td> <td><input type="checkbox"/> ストレス管理力</td> </tr> </table>				<input type="checkbox"/> 自己受容	<input checked="" type="checkbox"/> 自己成長	<input checked="" type="checkbox"/> 他者受容	<input type="checkbox"/> 他者成長	<input checked="" type="checkbox"/> 主体性	<input type="checkbox"/> 役割認識	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力	<input type="checkbox"/> 統率力	<input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力	<input checked="" type="checkbox"/> 規律性	<input checked="" type="checkbox"/> 順応性	<input type="checkbox"/> ストレス管理力
<input type="checkbox"/> 自己受容	<input checked="" type="checkbox"/> 自己成長	<input checked="" type="checkbox"/> 他者受容	<input type="checkbox"/> 他者成長													
<input checked="" type="checkbox"/> 主体性	<input type="checkbox"/> 役割認識	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力	<input type="checkbox"/> 統率力													
<input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力	<input checked="" type="checkbox"/> 規律性	<input checked="" type="checkbox"/> 順応性	<input type="checkbox"/> ストレス管理力													

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

平成 28 年 3 月 27 日 (日)	20:00 仁川空港 集合 (バス内でアイスブレイク) 22:00 南ソウル大学 到着	<宿泊先> 南ソウル大学 ゲストハウス
平成 28 年 3 月 28 日 (月)	9:00～12:00 市内研修 ① 三星イノベーション・ミュージアム ② 韓国民俗村 見学 12:30～13:30 昼食 14:00～18:50 グループ・セミナー ① 京都光華女子大学 ② 京都外国語・短期大学 ③ 広島経済大学 ④ 愛媛大学 ⑤ 全大学共同セミナー 19:00～21:00 夕食・懇親会	<宿泊先> 南ソウル大学 ゲストハウス
平成 28 年 3 月 29 日 (火)	9:00～ ソウル市内にてフィールドワーク w/z 南ソウル大学生 ① 西大門刑務所歴史館 ② 韓国市民の暮らし視察(市場探訪) ③ 韓国の歴史学習 19:30 ハイソウル・ユースホテル集合 20:00～ グループごとに課題作成	<宿泊先> ハイソウル・ ユースホステ ル
平成 28 年 3 月 30 日 (水)	9:00～10:30 グループ課題の発表・報告会 10:30～12:30 全体リフレクション 13:00 ハイソウル YHにて解散	

2. 主立った取組内容

◆市内研修①三星イノベーション・ミュージアム

韓国経済を牽引するリーダー企業「三星(サムスン)」のミュージアムを視察見学した。学生たちは、電気産業の歴史から最先端の電子機器に至るまでエレクトリック製品の歴史的進展と韓国経済の発展との関わりについて思い巡らすことができた。



◆グループ・セミナー

日本にて各大学が事前に準備した4つのセミナーと、全日本人学生が協力して作成した1つのセミナーを50名ほどの韓国学生を対象に開講した。日本の舞踊をテーマにしたもの、大学生の日常生活を題材にしたもの、ことわざや言葉遊びをネタにしたものから、トイレに見る文化比較まで多彩なセミナーが出揃い、出席した韓国学生（日本語学科所属）らは興味を持って学ぶことができた。セミナーを実施した日本人学生は、互いに協力し合うことの重要性や多人数を相手にしたリーダーシップのあり方について実践的に学ぶことができた。



◆市内フィールドワーク

日韓の歴史を語る上で参考となる歴史遺産として「西大門刑務所歴史館」を見学した後、韓国的一般市民の生活に迫る市場の見学に赴いた。参加学生は所属大学をシャッフルされた4つのチームに分かれ、韓国学生とグループを組んで市内にて視察・研修を行った。



◆課題・研修成果報告会

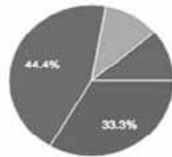
グループ・セミナー、フィールドワークその他、本研修における活動から得た学びについてチームごとに報告する場を設けた。結果として、教職員の予想を超える「リーダーシップ」に関する学びの深化が見られた。



プログラムの
成果

プログラム終了後に実施したアンケートの結果について以下に記載する。

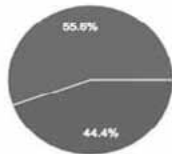
1. 参加学生の学年



1年生	3	33.3%
2年生	4	44.4%
3年生	1	11.1%
4年生～	1	11.1%

2. 研修全体の満足度

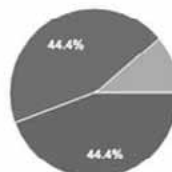
本研修は全体として満足のいくものでしたか？



とても満足した	4	44.4%
満足した	5	55.6%
どちらとも言えない	0	0%
あまり満足できなかった	0	0%
全く満足できなかった	0	0%

3. リーダーシップへの影響

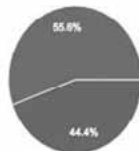
本研修は、あなたの「リーダーシップ」に関する見方・考え方に何らかの影響や変化をもたらしましたか？



大きく影響した	4	44.4%
影響した	4	44.4%
どちらとも言えない	1	11.1%
あまり影響しなかった	0	0%
全く影響しなかった	0	0%

4. 振り返りの効果について

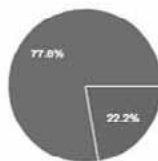
研修中に行った振り返り（リフレクション）の時間は、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと感じますか？



とても役に立った	4	44.4%
役に立った	5	55.6%
どちらとも言えない	0	0%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

5. 事前・事後研修について

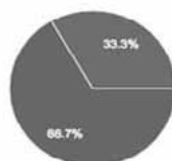
教員による事前・事後研修は、あなたの「リーダーシップ」を養成・伸長させる上で役に立ったと思いますか？



とても役に立った	2	22.2%
役に立った	7	77.8%
どちらとも言えない	0	0%
あまり役に立たなかった	0	0%
全く役に立たなかった	0	0%

6. 今後の波及について

今後、同様の研修があれば友人や後輩などに参加を勧めたいと思いますか？



是非とも勧めたい	6	66.7%
どちらとも言えない	3	33.3%
勧めたくない	0	0%

報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 28 年度

リーダーシップ育成アドベンチャー・プログラム

実施日	平成 28 年 5 月 15 日																				
実施先	山口大学・国立山口徳地青少年自然の家																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口大学</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	山口大学	3	1	3	山口学芸大学		1	2	愛知みずほ大学			1	合計	3	2	6
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																		
山口大学	3	1	3																		
山口学芸大学		1	2																		
愛知みずほ大学			1																		
合計	3	2	6																		
研修の目的 および 研修の概要	<p>「リーダーシップ育成アドベンチャー・プログラム」は UNGL Basic プログラムとして開催された。</p> <p>本研修ではグループワークをとおして、参加者の初歩的なリーダーシップ力やチームワーク力を養い、またプログラム最後に振り返りを行うことで、その日の成功や失敗を次に活かすという学習能力向上を目的とした。</p> <p>開催は宿泊なしの 1 日研修であり、プロジェクト・アドベンチャーの手法を基盤にしたグループワークを中心に実施された。グループワークには教職員も参加し、11 人 1 チームとなって、チームが協力しあわないと達成できない課題（丸太上で順番を入れ替わるゲーム、全員でシーソーに乗りサイレント・ランゲージで均等にバランスをとるゲーム、小島への綱渡りゲームなど）に取り組んだ。</p> <p>アドベンチャー・プログラム終了後、山口大学に戻り、学生スタッフを中心に振り返りが行われた。参加者たちはチームで目的を達成するためには自分自身がどのように働きかけるべきか、リーダーシップという観点から学ぶことができた。</p>																				
プログラムの 到達目標	<p>(1) 協調性や他者への信頼感を育む</p> <p>(2) 自分に対する自信や信頼感など肯定感を育む</p> <p>(3) 自分の意見を言う、他者の意見を聞くなどコミュニケーション力を高める</p>																				
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>1. スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">5 月 15 日 (日曜日)</td> <td>8:30 ~ 8:45</td> <td>オリエンテーション (於山口大学)</td> </tr> <tr> <td>8:45 ~ 9:20</td> <td>アイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>9:30 ~ 10:30</td> <td>移動 (山口大学→徳地青少年自然の家)</td> </tr> <tr> <td>11:00 ~ 15:00</td> <td>アドベンチャー・プログラム</td> </tr> <tr> <td>15:30 ~ 16:00</td> <td>移動 (徳地青少年自然の家→山口大学)</td> </tr> <tr> <td>16:00 ~ 18:00</td> <td>振り返り (於山口大学)</td> </tr> </tbody> </table>	日程	時間	取組内容	5 月 15 日 (日曜日)	8:30 ~ 8:45	オリエンテーション (於山口大学)	8:45 ~ 9:20	アイスブレイク	9:30 ~ 10:30	移動 (山口大学→徳地青少年自然の家)	11:00 ~ 15:00	アドベンチャー・プログラム	15:30 ~ 16:00	移動 (徳地青少年自然の家→山口大学)	16:00 ~ 18:00	振り返り (於山口大学)				
日程	時間	取組内容																			
5 月 15 日 (日曜日)	8:30 ~ 8:45	オリエンテーション (於山口大学)																			
	8:45 ~ 9:20	アイスブレイク																			
	9:30 ~ 10:30	移動 (山口大学→徳地青少年自然の家)																			
	11:00 ~ 15:00	アドベンチャー・プログラム																			
	15:30 ~ 16:00	移動 (徳地青少年自然の家→山口大学)																			
	16:00 ~ 18:00	振り返り (於山口大学)																			

2. 主立った取組内容

【山口大学におけるオリエンテーション・アイスブレイク】

二人の学生スタッフの主導のもと、各自リーダーシップ研修における目標を掲げたあと、アイスブレイクが行われた。



【徳地青少年自然の家におけるアドベンチャー・プログラム】

アドベンチャー・プログラム専門トレーナーの進行で、まずは午前の部・室内プログラム（王様ゲーム、キャッチ、前うしろ、セブンイレブン、ネームゲーム、カテゴリーなど）で基本的なチームワーク力を高めた。



午後の部では屋外プログラムに従事し、①丸太上で順番を入れ替わるゲーム、②全員でシーソーに乗りサイレント・ランゲージで均等にバランスをとるゲーム、③小島への綱渡りゲームに挑戦した。いずれも仲間との協力が不可欠であり、参加者たちはチーム内におけるリーダーシップを実践的に学んでいった。





【山口大学における振り返り】

徳地におけるアドベンチャー・プログラム終了後、山口大学で二手に分かれて振り返りを行った。それぞれのグループには教職員スタッフと学生スタッフが入り、学生スタッフを中心に参加者が一日とおして学んだことをチームメイトと情報を共有しながら深めることができた。



プログラムの 成果

プログラムに積極的な学生が参加したこともあり、全員が初対面であったにもかかわらず、全体として最初からチームとしてよくまとまっていた。ただし、細かい点ではおのおの反省する材料があり、それは振り返りで互いに学びあえ、下記アンケートからもわかるように、参加者全員から高い満足度が伺えた。また、学生スタッフを担当した二人は今回が初めての挑戦であり、参加者をサポートする難しさを経験するとともに、振り返りスタッフとしての自信をつけるいい機会にもなった。

【研修終了後のアンケート結果】

質問1 本研修は全体として満足でしたか？

- ①強くそう思う (7人) ②まあそう思う (1人) ③どちらとも言えない (0人)
④あまりそう思わない (0人) ⑤まったくそう思わない (0人)

質問2 開催時期は適切でしたか？

- ①強くそう思う (5人) ②まあそう思う (3人) ③どちらとも言えない (0人)
④あまりそう思わない (0人) ⑤まったくそう思わない (0人)

質問3 1日という研修期間は適切でしたか？

- ①長かった (0人) ②ちょうどよい (0人) ③短かった (8人)

	<p><u>質問 4 本研修の内容にみあわせて、参加費（590 円）の価格はいかがでしたか？</u> ①高い（0 人） ②ちょうどよい（7 人） ③安い（1 人）</p> <p><u>質問 5 本研修によって学んだものを今後の大学生活に活かすことができると思えますか？</u> ①強くそう思う（8 人） ②まあそう思う（0 人） ③どちらとも言えない（0 人） ④あまりそう思わない（0 人） ⑤まったくそう思わない（0 人）</p> <p><u>質問 6 スタッフの知識・指導・助言は有益でしたか？</u> ①強くそう思う（6 人） ②まあそう思う（1 人） ③どちらとも言えない（0 人） ④あまりそう思わない（0 人） ⑤まったくそう思わない（0 人） 無回答（1 人）</p> <p><u>その他、本研修へのコメント</u> 「想像以上に自分をたくさんだせることができた。」 「自分に足りない点、改善点にたくさん気づくことができた。」 「自己評価に対する基準（価値観）を高めることができた。」 「前向きに積極的に生きる大切さを感じる事ができた。」 「弱点に気が付けた。」 「自分がやろうと思ったことへの後押し」 「初めてのスタッフ経験。他の人の思ったことや感じたこと、今日の反省点、改善点など深めることのむずかしさを感じた。参加者からさらなる向上心をもらいました。」 「最後の話し合いが非常に良かった。仲間から改善点がもらえたことがよかった。」 「協力してやるプログラムで自分の役割を考えられた。」 「普段経験できないグループワークを通して、全体の中での会話をする事ができた。」 「もっとみんなと活動がしたかった。時間が足りなかった。」 「UNGL 企画をもっと増やしてほしい！もっと仲良くなりたい！」 「また機会があれば参加したい。先生も一緒に活動するのが新鮮だった。」 「もっと頻度多く開催したい。」</p>
<p>報告者</p>	<p>山口大学大学教育機構学生支援センター 松岡 陽子</p>

平成 28 年度

APSSA2016 タイ大会

実施日	平成 28 年 6 月 27 日（月）～29 日（水）																					
実施先	チェンマイ大学（タイ）																					
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>梅光学院大学</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>外部（企業）</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>APSSA 全体参加者：700 人以上（40 カ国以上） 学生カンファレンス参加者：200 人程度</p>	大学名	教職員	学生	京都外国語大学・短期大学	1	8	追手門学院大学	2	4	愛媛大学		4	梅光学院大学	2	1	外部（企業）	1		合計	6	17
大学名	教職員	学生																				
京都外国語大学・短期大学	1	8																				
追手門学院大学	2	4																				
愛媛大学		4																				
梅光学院大学	2	1																				
外部（企業）	1																					
合計	6	17																				
研修の目的 および 研修の概要	<p>本研修は、UNGL Advancedプログラムとして開催された。本研修では、多国間での異文化研修、国際カンファレンス等での発表・討議・交流を通してリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的としている。特に、本プログラムでは、多様な観点と考え方からグローバルな課題にアプローチする能力、異なる文化背景と価値観への理解の獲得、国際的なソーシャル・ネットワークの構築をねらいとしている。</p> <p>学生カンファレンスでは、200 名の参加者が任意の 4 つのサブテーマに分かれ（各テーマに 40～50 名）、各国の学生がその国ごとの課題を持ち寄りながら、それぞれのテーマの解決策について議論・発表を行った。そして、各テーマごとに、最も優れた発表を行ったチーム（4 チーム）が、翌日の「学生プレゼンテーション」セッションにおいて、教職員を含めた全体に向けて発表を行った。</p>																					
プログラムの 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の視点からグローバルな課題についての意見、解決方法を発表する ・グローバル人材に必須のリーダーシップに関する知識・態度を向上する ・多文化への理解を深め、異なる背景を持つ人々とコミュニケーションを取るスキルを養う 																					
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>【カンファレンス全体テーマ】 テーマ：ウェルビーイングと持続的な発展のための若者の力 (Power of Youth for Well-Being and Sustainable Development)</p> <p>4 つのサブテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境とサステイナビリティ (Youth Power in Environment and Sustainability) ・流動性、ネットワーク、コラボレーション (Youth Power through Mobility, Networking and Collaboration) ・ウェルビーイングのためのスポーツと健康促進 (Youth Power in Promoting Sports and Health for Well-Being) ・政治、経済、持続可能な発展 (Youth Power in Impacting Politics, the Economy and Sustainable Development) 																					

【スケジュール】

日程	時間	取組内容
6月27日 (月曜日)	09:00	開会式、ウェルカムスピーチ、オープニングスピーチ
	09:30	基調講演「持続可能な発展のための若者の力」
	10:30	パネルディスカッション「環境と持続可能性における若者の力」
	11:30	パネルディスカッション「流動性、ネットワーク、協力を活用した若者の力」
	12:30	昼食
	13:30	学生セッション「チームビルディングとリーダーシップ」
	15:30	学生セッション「課題の選択」
	17:00	キャンパスツアー
	18:30	ガラ・ディナー（文化パフォーマンス）
6月28日 (火曜日)	08:30	ビデオプレゼンテーション「ボランティアと持続可能な発展」
	08:45	APSSA プレジデントスピーチ（秦敬治先生）
	09:00	基調講演「ウェルビーイングのためのスポーツと健康促進における若者の力」
	10:00	パネルディスカッション「ウェルビーイングと持続可能な発展」
	11:00	パネルディスカッション「政治、経済、持続可能な発展に影響を与える若者の力」
	12:00	昼食
	13:00	学生セッション「グループディスカッション」
	15:00	学生セッション「グループリサーチ」
	16:30	学生セッション「テーマグループ内でのプレゼン発表」
6月29日 (水曜日)	08:30	ビデオプレゼンテーション「Happy One World」
	09:00	学生プレゼンテーション
	10:30	カントリーレポート
	11:30	まとめ
	12:00	昼食
	13:30	APSSA 執行委員プレゼンテーション
	14:30	閉会式
	18:00	フェアウェルディナー



【リーダーシップ・マインドおよびコンピテンシーに関する自己評価結果について（事前・事後の実施）】

○研修効果の把握

リーダーシップ・マインド（7項目）、コンピテンシー（14項目）のうち、向上したと感じる項目（対応のあるT検定）* p<0.05, ** p<0.01

項目	事前	事後	差分
自己受容	3.26	4.20	0.94**
自己成長	4.00	4.53	0.53**
他者受容	3.80	4.60	0.80**
他者成長	2.60	3.40	0.80*
主体性	3.47	3.87	0.40*
課題発見力	3.07	3.67	0.60*
クリティカル・マインド	2.80	3.33	0.53*
自己認識	3.73	4.13	0.40*
順応性	3.87	4.47	0.60**
自己啓発力	3.60	4.27	0.67**

- ・ 自己受容（自己への理解を深め、価値ある存在として認識しようとする態度）、自己成長（自分の行動を客観的に振り返り、反省に基づいて行動を改善していこうとする態度）、他者受容（相手の立場や価値観を受け入れ、周囲の人と積極的に交流を広げていこうとする態度）、他者成長（相手の言動を客観的に捉え、摩擦や抵抗をおそれずに伝えるべきことを伝えようとする態度）、主体性（あれこれと自分なりに工夫しながら、周囲と協力して前向きに課題に取り組んでいこうとする態度）、課題発見力（現状について自分の考えや、組織の目的や理念など多様な視点で分析し、問題点を明らかにする力）、クリティカル・マインド（客観的な情報に基づいて、論理的に物事を分析する力）、自己認識（自己の価値観を多様な視点で振り返り、それに基づいた行動を取る力）、順応性（他者の状況を尊重し、多様な価値観を受容しながら、周囲に受け入れられる力）、自己啓発力（成長のための機会を利用して、積極的に自らの能力を開発していく力）については、研修実施前と比べると研修実施後に向上したと参加者は捉えている。

【学生自身のコメントより（参加者の学び）】

- ・ 自分の意見を飛び交う英語の中で言えたのは大きな成長。今回は英語を交えてということになるので、摩擦や抵抗を恐れずに伝えるということの大切さをより知った。英語でも日本語でもこの能力を伸ばしたい。
- ・ 順応性を伸ばすことができたと思う。自分は様々なことに興味を持ち、行動を起こす力はあるが、自分にとって核となるものがないように感じていた。それがこの研修で見つかった。それは秦先生がおっしゃっていた人として必要なもの”あいさつ、居眠り、拍手”いわゆる感謝だと思う。折々に気づくのだが、私はいつもこれを忘れる。感謝が自分の力となる。常に他人に感謝の気持ちを持ち、オープンマインドで積極的に様々なことに参加していきたい。
- ・ 本研修を通して、他国の人（主にタイ人）に自己発信する力、また英語力の高さを示され、自分も見習う必要があると思いました。外国でだけでなく、まず日本でできることを懸命に取り組みたいと考えました。またそのようなことを見ることで自分の積極性は高められました。

プログラムの
成果

- ・言葉の壁に負けないことが身に付いたと思います。コミュニケーションを取り組みたいという想いを全面に出して行けたと感じています。
- ・第一に英語力！本当にまだまだだと痛感した。もっともっと実践的な英語を身につけたい。また、伝える力です。伝えなければ何も始まらないし、相手に自分を理解してもらうには大切なことだから。
- ・自分の長所でもある表現力をさらに成長することができた。そして、英語力の無さを痛感したので、すぐさま帰って勉強したい。
- ・私はこの研修を通して、自己受容と他者受容を身につけたいと思っており、身につけることができたと思います。1日目の反省から、自分を理解し、自分の良さを出そうと思っており、それを意識してできました。
- ・話し合いの場を自分の場にする+他者にそのような場を提供することが大切だと気づきました。この能力を身につけたいです。
- ・他国の同世代の関わり合った仲で、多くの刺激を受けました。特にプレゼン能力には本当に驚きました。参考になる点もあったので、今後身近なところから繋げていきます。



報告者

京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介

平成 28 年度

リーダーシップ・チャレンジ in 台湾

実施日	平成 28 年 7 月 11 日（月）～16 日（土）																																						
実施先	国立高雄第一科技大学（台湾）																																						
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	1		2	京都外国語大学			2	合計	1		4																						
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																				
愛媛大学	1		2																																				
京都外国語大学			2																																				
合計	1		4																																				
研修の目的 および 研修の概要	<p>UNGL Advanced Program として実施する「リーダーシップ・チャレンジ in 台湾」は、複数の国や地域から集まった学生・教職員間での異文化研修、国際的なカンファレンス等での発表・討議・交流を通してリーダーシップ（スキル・知識・態度）を身につけることを目的としている。特に、本プログラムでは、複数国（台湾・タイ・日本・フィリピンほか）の学生が協働して多様なグループワークを行うことにより、国際的に異なる背景を持ったメンバー間でのリーダーシップのあり方、実践的な英語でのコミュニケーションスキルなどを養うことをねらいとしたものであった。</p>																																						
プログラムの 到達目標	<p>(1) 国際化する現代社会において必須のリーダーシップに関する知識・スキル・態度を体得する。</p> <p>(2) グローバル人材に求められるコミュニケーション能力や国際的理解を伸長させる。</p> <p>(3) 文化・歴史的背景の異なるメンバーとの協働、それらのメンバー間において有用なリーダーシップのあり方について学ぶ。</p>																																						
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p>1. スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時間</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月10日 (日)</td> <td></td> <td>高雄国際空港（台湾） 到着 事前ミーティング</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">7月11日 (月)</td> <td>7:30～ 8:30</td> <td>【朝食】</td> </tr> <tr> <td>9:10～10:00</td> <td>オープニング・セレモニー</td> </tr> <tr> <td>10:10～12:00</td> <td>アイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>12:00～13:30</td> <td>【昼食】</td> </tr> <tr> <td>13:30～15:20</td> <td>チームビルディング</td> </tr> <tr> <td>15:30～17:20</td> <td>学生セッション I</td> </tr> <tr> <td>17:30～19:00</td> <td>【夕食】</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">7月12日 (火)</td> <td>19:00～22:00</td> <td>ウェルカムナイト（各国文化紹介）</td> </tr> <tr> <td>7:30～ 8:30</td> <td>【朝食】</td> </tr> <tr> <td>9:10～12:00</td> <td>模擬会議・討論の準備</td> </tr> <tr> <td>12:00～13:30</td> <td>【昼食】</td> </tr> <tr> <td>13:30～15:20</td> <td>リーダーシップ養成ワークショップ</td> </tr> <tr> <td>15:30～17:20</td> <td>学生セッション II</td> </tr> <tr> <td>17:30～19:00</td> <td>【夕食】</td> </tr> <tr> <td>19:00～22:00</td> <td>討論と模擬会議の準備</td> </tr> </tbody> </table>	日程	時間	内容	7月10日 (日)		高雄国際空港（台湾） 到着 事前ミーティング	7月11日 (月)	7:30～ 8:30	【朝食】	9:10～10:00	オープニング・セレモニー	10:10～12:00	アイスブレイク	12:00～13:30	【昼食】	13:30～15:20	チームビルディング	15:30～17:20	学生セッション I	17:30～19:00	【夕食】	7月12日 (火)	19:00～22:00	ウェルカムナイト（各国文化紹介）	7:30～ 8:30	【朝食】	9:10～12:00	模擬会議・討論の準備	12:00～13:30	【昼食】	13:30～15:20	リーダーシップ養成ワークショップ	15:30～17:20	学生セッション II	17:30～19:00	【夕食】	19:00～22:00	討論と模擬会議の準備
日程	時間	内容																																					
7月10日 (日)		高雄国際空港（台湾） 到着 事前ミーティング																																					
7月11日 (月)	7:30～ 8:30	【朝食】																																					
	9:10～10:00	オープニング・セレモニー																																					
	10:10～12:00	アイスブレイク																																					
	12:00～13:30	【昼食】																																					
	13:30～15:20	チームビルディング																																					
	15:30～17:20	学生セッション I																																					
	17:30～19:00	【夕食】																																					
7月12日 (火)	19:00～22:00	ウェルカムナイト（各国文化紹介）																																					
	7:30～ 8:30	【朝食】																																					
	9:10～12:00	模擬会議・討論の準備																																					
	12:00～13:30	【昼食】																																					
	13:30～15:20	リーダーシップ養成ワークショップ																																					
	15:30～17:20	学生セッション II																																					
	17:30～19:00	【夕食】																																					
19:00～22:00	討論と模擬会議の準備																																						

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

7月13日 (水)	7:30～ 8:30	【朝食】
	9:10～12:00	模擬会議
	12:00～13:30	【昼食】
	13:30～16:20	社会問題に関する討論
	16:30～17:20	屋外でのリーダーシップ養成研修
	17:30～19:00	【夕食】
7月14日 (木)	19:00～22:00	地域でのサービスラーニングの準備
	7:30～ 8:30	【朝食】
	9:10～12:00	地域でのサービスラーニング
	12:00～13:30	【昼食】
	13:30～17:20	地域でのサービスラーニング
	17:30～	【夕食】
7月15日 (金)	7:30～ 8:30	【朝食】
	9:10～12:00	フィールド研修
	12:00～13:30	【昼食】
	13:30～17:20	フィールド研修
	17:30～19:00	【夕食】
	19:00～22:00	フェアウェル・パーティ
7月16日 (土)	7:30～ 8:30	【朝食】
	9:10～12:00	リフレクション
	12:00～13:30	【昼食】
	13:30～15:20	クロージングセレモニー
		証明書授与 写真撮影
	15:30	終了

2. 主立った取組内容

「模擬会議 (Simulated meeting)」では、参加学生たちは実社会に現存するテーマ (ex: 都市部中心地に存在する公用地を都市発展に資する形で再開発する方法) について、仮想の市議会の諮問委員会を形成し、その具体的な解決方法や政策を考えるべく、活発に意見を交換した。当該会議は全て出席者の共通言語である英語で行われ、国際的なコミュニケーション能力を養うことの重要性を参加者に認識させるものとなった。



「社会問題に関する討論 (Debate about social issues)」では、教育環境や都市環境等をテーマに、英語を用いたディベートにチャレンジした。これに先立って、各国から参加した学生たちは幾つかのグループに分けられ、十分な事前調査を行うよう求められた。通常、大学等の授業においてするディスカッションとは異なり、持論を明確に主張し、相手の意見に反論し、聞き手を説得するディベートの方法について学ぶことができた。



報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 28 年度

学生リーダーズ・サマースクール

実施日	平成 28 年 9 月 6 日～8 日																																																								
実施先	愛媛県松山市中島・B&G 海洋センター及び姫が浜ビーチ他																																																								
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>摂南大学</td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>高知大学</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td>32</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	摂南大学		2	4	追手門学院大学		7	4	愛知みずほ大学	1	3	1	愛媛大学	1	9	3	広島経済大学	1		4	高知大学			5	京都外国語大学	1	5	5	九州国際大学	1	4	7	京都文教大学	1	2	6	香川大学	1		2	佐賀大学	1		3	松山大学			1	合計	8	32	45
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																						
摂南大学		2	4																																																						
追手門学院大学		7	4																																																						
愛知みずほ大学	1	3	1																																																						
愛媛大学	1	9	3																																																						
広島経済大学	1		4																																																						
高知大学			5																																																						
京都外国語大学	1	5	5																																																						
九州国際大学	1	4	7																																																						
京都文教大学	1	2	6																																																						
香川大学	1		2																																																						
佐賀大学	1		3																																																						
松山大学			1																																																						
合計	8	32	45																																																						
研修の目的 および 研修の概要	<p>UNGL Basic プログラムとして開催する「学生リーダーズ・サマースクール」では、チームの目標を達成するために、自分自身の役割を認識しつつ、変化する状況に対応できる実践的なリーダーシップを身につけることを目的として開催した。</p> <p>開催期間は、3 日間であり、その間参加学生は 1 チーム 5～6 名のグループに分かれ、日常とは異なる不自由な環境（島での生活）、物資や情報が限られたサバイバルな状況において、仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組み、最終目標に向かって協働的に活動した。</p> <p>その過程の中で、参加者はメンバーそれぞれの言動について「チームの目的を達成するためのリーダーシップ」という観点から学生スタッフおよび教職員からのフィードバックを受けるほか、メンバー間で相互にクリティカルなコメントを伝え合う等を通じて、自分の活動を振り返り、実践的なリーダーシップについて経験を整理して学びに変えることができた。</p>																																																								
プログラムの 到達目標	<p>1) 実体験を通してリーダーシップにどのような力(e.g. 主体性・協調性・コミュニケーション力)が関係しているかを説明できる。</p> <p>2) 自分の体験について、④自分自身で、⑤他の学生や教員とともに振り返り、経験を学びに変えることができる。</p> <p>3) 自分やチームの成長のために、必要な具体的目標を設定し達成することができる。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 自己受容</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 自己成長</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 他者受容</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 他者成長</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 主体性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 役割認識</td> <td><input type="checkbox"/> プレゼン力</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 統率力</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力</td> <td><input type="checkbox"/> 規律性</td> <td><input type="checkbox"/> 順応性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> ストレス管理力</td> </tr> </tbody> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> 自己受容	<input checked="" type="checkbox"/> 自己成長	<input checked="" type="checkbox"/> 他者受容	<input checked="" type="checkbox"/> 他者成長	<input type="checkbox"/> 主体性	<input checked="" type="checkbox"/> 役割認識	<input type="checkbox"/> プレゼン力	<input checked="" type="checkbox"/> 統率力	<input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力	<input type="checkbox"/> 規律性	<input type="checkbox"/> 順応性	<input checked="" type="checkbox"/> ストレス管理力																																												
<input checked="" type="checkbox"/> 自己受容	<input checked="" type="checkbox"/> 自己成長	<input checked="" type="checkbox"/> 他者受容	<input checked="" type="checkbox"/> 他者成長																																																						
<input type="checkbox"/> 主体性	<input checked="" type="checkbox"/> 役割認識	<input type="checkbox"/> プレゼン力	<input checked="" type="checkbox"/> 統率力																																																						
<input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力	<input type="checkbox"/> 規律性	<input type="checkbox"/> 順応性	<input checked="" type="checkbox"/> ストレス管理力																																																						

1. スケジュール

◆事前ミーティング<9月5日(月)>

18:00～20:00 愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ1F

◆1日目<9月6日(火)>

時間	内容
8:30	愛媛大学(城北キャンパス)集合、フェリー移動
11:50	中島B&G海洋センター入所
12:30	開校式・昼食
13:30	グループ活動①・夕食
20:00	振り返り

◆2日目<9月7日(水)>

時間	内容
7:00	朝食
8:00	グループ活動②・昼食・グループ活動③
18:00	振り返り
19:00	夕食

◆3日目<9月8日(木)>

時間	内容
7:00	朝食
8:30	片付け
11:00	フェリー移動・昼食
12:30	愛媛大学到着 片付け、全体の振り返り、総評 閉校式
17:00	プログラム終了 懇親会(松山市内)

2. 主立った取組内容

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

- ・ミッション (①～③)：現地でランダムに組み合わされたグループのメンバーとともに、食料や物資の調達等、多くの課題に取り組み、その中でのチーム活動を通して、合意形成のプロセスを学んだ。



- ・グループプリフレクション：教職員・学生スタッフのファシリテーションのもと、グループごとに1日の活動を振り返り、葛藤や混乱の原因を探るとともにその中での効果的なリーダーシップのあり方について学びを得た。



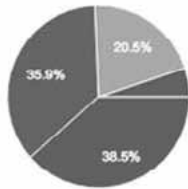
・全体リフレクション：3日間の研修全体を通して得た気づきや学びを整理し、これからの自分にどのように適用・応用していくことができるかを考え、目標を設定した。



プログラムの
成果

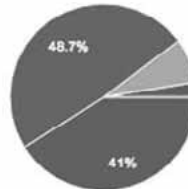
<研修後に実施したアンケート結果>

1. 学年



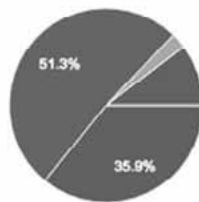
1年生	15	38.5%
2年生	14	35.9%
3年生	8	20.5%
4年生～	2	5.1%

2. 本研修の満足度



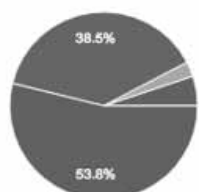
とても満足した	16	41%
満足した	19	48.7%
どちらとも言えない	3	7.7%
あまり満足できなかった	1	2.6%
全く満足できなかった	0	0%

3. 「リーダーシップ」に関する見方・考え方への影響



大きく影響した	14	35.9%
影響した	20	51.3%
どちらとも言えない	1	2.6%
あまり影響しなかった	4	10.3%
全く影響しなかった	0	0%

4. 「リフレクション」がリーダーシップ養成に与えた影響



とても役に立った	21	53.8%
役に立った	15	38.5%
どちらとも言えない	1	2.6%
あまり役に立たなかった	2	5.1%
全く役に立たなかった	0	0%

	<p>5. 自由コメントから</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 一人一人違ったリーダーシップを持っていて、それらが互いに影響を与え合うことで組織としての結束力や活動に結びついていくということを新たに気づくことができた。 ➤ リーダーシップとは、ただ皆を引っ張るだけでなく、しっかり周りを見て班全体を見ることや皆の意見をしっかり把握できる能力であると理解できた。 ➤ 複数の人から自分の行動を客観的に指摘していただいたので、そこから自分には今何が足りないのかを理解し改善するのに活かすことができた。 ➤ 自分の行動を振り返ったり、想いを伝えることで次どうすべきかという自分の行動を考えて、行動に移す大事さについても学ぶことができた。
<p>報告者</p>	<p>愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也</p>

平成 28 年度

リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

実施日	平成 28 年 10 月 8 日（土）～11 日（火）																																												
実施先	韓国・南ソウル大学他																																												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td></td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>梅光学院大学</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>熊本学園大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教職員	学生	京都外国語大学		14	愛知みずほ大学	1	2	京都文教大学		3	追手門学院大学		5	摂南大学		3	香川大学		1	松山大学		1	広島経済大学	1		山口学芸大学		1	梅光学院大学	1		熊本学園大学	1	2	愛媛大学	1	2	合計	6	34
大学名	教職員	学生																																											
京都外国語大学		14																																											
愛知みずほ大学	1	2																																											
京都文教大学		3																																											
追手門学院大学		5																																											
摂南大学		3																																											
香川大学		1																																											
松山大学		1																																											
広島経済大学	1																																												
山口学芸大学		1																																											
梅光学院大学	1																																												
熊本学園大学	1	2																																											
愛媛大学	1	2																																											
合計	6	34																																											
研修の目的 および 研修の概要	<p>Intermediate Program として開講する本研修は、価値観・立場・文化・言語的背景などが異なる組織での協働活動を通して、リーダーシップに関するスキル・知識・態度を身につけることを目的としている。特に本研修では、日本語を学ぶ韓国の学生と共に文化や道徳、習慣等につつまれるセミナーを行い、また、グループワークやディスカッションを通して、異なる背景を持つメンバーとのコミュニケーションや、その中でのリーダーシップのあり方について学ぶことをねらいとして実施した。</p>																																												
プログラムの 到達目標	<p>(1) 研修開催国の歴史・文化・習慣等を尊重し、それに沿った適切な言動ができる</p> <p>(2) 研修開催大学の学生が日本に関するリアルな知識・情報を習得できる効果的なセミナーを実施できる</p> <p>(3) 文化・習慣的背景の異なるメンバーと協力してグループワークやフィールドワークに取り組める</p> <p>(4) 複数メンバーで構成される組織における効果的なリーダーシップのあり方についてその概要を説明できる</p> <p>* 本研修で身につけることができる能力等</p> <table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 自己受容</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 自己成長</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 他者受容</td> <td><input type="checkbox"/> 他者成長</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 主体性</td> <td><input type="checkbox"/> 役割認識</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力</td> <td><input type="checkbox"/> 統率力</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 規律性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 順応性</td> <td><input type="checkbox"/> ストレス管理力</td> </tr> </table>			<input type="checkbox"/> 自己受容	<input checked="" type="checkbox"/> 自己成長	<input checked="" type="checkbox"/> 他者受容	<input type="checkbox"/> 他者成長	<input checked="" type="checkbox"/> 主体性	<input type="checkbox"/> 役割認識	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力	<input type="checkbox"/> 統率力	<input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力	<input checked="" type="checkbox"/> 規律性	<input checked="" type="checkbox"/> 順応性	<input type="checkbox"/> ストレス管理力																														
<input type="checkbox"/> 自己受容	<input checked="" type="checkbox"/> 自己成長	<input checked="" type="checkbox"/> 他者受容	<input type="checkbox"/> 他者成長																																										
<input checked="" type="checkbox"/> 主体性	<input type="checkbox"/> 役割認識	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼン力	<input type="checkbox"/> 統率力																																										
<input checked="" type="checkbox"/> 対話促進力	<input checked="" type="checkbox"/> 規律性	<input checked="" type="checkbox"/> 順応性	<input type="checkbox"/> ストレス管理力																																										

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

平成 28 年 10 月 8 日 (土)	15:00 仁川空港 集合 17:00～ 団結式	<宿泊先> ハイソウル・ ユースホステ ル
平成 28 年 10 月 9 日 (日)	9:00～ 市内研修①西大門刑務所歴史館 11:00～ ソウル市内にてフィールド・ワーク w/z 南ソウル大学生 19:30 南ソウル大学へ向けて出発 21:30 南ソウル大学到着後 グループごとに課題作成	<宿泊先> 南ソウル大学 ゲストハウス
平成 28 年 10 月 10 日 (月)	9:00～ キャンパスツアー 10:00～ 現地教員によるハンゲル講義 11:30～ 昼食 13:00～ 市内研修②韓国民俗村 15:00～ 市内研修③サムスン・イノベーション・ ミュージアム 17:00～ グループ・セミナー① 18:00～ グループ・セミナー② 19:00～ グループ・セミナー③ 20:00～ 夕食・懇親会	<宿泊先> 南ソウル大学 ゲストハウス
平成 28 年 10 月 11 日 (火)	9:00～10:30 グループ課題の発表 10:30～12:30 全体リフレクション 13:00 南ソウル大学出発	

2. 主立った取組内容

◆市内研修①西大門刑務所歴史館

リーダーに必要な物事を多面的に見る力を得る上で参考となる歴史遺産として「西大門刑務所歴史館」を見学した。韓国人学生の案内のもと、日常我が国では触れることの少ない両国間関係のブラックな側面を含む歴史について学ぶことができた。



◆市内フィールド・ワーク

参加学生は所属大学をシャッフルした7つのチームに分かれ、韓国学生とグループを組んで市内にて視察・研修を行った。



◆市内研修③三星イノベーション・ミュージアム

韓国を代表する企業・サムスン電子の博物館「サムスン・イノベーション・ミュージアム」を視察見学した。学生たちは、電気産業の歴史から最先端の電子機器に至るまでエレクトリック製品の歴史的進展と韓国経済の発展との関わりについて思い巡らすことができた。

◆グループ・セミナー

日本にて各大学ないし複数大学の連合によって学生たちが事前に準備した10のセミナーを3会場に分かれて40名ほどの韓国人学生を対象に実施した。大学生の日常生活を題材にしたもの、文化や芸能をテーマにしたもの、日本語の成り立ちや言葉遊びを扱うもの等、多様な側面から両国の文化や習慣の異同に迫るセミナーが出揃い、出席した韓国学生（日本語学科所属）らは興味を持って学ぶことができた。セミナーを実施した日本人学生は、互いに協力し合うことの重要性や多人数を相手にしたリーダーシップのあり方について実践的に学ぶことができた。



◆課題・研修成果報告会、リフレクション

グループ・セミナー、フィールド・ワークその他、本研修における活動から得た学びについて大学シャッフルのチームごとに報告する場を設けた。その後、教職員主導のリフレクションの時間を設け、4日間の活動の成果を整理し、経験した事柄から得た学びを日常にどのように適用・応用できるかを考察した。これらを通じて、学生たちは、「リーダーシップ」に関する理解を深める様子が見られた。



報告者

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 28 年度

自己アピール力向上講座

実施日	平成 29 年 1 月 21 日 9:30~16:45												
実施先	香川大学 OLIVE SQUARE 多目的ホール												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学</td> <td>8</td> <td></td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td></td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	香川大学	8		16	合計	8		16
大学名	教職員	学生スタッフ	学生										
香川大学	8		16										
合計	8		16										
研修の目的 および 研修の概要	<p><研修の目的> レクチャー、グループワーク、個人ワーク（担当教職員との個別相談等）を通じて、効果的に自分をアピールする能力を向上させる。</p> <p><研修の概要> ①講師のレクチャーを聞いて、自己理解を深め、自分の強み・特徴を効果的にアピールする手法を学ぶ。 ②自分自身が考える自分の強み・特徴を具体的にシートにまとめる。 ③グループ内で、自分が考える自己の強み、特徴を発表する。 ④アドバイザー教員との個別相談を通じて、失敗体験から学んだ自分の強みを発見する。 ⑤グループ内で、失敗体験から学んだ自分の強みについて発表し、グループ内でのフィードバックを行う。 ⑥グループ代表者が、参加者全員の前で失敗体験から学んだ自分の強みについて発表し、フィードバックを行う。 ⑦アドバイザー教員から全体振り返り。</p>												
プログラムの 到達目標	(1) 自己理解を深め、自分の強み・特徴を知る (2) 自分の強み・特徴を効果的に他者へアピールする手法を学ぶ (3) 自分の強み・特徴を効果的に他者へアピールする手法を実践する												
プログラムの 具体的な内容・ 実施日程	<p><スケジュール> 【1月21日（土）】 9:00 受付開始 9:30~ 9:40 オリエンテーション 9:40~10:30 レクチャー SP トランプを使ったアイスブレイク及び自己理解 10:30~11:10 レクチャー 自己アピール方法講座 11:20~12:00 個人ワーク、グループ発表 「自分の強み・特徴」シート作成 13:00~14:15 個人ワーク 「自分の失敗（事件）、葛藤（課題分析）、解決（克服）、 教訓」の事例シート作成 14:25~15:25 グループ内での成果発表 15:25~16:05 全体での成果発表 16:05~16:45 振り返り・アンケート 16:45 閉会</p>												

<p>プログラムの 成果</p>	<p>平成 28 年度は、前年度の参加者アンケートを参考に、学生が参加しやすいように、開催期間を 2 日間から 1 日間に変更して実施した。参加学生は、16 名（平成 27 年度 11 名）であった。</p> <p>参加学生は、レクチャー及び個人ワーク、グループワークを通じて、まず、成功体験からだけではなく、失敗体験からも自分の強み・特徴を知ることができる等の自分自身を多面的に見ることについて学んだ。その上で、自分の強み・特徴を効果的に他者へアピールする手法を学び、グループ内での成果発表や参加者全員の前での成果発表の場で、学んだ手法を実践した。</p> <p>また、参加学生のアンケート結果から、プログラム全体の満足度は、「大変満足」及び「満足」と回答した学生が 93%であり、プログラムの内容についても 93%の学生が興味を持って取り組める内容であったと回答した。自由記述では、「失敗体験から自己アピールができることを学んだ。」、「自己アピールには根拠となるエピソードとそこからの学びが大切であることが分かった。」等の感想があり、自己理解を深め、様々な体験から何を学んだかを整理することが効果的な自己アピールに繋がるとの気づきの場になったと分析できる。</p> <p style="text-align: center;">【自己アピール力向上講座の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>報告者</p>	<p>香川大学教育・学生支援室学務グループ 山本 英和</p>

平成 24 年度

学生リーダーシップ・カンファレンス

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介	
出張期間	平成 25 年 2 月 20 日 (水) ~ 2 月 21 日 (木)	
実施先	松山大学	
参加者	1 日目 : 2 月 20 日 (水)	
	大学名	学生
	愛媛大学	38
	松山大学	28
	広島経済大学	25
	京都外国語大学	12
	九州国際大学	11
	香川大学	
	佐賀大学	
	京都文教大学	1
	山口大学	
	京都光華女子大学	6
	追手門学院大学	2
	西日本工業大学	2
	南ソウル大学	2
	横浜国立大学	
	一般参加	
合計	127	
参加者	2 日目 : 2 月 21 日 (木)	
	学生 : 90 名 (愛媛大学、松山大学、広島経済大学、京都外国語大学、京都文教大学、九州国際大学、追手門学院大学、京都光華女子大学、西日本工業大学、南ソウル大学)	
	教職員 : 22 名 (愛媛大学 7、松山大学 2、広島経済大学 2、京都外国語大学 4、九州国際大学 1、佐賀大学 2、山口大学 1、追手門学院大学 1、京都光華女子大学 1、横浜国立大学 1)	
	合計 : 112 名	
	UNGL 連携校それぞれの大学行事等の関係で参加人数にばらつきはあるものの、UNGL 事業が始まってから初めての UNGL 連携校全てが参加するリーダーシップ・プログラムを平成 25 年 2 月 20 日 (水) ~ 21 (木) の 2 日間で開催した。	
	具体的な活動内容は以下のとおりである。	

2月20日(水)

○開会式 13:00~13:15

会場校である松山大学の安田副学長による開式の挨拶の後、UNGL 事業実施責任者である愛媛大学の秦教授より UNGL 事業の概要と今後の活動内容について報告があった。

○各大学活動報告 13:30~15:00

各大学で取り組まれているリーダーシップ育成のための取組を、1件当たりの持ち時間を10分として、愛媛大学3件、京都外国語大学2件、九州国際大学1件、松山大学1件、広島経済大学1件の報告が行われた。

【愛媛大学】

- ・「愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS)」山本 祥大(1回生)
- ・「学生リーダーズ・サマースクール」山中 恒輝(2回生)
- ・「異文化へのまなざし (APSSA 国際大会)」中村 一貴(2回生)

【京都外国語大学】

- ・「京都外大の活動報告」京都外国語大学：橋内 楓(1回生)、近藤 朱理(1回生)、堀内 ふぶき(1回生)、山本 明(1回生)、樋口 大樹(2回生)、京都外国語短期大学：菊池 弘恵(1回生)
- ・「外国人留学生とのPBLによる産学連携」伊藤 陽(2回生)、ジュリア・バニェレス(留学生)

【九州国際大学】

- ・「九州サバイバルキャンプ」九州国際大学：市田 美智(2回生)、坂本 亮一(2回生)、西日本工業大学：平井 翔(3回生)、古賀 加純(1回生)

【松山大学】

- ・「社会人基礎力育成プロジェクト～小さな歩みから大きな成長～」梶原 梓(3回生)、谷本 志織(3回生)

【広島経済大学】

- ・「興動館プロジェクトについて」向田 ゆき菜(3回生)

○シンポジウム 15:30~18:30

テーマ：「情熱と挑戦 道を切り拓くリーダーシップ」

シンポジスト：

魚谷 雅彦氏 (株)ブランド・ビジョン代表取締役社長、日本ココ・コー(株)前取締役会長)

亀井 文雄氏 (株式会社愛媛FC代表取締役社長)

難波 克己氏 (玉川大学学術研究所心の教育実践センター主任代理 准教授)

シンポジウムでは、これまでさまざまな苦難を乗り越え、現在の自分自身を切り拓いた経験豊富なシンポジストから、3者3様の人生経験談、リーダーに求められる資質などについて講演いただいた。参加した学生にとっては、シンポジストの若いころの失敗や成功体験、ブレイクスルーの瞬間の話から、現在の社員育成の方針など、今後の人生に大いに役立つ話を聞くことができた。また、発表についても3者3様で、オーソドックスな講演スタイルながら聴衆を惹きつける軽妙なトークの披露もあれば、軽快なリズムと卓越した問いかけやワークを盛り込み聴衆を巻き込むスタイルもあり、参加者にとっては貴重な体験となった。



○情報交換会 19:00～21:00

愛媛大学柳澤学長挨拶の後、情報交換会とともに、各大学の活動報告を兼ねたポスターセッションが行われた。それぞれの大学で行われている学生活動についてじっくり意見交換を行うことで、新たな交流も生まれ、非常に良い雰囲気であった。



2月21日 (木)

ワークショップ 9:00～12:00

テーマ：「人と人が関わる場（環境）創り、心の扉を開き、自主性、モチベーション、信頼感を促進する体験学習」

講師：難波 克己氏（玉川大学学術研究所心の教育実践センター主任代理 准教授）

講師である難波氏の巧みなコーディネートによって、UNGL 連携校の教職員・学生が昨日初めてあったとは思えないほど積極的にコミュニケーション、リーダーシップトレーニングに取り組む姿が印象的であった。2人で行うワークから、多人数、最終的には全員（100人強）で一体感を醸成していくチームビルディングの秘訣を、身体を使ったアクティビティから学ぶことができた。そして、講師自らが積極的に楽しむ姿勢に多くの参加者が気付きを得たようだ。



平成 25 年度

学生リーダーシップ・カンファレンス

報告者	京都外国語大学外国語学部 岸岡 洋介																																																			
出張期間	平成 25 年 12 月 14 日（土）～15 日（日）																																																			
実施先	京都外国語大学・短期大学																																																			
参加者	1 日目：12 月 14 日（土）																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>学生</th> <th>教職員/一般</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>24</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>24</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>38</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>21</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>18</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>横浜国立大学</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>名城大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>一般参加</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>171</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	学生	教職員/一般	愛媛大学	24	6	松山大学	24	2	広島経済大学	38	3	京都外国語大学	21	9	九州国際大学	18	2	香川大学	10	4	佐賀大学	1	2	京都文教大学	10	2	山口大学	11	1	京都光華女子大学	2	4	追手門学院大学	8	2	愛知みずほ大学	1	2	横浜国立大学	1	1	名城大学		1	一般参加	2	2	合計	171	43
	大学名	学生	教職員/一般																																																	
	愛媛大学	24	6																																																	
	松山大学	24	2																																																	
	広島経済大学	38	3																																																	
	京都外国語大学	21	9																																																	
	九州国際大学	18	2																																																	
	香川大学	10	4																																																	
	佐賀大学	1	2																																																	
	京都文教大学	10	2																																																	
	山口大学	11	1																																																	
	京都光華女子大学	2	4																																																	
	追手門学院大学	8	2																																																	
	愛知みずほ大学	1	2																																																	
横浜国立大学	1	1																																																		
名城大学		1																																																		
一般参加	2	2																																																		
合計	171	43																																																		
	2 日目：12 月 15 日（日）																																																			
	学生：119 名（愛媛大学、松山大学、広島経済大学、京都外国語大学、京都文教大学、）※事前申込時人数（実際の人数は若干減少）																																																			
	教職員：18 名（愛媛大学 2、松山大学 2、広島経済大学 3、京都外国語大学 6、香川大学 4、名城大学 1、）																																																			
	合計：137 名																																																			
内容	UNGL 連携校それぞれの大学行事等の関係で参加人数にばらつきはあるものの、前年度に続く第 2 回目の UNGL 連携校全てが参加するリーダーシップ・プログラムを平成 25 年 12 月 14 日（土）～15（日）の 2 日間で開催した。具体的な活動内容は以下のとおりである。																																																			

12月14日(土)

○開会式 13:00~13:15

会場校である京都外国語大学・短期大学の松田学長による開式の挨拶の後、UNGL 事業実施責任者である愛媛大学の秦教授より UNGL 事業の概要について報告があった。



京都外国語大学松田学長による開会挨拶



秦教授による UNGL 事業の説明

○各大学活動報告 13:20~14:40

平成 24・25 年度に UNGL で実施されたプログラムの中から、「リーダーシップ・チャレンジ in 韓国 (3 月)」「リーダーシップ・チャレンジ in 台湾 (8 月)」、「学生リーダーズ・サマースクール (9 月)」、「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (9 月)」に参加した学生、学生スタッフによる「UNGL 連携大学学生による活動発表」が行われた。

【学生リーダーズ・サマースクール】

参加者発表：佐賀大学 木村 悠作(2 回生) , 松山大学 谷口 拳人 (2 回生)

学生スタッフ発表：愛媛大学 山本 祥大 (2 回生), 片岡 悠 (2 回生)

【リーダーシップ・チャレンジ in 韓国】

参加者発表：九州国際大学 浅田 隼平(4 回生), 岩元 美久 (2 回生)

【リーダーシップ・チャレンジ in 台湾】

参加者発表：山口大学 野尻 佳奈子(M1 回生), 田中 菜月 (4 回生), 宇野 穂泉 (1 回生)

【リーダーシップ・チャレンジ in サイパン】

参加者発表：広島経済大学 末益 英樹(4 回生) , 追手門学院大学 清水 菜未 (3 回生)

学生スタッフ発表：京都文教大学 多島 愛理 (OG), 京都外国語大学 足田 朝彦 (4 回生), 井上 達也 (4 回生)



各大学活動報告に対するコメント (アンケートから一部抜粋)

- ・同じ立場でありながら、工夫をこらしたプレゼンをしてくれたからよい刺激になった。
- ・どの学生のそれぞれ色を持っていて、自信をもって研修報告をしていたのでとても有意義であった。
- ・皆さん目がキラキラしていて、熱血さ、その企画の有意義さが伝わってきた。

- ・学生の熱意が十分に伝わった。ただし、聞く側のニーズに充分対応できていたかは不明。それぞれの発表で焦点が違っていたこともあるため、次回からは最低限参加者に与えるべき情報は何かを絞っておいた方が良いと思う。
- ・学生のプレゼンとは思えないほどレベルが高かった。
- ・学生のみなさんは自分と年齢がたいして変わらないのにもかかわらず人前で身ぶり手ぶりを交えながらとても堂々と発表されていてとても感動しました。

○ポスター・セッション 14:40~15:30

各大学で活発に行われている学生活動の発表として「ポスター・セッション」が行われた。地域とふれ合い型のイベント（大人としゃべり場、プロスポーツによる地域活性化プロジェクト等）や大学独自の取組み（ナショナルウィーク、学内カフェ、ELS 等）、世界を舞台にした活動（インドネシア国際貢献プロジェクト等）、ピアサポートなど、多彩な活動が発表され、他大学の活動を目の当たりにした参加者は、質疑応答などで大いに盛り上がった。

（発表大学）広島経済大学、京都光華女子大学、香川大学、松山大学、愛媛大学、九州国際大学、京都外国語大学・短期大学

ポスター・セッションに対するコメント（アンケートから一部抜粋）

- ・他大学の話をきいて自大学でも取り組んでみたいものがありました。興味をそそられるものがありました。
- ・皆さん、色んな活動をされていることがとても刺激になった。
- ・様々な大学が特色をもった活動をしており、交流がより深い意義をもったと思います。次回からはもっと広い場所ですて欲しいです。
- ・発表活動で知り合った人が1年間どんなことをしていたのか知れた。
- ・回数を積む毎に自信がついた。



○シンポジウム 15:30~18:30

テーマ：「社会が求めるリーダーシップって何？ ～大学で身につけるリーダーシップ～」

シンポジスト：

深澤 晶久氏（株式会社資生堂 人事部人材開発部長）

林 まゆみ氏（元国際赤十字赤新月社連盟 Water and Sanitation Delegate）

松下 紗耶未氏（国立スポーツ科学センター職員 元アーチェリー・オリンピック代表）

指定討論者：村田 晋也氏（九州国際大学 経済学部）

コーディネーター：村上 正行氏（京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター）

シンポジウムでは、企業、NGO/国際機関、アスリートという様々なジャンルのパネリストをお呼びし、自身のキャリア形成にまつわる経験談や、リーダーに求められる資質など、多彩な視点から講演いただいた。深澤氏や林氏からは企業や国際機関で必要とされる力についてじっくりお話を聞くことができた。また、若くして海外に出た松下氏からは、自身のキャリアを振り返りながら、早くから自立しキャリアを積む上で必要な力について話を聞くことができた。

続くフロアディスカッションでは、各大学からの参加者が混合でグループを作り、上記講演から得られた学びや気づき、質問事項などの活発な議論が行われた。

フロアディスカッション後は、九州国際大学の村田先生の指定討論を経てパネルディスカッション、質疑応答を行った。本シンポジウムでは、SNS (twitter) を活用した質問収集システムを採用していたため、フロアディスカッションと SNS からの質問から「大学時代にやっておけば良かったこと」など、今の学生にとってリアルな情報も得ることができた。大学時代にやっておけば良かったことについて、パネリストの方々が一様に「もっと勉強をしておけば良かった」という発言をしていた点については、非常に考えさせられるものがあった。

シンポジウムに対するコメント (アンケートから一部抜粋)

- ・リーダーシップのこのみならず就活から生き様まで話を聞いたのでよかった。
- ・経験を踏まえた上でのお話だったので伝わりやすかった。特に深澤さんの60%主義というお話はとても印象的だった。リーダーとして自分だけでなく周りのことを考え巻き込んで引っ張っていくことが大事だと改めて気づいた。
- ・色んな立場の人のお話、体験談、意見等をたくさん聞いて将来のビジョンが見えた気がした。
- ・これからのリーダーシップがどのように培われるべきかの道標になりました。
- ・経験談の中にもいくつかキーワードがあって、大事なことはあったが、もっと周りの環境や状況、私たちに向けてのアドバイスのようなものが聞きたいと思った。



○ミニセッション・情報交換会 19:00~21:00

【ミニセッション ー京都で触れる日本文化ー】

グローバルな社会で活躍するリーダーとなるためには、自国の文化を知ることが重要であるということ、また京都ならではの企画ということで、「京都で触れる日本文化」と題したミニセッションを行った。尺八奏者の臼井風山氏と箏奏者の仲山暢香氏を講師にお招きし、尺八、箏の歴史的背景等のレクチャーから演奏までを行っていただいた。



その後、佐賀大学山内講師挨拶の後、情報交換会を行った。これまでのUNGL研修で知り合った仲間との再会、また新たな学生リーダーとの出会いが生まれるなど、非常に良い雰囲気であった。

12月15日(日) ワークショップ 11:00~14:00

テーマ:「五感で学びあう“グローバル”～多様な文化を知ろう～」

講師: 京都外国語大学学生+留学生 合同企画

グローバルな社会でリードしていく人材となるためには、自国文化の知識を獲得し、その理解を深めることが重要であり、外国人学生にとって日本の文化を深く知ることは、視野および活動範囲の拡大が期待できる。今回の学生リーダー研修では、京都外国語大学のプロジェクト科目の学生(54名、うち外国人29名)が中心となり、授業で学んでいる日本の伝統産業(友禅染と日本酒)を楽しく、かつ深く学ぶこととした。さらに、茶道部の支援を借りて茶道体験を行い、切り絵にもチャレンジしてもらうことで、さまざまな日本文化を実践することによって深めてもらうことを目的とした。

「友禅染」、「切り絵」、「日本酒」、「茶道」、「Happy Memory」の5ブースに分かれ、30分ごとにブース移動をし、すべての日本が誇る伝統産業や文化を体験してもらった。なお、Happy Memoryとは、体験したそれぞれの活動を振り返り、学びを共有するスペースのことで、それぞれの感想を書いた付箋紙を、用意したボードに貼り付けたり、活動写真のライブ展示を行ったりした。

多くの日本人学生にとって、それぞれの活動について、じっくりと時間をかけて体験したことはほとんどなく、改めて日本文化の奥深さを体験する契機となったようだ。また、外国人学生(特に主催した京都外国語大学の留学生)にとっては、自らが学んだ日本文化を通じて他大学の学生たちのおもてなしをするという経験はとても新鮮なもので、主催する学生側にとっても非常に学びへとつながった。この研修に結びつけるまでには、授業以外にも多くの時間を日本人学生との共同で企画等の検討を行う必要もあり、イベント実施にかかるプロセスも非常に勉強になった。改めて体験してくれた連携各校の学生・教職員の皆さまに感謝申し上げたい。

学生リーダー研修に対するコメント

- ・たくさんの文化体験をありがとう。初体験ばかりで楽しかった。
- ・日本文化、あらためていいなって思いました。また来ます!
- ・日本って素晴らしい!抹茶初めて飲みました。以外に美味しかった。
- ・日本酒も抹茶もおいしかった!また飲みたい!日本文化の素晴らしさを再確認できた。
- ・いろいろな人と交流できたことが良かった。日本人より留学生の方がよく日本の文化を知っている。
- ・日本を二時間語れる第一歩となる日だった!
- ・大愛京都外大(京都外大、大好き)
- ・どれもこれも面白い体験ができました。特に、切り絵が苦戦しながらも楽しかったです。他の、茶道や日本酒もすごく良かったです。いい体験でした。
- ・初めて友禅染を体験しました。もっと知識や技術を身につけて自分なりの作品をもっと作ってみたいと思いました。



平成 27 年度

学生リーダーシップ・カンファレンス

実施日	平成 27 年 12 月 19～20 日																																																																
実施先	愛媛大学、松山大学																																																																
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口学芸大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>3</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都工業繊維大学</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>福岡女子大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>26</td> <td>7</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	山口大学	1	1	2	山口学芸大学	1			香川大学	1		1	佐賀大学	1			愛媛大学	6	5	7	松山大学	2	1	15	広島経済大学			2	追手門学院大学	3		10	愛知みずほ大学	1		2	九州国際大学	1		12	京都外国語大学	2		4	京都工業繊維大学	1			福岡女子大学	1		2	その他	5			合計	26	7	57
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																														
山口大学	1	1	2																																																														
山口学芸大学	1																																																																
香川大学	1		1																																																														
佐賀大学	1																																																																
愛媛大学	6	5	7																																																														
松山大学	2	1	15																																																														
広島経済大学			2																																																														
追手門学院大学	3		10																																																														
愛知みずほ大学	1		2																																																														
九州国際大学	1		12																																																														
京都外国語大学	2		4																																																														
京都工業繊維大学	1																																																																
福岡女子大学	1		2																																																														
その他	5																																																																
合計	26	7	57																																																														
研修の目的 および 研修の概要	<p>発足から 4 年目を数える大学間連携共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム (UNGL)」は、学生のリーダーシップを段階的・体系的・継続的に養成するため、多くのプログラムを展開・実施してきた。これまで、延べ 2,000 名を超える大学生がそれらのプログラムを受講しているが、その中で彼らが培う「<u>リーダーシップに関する知識・態度・スキル</u>」は、<u>実社会において本当に有用なものなのであろうか</u>。このような問題意識に基づき、本カンファレンスでは、現役 UNGL 学生による活動報告と、それらを通じて自らのリーダーシップがどのように伸長したのかに関する考察を加えたポスター発表を実施する。その後、教育や経営等の第一線で活躍する方々をゲストに迎え、UNGL 研修を複数経験して大学を卒業し現在は社会人として働く OB/OG、連携大学の教職員とともに率直な意見交換・討論を行う。現役 UNGL 学生は、これら社会でアクティブに活動する諸先輩方の生の声を聞き、現在自らが取り組むリーダーシップ養成研修の意味や意義を再確認し、取り組みへのさらなる動機付けを得ることを目的とする。</p>																																																																

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

1. スケジュール

月日	時間	内容
12月19日(土)	12:00	◆開会式
	12:15～ 13:00	◆アイスブレイク
	13:00～ 14:00	◆UNGL 教職員によるシンポジウム ・ UNGL が養成する“リーダーシップ”とは何か(講義) ・ 連携校における先進事例の紹介(事例報告)
	14:00～ 16:00	◆学生セッション(ポスターセッション)
	16:00～ 18:00	◆UNGL 学生・OB/OG による自主セッション
	18:30～ 20:30	◆情報交換会
12月20日(日)	9:30～ 10:30	◆学生セッション(オーラルセッション)
	10:30 ～ 11:30	◆トップリーダー・シンポジウム 「持続的に成長するリーダーとなるために」 【講師】 ・ 安野舞子氏(横浜国立大学大学教育総合センター・准教授) ・ 和栗百恵氏(福岡女子大学国際文理学部・准教授) ・ 大藤崇氏(株式会社エイトワン・代表取締役社長)
	11:30～ 12:30	◆パネル・ディスカッション
	12:30～ 13:00	◆閉会式

2. 主立った取組内容

・ UNGL 教職員によるシンポジウム

UNGL の実施するリーダーシップ研修に参加する学生・教職員と共に、本プログラムが養成する「リーダーシップ」とは何か、それをどのような手法で開発しようと取り組んできたかを概説し、参加者各位のこれまでの学びについて整理すると共に、さらなるチャレンジへの動機付けを得ることを目的にディスカッションを行った。また、本カンファレンスの期間中、ラーニング・パートナーとして活動するグループを作り、2日間の学びを体系化する仕掛けを施した。



・学生セッション（ポスターセッション）

過る1年間に、UNGL 学生が取り組んだリーダーシップ研修の経験、およびそこから得た学びを学内外でどのように応用し、リーダーシップの発揮に努めたか等について、ポスター形式で発表した。全15チームが参加し、出席者はそれぞれの発表から実践的なリーダーシップのあり方について学び、自らの活動へのモチベーションを刺激された様子であった。



・OB/OGによるセッション

UNGL での活動を経て実社会へエントリーし、すでに社会人として活躍している5人の先輩が、それぞれの仕事について、またUNGLで得た学びが現在どのように役立っているかについて、さらには今後現役生が在学中にどのような挑戦をするのが良いか等についてトークライブ形式で発表を行った。一足先に社会で働くOB/OGの言葉は実践に裏打ちされたものであり、現役生たちは注意深く耳を傾けた。



・学生セッション（オーラルセッション）

1日目のポスターセッションでの優秀発表者4組が、2日目午前のオーラルセッションに登壇した。ポスターセッションと異なり、ステージ上での発表に緊張する様子も見られたが、総じてどのグループも自分たちの経験とリーダーシップに関する学びを整理してプレゼンテーションを行うことができた。



・トップリーダー・シンポジウム、パネル・ディスカッション

実社会の第一線で活躍する3人の先生方をお招きし（うち2名：安野舞子先生・和栗百恵先生はUNGLのステークホルダーである一般社団法人大学教育学会からご推薦をいただきました）、教育界・実業界でそれぞれご活躍のお立場から、ご自身の考えるリーダーシップについて、また学生セッションをご覧いただいた上で、UNGLの養成するリーダーシップ



の今後の展開について示唆に富む講義をいただいた。また、シンポジウムに引き続いて行ったパネル・ディスカッションでは、出席学生からお三方への質問が相次ぎ、今まさにリーダーシップを発揮している先生方から貪欲に学ぼうという姿勢が垣間見えるひとときとなった。

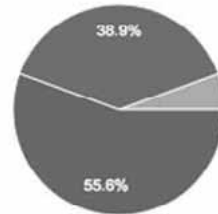
出席者の集合写真



アンケート結果

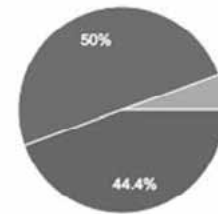
1) 本カンファレンス全体の満足度

とても満足した	55.6%
満足した	38.9%
どちらとも言えない	5.6%
あまり満足していない	0.0%
全く満足していない	0.0%



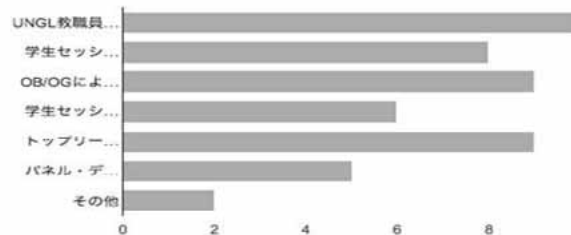
2) 本カンファレンスは、あなたの「リーダーシップ」に関する見方・考え方を整理し、さらなる成長を目指す上で役に立ったと感じますか？

とても役に立った	44.4%
役に立った	50.0%
どちらとも言えない	5.6%
あまり役に立たなかった	0.0%
全く役に立たなかった	0.0%



3) 次のプログラムのうち、あなたの（学生の）リーダーシップに関する理解を伸長し、さらなる取組へのモチベーションに影響したものを全てを選択してください。

➤ 教職員によるシンポジウム	55.6%
➤ 学生セッション ポスター発表	44.4%
➤ OB/OGによるトークライブ・セッション	50.0%
➤ 学生セッション 口頭発表	33.3%
➤ トップリーダー・セミナー	50.0%
➤ パネル・ディスカッション	27.8%
➤ その他	11.1%



プログラムの
成果

	<p>4) 学生のコメントより (一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のカンファレンスでは、UNGL の教育理念、各大学によるポスターセッション、OB・OG のトークショー・トップリーダーの講演会などたくさんの『リーダーとは』ということを考えるセッションがあった。その中で、他の人の意見と、自分の意見を練り合わせていくことで大きな学びとなった。 ・パネル・ディスカッションや他学校の学生の話聞くことでグローバルな考え方を深めることが出来ました。学んでいること吸収したことが全く違う人々だからこそ新鮮味を感じ、興味深くお話を聞くことができました。 ・リーダーシップチャレンジに参加したものの、その後自分が目指すリーダーシップについて頭の中で漠然としていたため、整理するいい機会となり、無事整理できた。 ・UNGL の研修では知れないリーダーシップ理論やさまざまな視点からのリーダーシップの見方があり、学生から社会人までの意見が聞けることで自分の考えと見比べることができる場であった。 ・教職員によるシンポジウムでは、リーダーシップの基礎を学び直すことが出来た。ポスターセッションでは全てを見ることは出来なかったが、先輩方と対話しながらサマースクールでの余談などが聞け、その中でも新たな発見等があり良かった。OB/OG によるトークライブ・セッションでは現在社会人の生の声が聞け、社会に出てからどのように UNGL の活動が役に立つのか等、様々な話を聞くことが出来た。口頭セッションでは、上手なプレゼンの仕方を生で見ることが出来良かった。私達の大先輩のお話を聞くことが出来たトップリーダー・セッションでは、普段聞くことの出来ない貴重なお話を聞くことが出来た。 ・関係者の方々、お疲れ様でした。みなさんのおかげで自分を見直すいい機会を頂きました。また違う場所でお会いする事になると思いますが、お互い刺激しあえるよう頑張っていきましょう。ありがとうございました。しかし今回のカンファレンスでは時間配分だけが気になりました。全ての項目でもう少し時間を長く取れたらよかったのかと思います。ただ都合上出来なかった事もあるでしょうが、もし可能ならば次回はもう少し多めに時間を取ってもらえると嬉しいです。 ・カンファレンスを通して、知り合った仲間達の顔を見る事が出来てお互いに近況報告が出来てとても喚起される活動でした。パネル・ディスカッションでは、発表のような形になっておりディスカッションでは無かった。特にオーディエンスとのセッションとは言えなかった。トップリーダーの話聞いて経験された中での学びを講演されてとても関心のある内容で記憶に残り考えさせられました。このような経験を日常でも発揮して行きたいと思えた。
報告者	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 村田 晋也

平成 28 年度

学生リーダーシップ・カンファレンス

実施日	平成 28 年 11 月 26 日（土）～27 日（日）																																																																																																				
実施先	京都外国語大学																																																																																																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>26 日 （土） 学生</th> <th>26 日 （土） 教職員/外部</th> <th>27 日 （日） 学生</th> <th>27 日 （日） 教職員/外部</th> <th>26・27 日 OB/OG</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>5</td> <td></td> <td>6</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>32</td> <td>2</td> <td>44</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>摂南大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>愛知みずほ大学</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学・ 短期大学</td> <td>23</td> <td>2</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大阪商業大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>神田外語大学</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>外部（企業参加）</td> <td></td> <td>14</td> <td></td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>68</td> <td>20</td> <td>105</td> <td>28</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>					大学名	26 日 （土） 学生	26 日 （土） 教職員/外部	27 日 （日） 学生	27 日 （日） 教職員/外部	26・27 日 OB/OG	愛媛大学	5		6	1		追手門学院大学	32	2	44	3	2	京都文教大学	1		6	2	2	摂南大学	1		4			九州国際大学	6	1	6	1		愛知みずほ大学			3	3		山口大学			4	1		松山大学			6	1		佐賀大学				1		京都外国語大学・ 短期大学	23	2	25	5	4	京都光華女子大学		1		1		大阪商業大学			1			神田外語大学				1		外部（企業参加）		14		8		合計	68	20	105	28	8
大学名	26 日 （土） 学生	26 日 （土） 教職員/外部	27 日 （日） 学生	27 日 （日） 教職員/外部	26・27 日 OB/OG																																																																																																
愛媛大学	5		6	1																																																																																																	
追手門学院大学	32	2	44	3	2																																																																																																
京都文教大学	1		6	2	2																																																																																																
摂南大学	1		4																																																																																																		
九州国際大学	6	1	6	1																																																																																																	
愛知みずほ大学			3	3																																																																																																	
山口大学			4	1																																																																																																	
松山大学			6	1																																																																																																	
佐賀大学				1																																																																																																	
京都外国語大学・ 短期大学	23	2	25	5	4																																																																																																
京都光華女子大学		1		1																																																																																																	
大阪商業大学			1																																																																																																		
神田外語大学				1																																																																																																	
外部（企業参加）		14		8																																																																																																	
合計	68	20	105	28	8																																																																																																
研修の目的 および 研修の概要	<p>UNGL では、学生のリーダーシップを段階的・体系的・継続的に養成するため、多くのプログラムを展開・実施し、これまでに延べ 2,000 名を超える学生が参加してきた。そして、UNGL で提供するリーダーシップ養成において重視している「振り返り」を通じて、参加者の多くは、研修後も大学を越えたつながりを維持し、良きライバルとしてその後の自己研鑽につなげている。そこで、本カンファレンスでは、研修を終えて各地に散らばった仲間に出会い、さらに刺激をし合う場、そして、UNGL 未経験者など新たな仲間との交流を通じて、さらなる刺激を得るための場を提供することを目的とした。</p> <p>内容は、数々の UNGL 研修に参加し、参加者からスタッフ、さらにはリーダーシップ研修企画にも関与する成長を遂げてきた卒業生 OB/OG をパネリストに迎えた「パネルディスカッション」、そして、各大学の UNGL 経験者有志が、これまでの UNGL での経験を理論と結びつけながらまとめたリーダーシップ・セミナーを披露する「L-1(Leadership-1)グランプリ」を行った。</p>																																																																																																				

プログラムの
具体的な内容・
実施日程

【カンファレンス全体スケジュール】

日程	時間	取組内容
11月26日 (土曜日)	18:00	前夜祭 (The eve of conference)
11月27日 (日曜日)	9:00	受付
	9:30	開会式
	9:40	アイスブレイク
	10:00	OB/OG パネルディスカッション
	13:00	L-1 グランプリ (Leadership - 1 Grand Prix)
	16:00	振り返り および 集計タイム
	16:45	閉会式

○UNGL OB/OG パネルディスカッション
(パネリスト)

- ・森田 諒亮 (追手門学院大学 平成 27 年度卒)
- ・今井 実春 (追手門学院大学 平成 27 年度卒)
- ・安田 亮太 (京都文教大学 平成 27 年度卒)
- ・井谷 隼兵 (京都文教大学 平成 27 年度卒)
- ・西川 晃平 (京都外国語大学 平成 26 年度卒)
- ・川上 知恵美 (京都外国語大学 平成 27 年度卒)

UNGL で数々の経験 (参加者、学生スタッフ、研修企画等々) を積んだ卒業生 OB/OG をパネリストに迎え、パネルディスカッションを実施した。UNGLらしい無茶ぶりの自己紹介“1人1分で印象に残る自己紹介をせよ”から始まったが、OB/OG たちはさすが UNGL で鍛えられただけあって、見事な対応で会場を沸かせてくれた。

第1部では、「UNGL での経験から得た学びを探る」ということで、大学生時代に実際に UNGL の研修参加者として、また学生スタッフとして関わる中で、どのように自分自身の変化が起きたのかというところを話してもらった。特に、参加学生から学生スタッフへとステップアップする際のパネリスト自身の心の変化や、共に学んだ仲間と刺激し合っているリアルな体験談に参加者は聞き入っていた。第2部では、「UNGL での経験はいかに社会で役立つか」ということで、社会人 1~2 年目の OB/OG たちの生の体験談を聞いた。まだ社会人になってからの経験が浅いということで、今はがむしゃらに目の前の仕事を自分なりにこなしていくことで精一杯という回答が多かったのは致し方ないとしても、その中でも、自分の上司に合わせた仕事のやり方を模索している点や、自分なりの創意工夫で仕事をやり易くするなど、自らの状況をしっかり把握しながら動いているという点では、UNGL で培われた臨機応変さが活かされていることが伺えた。第3部では、「後輩の育成、デレゲーション (Delegation)」ということで、特に今回参加している現役大学生に向けたアドバイスという観点から体験談を話してもらった。今回のパネリストは、各大学でもリーダー格として UNGL 事業を推進する立場にあったため、非常に示唆に富んだアドバイスを聞くことができた。特に、後輩育成を考えた上で欠かせない「コミュニケーション」の問題や、どこまでを教えて、どこまでを自分で考えてもらうのかといった「サポートの範囲・レベル」の問題まで、幅広いアドバイスをもらうことができた。その後の質疑応答では、会場の後輩学生たちから多くのアドバイスを求める声が届き、OB/OG たちが自らの経験等をもとに、親身になって回答する姿が印象的であった。



OL-1 グランプリ (Leadership - 1 Grand Prix)

これまで UNGL 研修等で身につけてきたリーダーシップ (経験) を、より深めることを目的として「L-1 グランプリ」を実施した。UNGL のリーダーシップ養成では、ファーストステップとして、リーダーシップに関する自らの長所や課題を知る段階、セカンドステップとして、知ることができた自らの長所や課題をさらに伸ばす／克服する段階、そして仲間のため、後輩のためにそれら学んだリーダーシップを教える段階という 3 段階のステップ (「知る」→「できる」→「教えることができる」) によって、成長機会が用意されており、この L-1 グランプリは、まさに「教えることができる」段階へのチャレンジである。参加資格を得た 12 チームが 3 会場に分かれ、それぞれ 30 分間のリーダーシップ・セミナーを実施し、UNGL オリジナルのルーブリック評価によってもっとも多く得票数を得た 3 チームに最優秀賞を授与した。

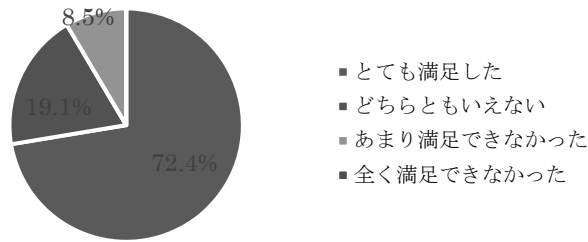
【各チーム名 (大学) : セミナー名】

- ① トリ&オチ (愛媛大学) : 『オーシャンズ 11 カ ～トリ&オチ オリジナルの PM理論をレクチャー!～』
- ② 1 J G I S (追手門学院大学) : 『主体性が創り出す日本一のインターンシップ』
- ③ 食べても食べてもお腹の減る九国食堂 (九州国際大学) : 『空腹力』
- ④ エルマーノ (京都外国語大学) : 『スキップ力』
- ⑤ チーム新参者 (京都外国語大学) : 『対話促進力～本音が作るチームのベクトル～』
- ⑥ grasses (愛媛大学) : 『鈍感力～30 分で変える、人間関係～』
- ⑦ 味噌カツみずほ (愛知みずほ大学) : 『アイスブレイク力～負ける気がしねえ～』
- ⑧ チング (友達) (京都文教大学) : 『自己主張力～in 韓国～』
- ⑨ GLS (ごつつ Lovely Sisters) (京都外国語大学) : 『自分力～誰もが持つ自分の宝石を磨こう～』
- ⑩ トクハイ (追手門学院大学) : 『ユーモア力』
- ⑪ Team passion (追手門学院大学) : 『リーダーシップとは?』
- ⑫ Transformer (愛媛大学) : 『ヘンタイ力～こんな時、あなたならどうする?～』

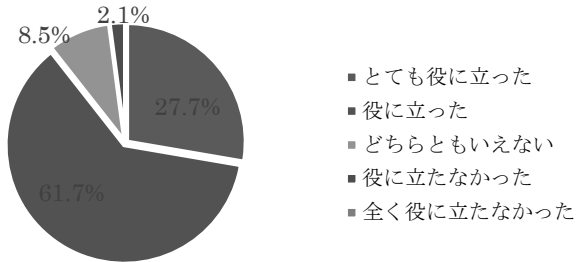


【アンケート結果】 回答率：47%（Web アンケート（終了2週間後））

本カンファレンスは全体として満足のものでしたか？



本カンファレンスはあなたのさらなる成長を目指す上で役に立ちましたか



○上記の理由を教えてください

プログラムの
成果

- ・サマースクールで出会った時と比べて、すごく変わった他大学の生徒を見て刺激を受けた。自分も頑張ろうと思ったから。
- ・自分のリーダーシップの継続学習を行えたこと。他大学との交流は更に自己の発展に繋がるので。
- ・他大学の方と交流することができ、これからの大学生活へのアドバイスももらったから。
- ・いつもと違う環境で、色々な人と喋ることで自分がまだ出会ったことのない人と関わりあえたし、その分自分に足りないところも見いだせることができたからです。
- ・後輩育成に興味があり、OB/OGセッションで後輩育成に必要なことやものなどを仰っていたのでとても参考になりました。
- ・UNGL 学生の学びについて、セミナー形式のL-1 グランプリによって確認できたこと、OB/OGの率直なパネルディスカッションによって、UNGL 学生の学びが実社会で生きていることについて現役生に伝えてもらうことができたこと、それら学生たちの姿をみて、さらに教員側の研鑽を積む必要性を強く感じる事ができたため。
- ・身近な先輩方の話を聞いたのは良かったが、もう少し社会経験の長い先輩方の話を聞きたかった。
- ・本学の学生が参加していないため、自分自身の教育的な指導力を向上させるための具体的な機会にはならなかったため。
- ・「学生が成長する仕組み」の作り方、仕掛けの設け方など、直接触れて学ぶことができました。なにより、UNGLの仕組みと熱意や勢いにより、事前準備から、自分が取り込まれていく感覚に喜びました。ありがとうございます。
- ・OB/OGの方のお話を聞き、キラキラした姿に私もあんなふうに成長したいと改めて刺激を受け、後輩の育成についても知ることができたから。また、先輩や同期のセミナーを受け、実践したいリーダーシップを見つけることができたため。
- ・同世代の人や先輩の話やプレゼンを聞くことで負けていられないという意識になりました。参加者として出会いが広がり次回もまた参加したいと思いました。
- ・UNGLで培った能力を、無意識のうちに業務の中で発揮していたと再確認できたから。
- ・教職員が積極的に密に学生とかかわる様子を見て、今後の学生との関係づくりの参考にしたいと思いました。

報告者

京都外国語大学 外国語学部 岸岡 洋介